

JFA news

特集

日本サッカーの 未来を築く指導者

木村康彦 JFA指導者養成ディレクター

指導者への道

北嶋秀朗 クリアソン新宿

佐藤篤 アスルクラロ沼津

乙田晃太郎 ギラヴァンツ北九州

後藤三知 マイナビ仙台レディース

ユース指導者に突撃

田先惺奈 FC NOMADE

渡邊漣 北海道文教大学附属高校

読者アンケート実施中

抽選で日本代表サイン入りユニフォームが当たる

8 NO.496
2025
月情報号





F50



スピード、爆烈。



アディダス 最新スパイクはこちらをチェック



特集

日本サッカーの未来を築く指導者



©2025 FIFA

CONTENTS

004 **木村康彦** JFA指導者養成ダイレクター

007 **指導者への道**

北嶋秀朗 監督 (クリアソン新宿)

佐藤篤 アカデミーコーチ (アスルクラロ沼津)

乙田晃太郎 U-18GKコーチ (ギラヴァンツ北九州)

後藤三知 選手 (マイナビ仙台レディース)

014 **ユース指導者に突撃**

田先惺奈さん (FC NOMADE)

渡邊漣さん (北海道文教大学附属高校)

日本代表

050 **SAMURAI BLUE**

東アジアE-1サッカー選手権2025決勝大会 韓国

052 **なでしこジャパン**

東アジアE-1サッカー選手権2025決勝大会 韓国

054 **デフフットサル男子日本代表 / 女子日本代表**

デフフットサルワールドカップ2025(イタリア)

大会・試合

055 **FIFAクラブワールドカップ2025**

特別企画

057 **WEリーグ、5シーズン目に向けて**
安達健WEリーグ専務理事インタビュー

060 **JFA PARTNERSHIP PROJECT for DREAM**～サッカーを通じた価値共創
茂木邦彦JFAパートナー事業部部長インタビュー

連載

018 新・短期連載 **フットボールがつなぐもの**
「第1回・ジェフ千葉レディースの取り組み」

020 隔月連載 **メディカルROOM**
「育成年代の貧血」

021 隔月連載 **サッカー心育論**
中山雅雄
「『遊び』があっていいはず」

022 隔月連載 **No Football, No Life**
山本真理
「国内外の仲間たちと研さんを積んでいきたい」

024 **いつも心にリスペクト**
大住良之
「スポーツの特別なシーン」

JFAの理念

サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。

JFAのビジョン

サッカーの普及に努め、スポーツをより身近にすることで、人々が幸せになれる環境を作り上げる。

サッカーの強化に努め、日本代表が世界で活躍することで、人々に勇気と希望と感動を与える。

常にフェアプレーの精神を持ち、国内の、さらには世界の人々と友好を深め、国際社会に貢献する。

JFAのバリュー

エンジョイ◎スポーツの楽しさと喜びを原点とすること

プレーヤーズファースト◎選手にとっての最善を考えること

フェア◎オープンかつ誠実な姿勢で公正を貫くこと

チャレンジ◎成長への高い志と情熱で挑戦を続けること

リスペクト◎関わりのあるすべてを大切に思うこと

※本誌の記事・写真・図表などの無断転用を禁じます。
表紙・目次および本誌内のクレジットの記載のない写真は
©JFA、©JFA/PR、©J.LEAGUE、©WE LEAGUE、
©F.LEAGUE、©Walrix



JFAは社会課題解決に向けた活動「アスパス!」に取り組んでいます。これは“地球(earth)の未来(明日)のために私たち(us)がつなぐパス”の意を込めた造語でサッカーファミリーが世代や時代を超えて“パスを繋いでいく”という強い決意を表現しています。

読者アンケートにご協力ください
抽選で日本代表選手のサイン入りユニフォームをプレゼント! 詳細は16ページ。
回答締切: 2025年9月16日(火)

dunhill



「特集」日本サッカーの未来を築く指導者

学んだ先に見えるもの

日本サッカー協会（JFA）は2023年にユースB、2024年にエリートユースAを新設した。また、指導者ライセンスの見直しと整備を図り、2023年にはC・Dライセンスを15歳から取得できるようにし、サッカーへの理解やトレーニングの意味への理解を促すとともに、早い段階から「指導者」というパスウェイを切り開く機会を提供できるようにした。指導者養成講習会も参加者が主体的に学べるような内容に変わっている。今号では、JFAの指導者養成事業について木村康彦JFA指導者養成ダイレクターに聞くほか、各カテゴリー・分野で活動する指導者にインタビューを実施。指導者ライセンスを取得した高校生たちにも話を聞いた。



皆さんと一緒に充実した場をつくり、レベルアップしていけるように

日本サッカー協会（JFA）が目指す指導者ライセンスの在り方、現状の指導者養成の課題や今後のビジョン、また欧州サッカー連盟（UEFA）のライセンスとの互換などについて、木村康彦 JFA 指導者養成ダイレクターに話を聞いた。

取材日：2025年7月7日

指導者の量と質を担保していきたい

— 2024年2月にJFA指導者養成ダイレクターに就任されました。これまでを振り返っていかがでしょうか。

木村 早くから指導者養成の重要性を理解してきた先人の方々の素晴らしい取り組みにより、今の指導者養成があります。私個人としては責任の重さを感じており、もっと向上させなければと思っっています。JFAの指導者養成はアジアではトップレベルだと言えますが、世界の先進国に追い付き、追い越せとの思いでさらなる充実を目指しています。

— 指導者養成の重要性は世界的にも認識されていると。
木村 欧州サッカー連盟（UEFA）から遅れること20年、アジアサッカー連盟（AFC）による「AFCコーチングコンベンション

（※1）が2018年にスタートしました。AFCの加盟協会・連盟（MA）も指導者養成に力を入れ、さまざまな取り組みを行っています。FIFAワールドカップ26の予選を突破して初出場を決めたウズベキスタンやヨルダンも、背景には指導者養成の充実があり、それが代表強化につながった好事例でしょう。先に挙げた欧州ではさらに進んでいますから、今後も情報をキャッチアップしていかなければと考えています。

※1 AFCのMA間での協定であり、JFAの指導者ライセンスがAFCの認定ライセンスとなる。現在、AFCの47MAのうち、43MAが認定されており、AFCの中では日本が最初にProライセンスまで認定を受けた（Proライセンスまで認定されているのは16MA）

— JFAの指導者養成が目指す姿とは？

木村 誰もが安心・安全にサッカーを楽しんで成長できる環境と年代やレベルに応じた指導を受けられる環境をつくることを理想に

掲げています。

日本全国にそういった環境を広げるためには、正しい知識を持った指導者が不可欠です。指導に携わる人には指導者ライセンスを取得してもらい、指導者の量と質を担保していきたいと考えています。

われわれが世界トップの指導者養成を目指す中で、日本の指導者が世界で活躍することも期待しています。そのために、UEFAのライセンスとの互換を目指しており、その道が開ければ、JFAの指導者養成はますます発展していくはずですよ。

「良い学びになった」と参加者に感じてもらったこと

— 指導者ライセンス体系（左図参照）も整い、指導者の登録数も伸びています。

木村 JFA 公認指導者登録制度を創設

した04年と比較すると、サッカー・フットサルともにコアライセンス、育成年代の指導に特化したエリートユースAやユースB、GKやフイジカルフィットネスなど専門的な領域も充実してきました。

登録指導者数も右肩上がりに増え、10万人に到達しようとしています。指導者のニーズに応える形でライセンスをブラッシュアップしてきたこと、またBライセンス以下は47都道府県サッカー協会（FA）で開催できるようにし、生活圏内での取得を目指してきたことも要因の一つだと捉えています。

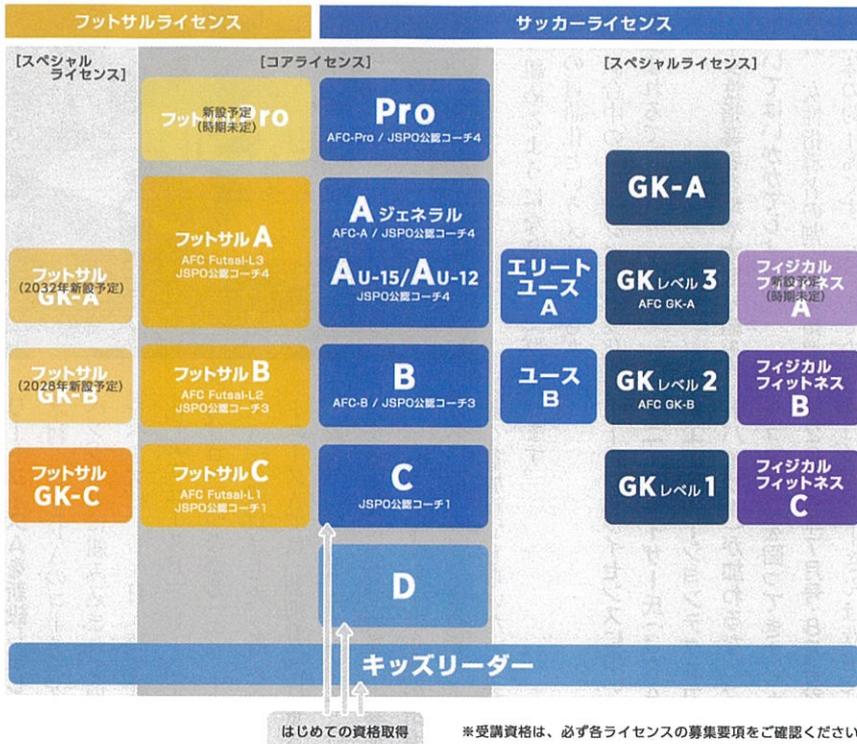


木村康彦
（JFA指導者養成ダイレクター）

指導者養成
インタビュー
編集・日本サッカーの未来を築く指導者

特集 日本サッカーの未来を築く指導者

■指導者ライセンス体系



内訳としては、Dライセンス取得者が半数以上を占めています。U・12年代では登録チームの約98・6%に登録指導者がおり、約66%はCライセンス以上を保有する指導者がいるなど成果が出ています。ただ、JFAが「Bライセンススタンダード計画」(※2)を進めている中で、Bライセンス以上は約1万2000人とまだ十分ではありません。C・Dライセンス保有者をいかに上位ライセンスに引

き上げていくかも課題です。
※2 JFAは選手30人に対してBライセンス以上を保有する指導者が1人以上いる環境を目指している。

——指導者養成講習会において、特に重視されていることは何でしょうか。

木村 講師を務めるチューターに對しては、参加者が主体的に学べる場を提供してほしいと伝えています。チューターが知識を与えたり、教えたりすることもありますが

が、一方通行になってしまっているのではなく、参加者が能動的にトライ＆エラーを繰り返すこと。また他の参加者とのグループワークやディスカッションなどで経験や知識をシェアし、学びや気付きを得るなど、みんなで講習会をつくり上げていこうと。やはり一番は「良い学びになった」「楽しかった」と参加者に感じてもらうことです。

また、自らの指導現場で生かせる知識やスキルを身に付けてもらいたいので、できるだけ現場に即した学びも提供しています。上位ライセンスになれば、自分の指導現場で実践する「クラブワーク」や、チューターが参加者の指導現場に足を運んで視察やフィードバックを行う「メンタリング」などのセッションも設けています。

——学んだことを生かすことが大事だと。

木村 講習会での学びを自分の指導現場で試したり、チャレンジしたりすることで、学びは深まりますからね。上位ライセンスの各モジュールの間には「間の学習」を設け、自分なりにトライして、それを振り返り、その後に参加者同士でシェアするサイクルも構築しています。先に挙げたものも含め、全ての講習会に導入するにはマンパワーや時間も必要ですが、少しでも組み込んでいけるように検討



全国で講習会が開催され、指導者数も伸びている。木村ダイレクターは「現状に満足せず、選手に良い指導を行うためにライセンス取得を促進していきたい」と話す

カリキュラムの改訂や受講年齢も引き下げ

——Dライセンスコースは、基本的に1日で取得可能なカリキュラムに改訂しました。

木村 24年度は年間358コース開催され、実際に取得しやすくなったという声も届いています。セーフゲーディングやスマールサイドゲームに内容を絞ることで、子どもたちが安心・安全にサッカーを楽しみ、成長できる環境づくりを目指そうということをしつかり伝えられているのかなど。指導者のみならず、保護者やサッカー未経験者、高校生や大学生など多様な人たちが参加するという特徴もありますし、終了後は「楽しかった」との感想が多く、良いプログラムが提供できていると自負しています。

——C・Dライセンスは受講年齢を引き下げ、15歳から取得可能になりました。

木村 23年9月から受講年齢を引き下げましたが、高校生が何



全ての講習会で「ラーナースセンタード」「アダルトトレーニング」「リアリティーベースドラーニング」の三つを重視している。「チューターには、参加者に応じて工夫するスキルを求めている」と木村ダイレクター

取り組めるようになります。プレーの言語化というメリットもあり、試合中のコーチングにも変化が生まれるでしょう。

——女性指導者を増やす取り組みについてはいかがでしょうか。

木村 女性指導者の割合は、指導者全体の約4%です。各FAでの女性向けコース開催のサポートを継続しており、昨年はDライセンスが9コース、Cライセンスが5コース開催されました。女性が受けやすいコースの開催を検討していくと同時に、現在は約50人という女性チューターも増員していく考えです。

**選手は欧州で活躍
指導者もそうなるべき**

——23年にユースB、24年にユースAを新設しました。

木村 UEFAのコーチングコンベンションに組み込まれているのをベースに、U-11〜15年代に特化した「ユースB」、U-18年代からプロへとつながる「エリートユースA」を設けました。特にエリートユースAでは「個別育成」に重きを置いていて、コアライセンスとは異なる内容になっています。参加希望も多いですし、同年代の指導者のスペシャリストを目指す人には多く参加してもらいたいと考えています。

——Proライセンスについては、ダニー・ライザー氏(JFAコーチエデュケーションテクニカルアドバイザー)が加わるなどブラッシュアップを図ってきました(本誌2024年7月号・8月号参照)。

木村 ダニーさんは欧州各国でProライセンスのアセスメントを担うなど、指導者養成に精通された方です。われわれの講習会を見ていただき、「日本の指導者養成はトップレベルにある」と言われましたが、一方で多くのアドバースもいただきました。特にリアリティーを追求する部分は改善すべきポイントとして、今年からメンタリングの回数を増やしています。また、プロチームではピッチ内外のマネジメントも大事です。それらをより高められるよう

なセッションも組み込んでいます。——先ほども出ましたがUEFAのライセンスとの互換に向けた取り組みの現状については？

木村 AFCの12カ国を対象に合意がなされる段階にきています。Proライセンス、Aライセンス、ジェネラル、GK・Aライセンスが互換される予定で、実現すれば日本の指導者が欧州で活躍できるパスウェイが開かれます。日本人選手が欧州で活躍することが当たり前になった今、次は指導者がそうなるべきです。すでにプロジェクトチームを立ち上げ、どういったサポートができるのか検討を進めているところです。

レベルアップできる場を提供できるように

——リフレッシュ研修会を含め、ライセンス取得後のレベルアップに向けて改善していきたいことは何でしょうか。

木村 ライセンスを取得して終わりではなく、学び続けられる機会を創出していくことが重要です。各FAでオンラインを活用した座学、ピッチでの指導実践などの研修会を開催していますが、依然、「指導力を高めたい」というニーズが多い。JFAで上位ライセンスにつながるスキルアップ研修会の

募集をかけると、定員の3倍以上の申し込みがあります。また、指導現場で直接アドバイスを受けられるメンタリング制度は非常に有効ですので、それを含めてレベルアップできる場を提供できるように検討したいと思っています。

——ライセンス失効から再認定の要件緩和についても対策を進めています。

木村 例えばCライセンスでは、年間で約200コース開催されていますが、取得者と失効者が同程度で、保有者数が横ばいのみで、失効した理由を見ると、指導現場がない、学生時代に取得しただけで機会がなくて失効してしまうケースなどがあります。JFA技術委員会として、失効後の資格復帰に関する要件緩和について議論を重ね、これまでは特別な理由がなければ資格復帰できなかったところから、年数に応じた再認定費用の納付などを条件に30年は復帰可能としました。一度ライセンスを取れば、それを生かしてもらえぬ形になります。

——最後にサッカーファミリアへのメッセージをお願いします。



ProライセンスはUEFAのエッセンスも取り入れながら進めている。「欧州で日本の指導者が指導するようになれば、夢も広がるし、ステータスも上がってくる。」(木村ダイレクター)

指導者に関する情報はこちら
<https://www.jfa.jp/coach/>



北嶋秀朗 監督

(クリアソン新宿)

多くの刺激を得て学んだことは、
人間性や情熱の大切さ

2013シーズンをもって現役を引退し、指導者ライセンスを取得した。指導者養成講習会を通して指導する楽しさや面白さを学び、2024年5月にS級コーチライセンス(現、Proライセンス)を取得。昨シーズンからクリアソン新宿の監督として指揮を執る北嶋秀朗さんに、指導者養成講習会での学びや指導者ライセンスの意義、指導者として大切にしていることを聞いた。

○オンライン取材日・2025年7月10日

サッカーとともに生きたい
決意した指導者への道

——2013年にロアッソ熊本で現役を引退され、指導者の道を歩まれました。現役時代から指導者への転身を考えられていらっしやっただけでしょうか。

北嶋 現役引退を決意したのは13年の8月頃ですが、その時は指導者になりたいと思っていなかったわけではありません。ただ、選手時代からプレーや戦術を研究して自分のプレーに生かす作業がとても好きで、引退する直前になって大好きなサッカーのことを考えなくなることに怖さを感じたんです。ボールを蹴る音とかも好きで、そういうものが全てなくなってしまうと考えたら、やっぱりサッカーに関わり続けていきたい。そこでサッカーと生きていくには指導者

になるしかない、と決意してサッカーC級コーチライセンス(現、Cライセンス)を取得しました。

——初の指導者養成講習会はいかがでしたか。

北嶋 静岡県で受講したのですが、指導実践はジュビロ磐田のジュニアユースの選手たちを指導するスタイルでした。指導する側になったとき、自分の言葉が選手にうまく伝わらなかったんです。やはり伝え方はとても重要で、何をどのタイミングでどう伝えるべきかを段階的に教えてもらったことは非常に有意義でした。

——S級まではどのように受講されたのでしょうか。

北嶋 あまりスパンを開けずに講習会を受けたいと思っていたので、B級(現、Bライセンス)はC級

を取得した翌年に受講しました。A級(現、Aジュネラルライセンス)もすぐに受講するつもりでしたが、ロアッソ熊本からアルビレックス新潟に移るタイミングと重なって、確か1年くらいたってから受けたのかな。A級を取得してからはチーム事情などもあってなかなかS級を受けられず、2023年に受講して2024年に認定されました。

——C級からS級まで、講習会の内容もアマチュアレベルからプロレベルへとレベルアップしていきます。それぞれ印象をお聞かせください。

北嶋 指導の対象はC級が「個人」「B級が「グループ」、A級が「組織」といった感じで、内容はC級とB級、A級とS級が近い印象がありました。C級とB級は、サッカー



現役引退後、ロアッソ熊本のコーチに就任し、指導者のキャリアをスタートさせた。当時の小野剛監督(写真中央、その後ろが北嶋さん)には、指導者としての選手との距離感、向き合い方などを学んだ

「ダード計画を進めており、指導者には、基礎としてBライセンスまで取得してもらいたいという考えがあります。その重要性についてはいかがでしょうか。」

北嶋 Bライセンスまで受講すれば、サッカー経験の有無を問わず、一般的な指導の考え方はこう、というものをみんなで共有して考えることができます。やはり、選手と指導者は全く違いますし、指導は自分の経験則だけでは通用しない部分がありますから、基礎をしっかり学ぶことが重要だと思います。

仲間と意見をぶつけ合う 尊く楽しい時間だった

——北嶋さんがS級を受講されたとき、受講者を参加者に、インストラクターをチューターに呼称を変え、講習会の進め方も変わりました。変化をどのように感じられましたか。

北嶋 A級のときはインストラクターに教えてもらいながらみんなで作るといった形式でしたが、S級はチューターの人と一緒にゆっくりしていく形に変わっていました。ディスカッションでも参加者の考え方やアイデアをどんどん引き出すような発問が増え、以前の講習会との違いを強く感じました。ポジティブな変化でした。

——S級の講習会で印象に残っていることは？

北嶋 たくさんの刺激を受けましたが、何より参加者同士の横のつながりと仲間意識が強くなったことが一番大きいです。自分のサッカー観をみんなにぶつけて、良い部分と改善すべき部分を話し合う。自分のトレーニングを見てもらって「ここは良かった」と一緒に振り返ることができる。そのサイクルを何度も繰り返すんですけど、その時間が何よりも尊いと思えました。

——それぞれの考え方や引き出しを共有できるのは良いですね。

北嶋 そうなんです。みんなが「隠さずに行こうぜ！」みたいな雰囲気があった(笑)。

——なんだか青春みたいです。

北嶋 ほんとに面白かったですね。信頼関係の下、真剣に意見を言い合うことができましたし、チューターの浮嶋敏さんや奥野僚右さんが、そうやってみんながディスカッションできるような空気をづくり、促していました。

あと印象に残っているのは、一緒に受講した中村憲剛さん(現、フロンターレ)リレーションズオーガナイザー)の、真ん中から崩していくことへのこだわりの強さ

です。中央にボールを入れて技術と勇気が崩していく、という彼の思い入れを感じましたし、技術面の指導もすごく細かくて、それを練習で伝えて選手がどんどん躍動して楽しそうにやっている様子を見て、すごいなと。自分とやり方や考え方も違って刺激になりました。

——モジュールの間には、自身のクラブで指導する様子をチューターが見てフィードバックする「メンタリング」もあります。

北嶋 私はクリアソン新宿での指導を浮嶋さんと奥野さんに見ていただきました。講習会での指導実践はあくまで研修なのですが、自分のクラブでの指導はチーム強化に直結するのでリアルなトライ&エラーが発生し、より現実に沿った適切なフィードバックを受けられます。トレーニングに向けた準備の重要性やアプローチの仕方が正しいかどうか、選手に映像を見せてからトレーニングする方法があるのですが、その効果的な使い方も教えてもらって、今も実践しています。

——プロチームでの研修(海外のプロチームとJクラブのトップチームで実施)は、古巣の柏レイソルを選ばれました。

北嶋 当時は井原正巳さん(現、

Kリーグ・水原三星コーチ)が監督で、チームが残留争いをしていの中で受け入れてくださったことに感謝しています。Jリーグという厳しい戦いを強いられるチームで監督やコーチがどう振る舞っているのかを知りたかったのと、井原さんがトレーニングを分担してコーチに任せていたことにも興味があり、そうしたチームマネジメントも学びたいと思って柏に行きました。

私は、監督が全てのトレーニングを考えて指導することが普通



2023年度S級コーチ養成講習会の同期たちは「それぞれにサッカー観や目指しているサッカーがあった」と北嶋さん。仲間と切磋琢磨の中で考え方や伝え方の幅も広がった

の原理原則を中心としながら、ディスカッションでは本当に細かい部分まで詰めていきます。個人的にはB級がすごく印象的で、カリキュラムの後半から少しA級に近い内容が入る感じだったんです。個人からグループ、グループから組織へと結びつけるために必要な物事の捉え方、言語化のやり方を教わり、「これまで自分が考えていたものに近づいてきた」という実感があつたのを覚えています。A級も戦術を学ぶ時間が多くて刺激の多い講習会でした。

——JFAはBライセンススタン

特集 日本サッカーの 未来を築く指導者

だと思っていたのですが、トレーニングを分担してコーチにオーガナイズから指導まで任せることによってコーチはより真剣に向き合うようになり、責任感も出てきます。実際、柏のコーチに話を聞いたところ、トレーニングを自分ごととして捉えていると言っていました。試合での成果や課題もコーチとシェアしやすくなり、すから、クリアソン新宿でも取り入れているんです。

——海外研修はどちらに行かれたのですか。

北嶋 オーストラリアのシドニーFCに受け入れていただきました。アビスパ福岡に選手として在籍していたウフク・タレイさんが監督に就任されてまだ2、3週間という時期でしたが快く受け入れてくれて、ミーティングやトレーニングにも参加させていただきました。選手とのミーティングでは映像を見せて練習をするというサイクルを繰り返して、伝え方がとても明確で緻密でしたし、そこに言葉の強さや情熱もあるのをすごく感じました。タレイさんもコーチとトレーニングを分担していましたね。コーチや選手との関係性の築き方も勉強になりましたし、自分が考えている監督像にすごく近い方でした。リーグもとてもオーガナイズされてい

て、いつかオーストラリアで監督をやってみたいと思うほど良い経験になりました。

良い指導者とは何か 戦術だけでなく人を大切に

——北嶋さんが思い描かれていた監督像とは？

北嶋 最初は、戦術のことを深く理解してそれを言語化して伝えられる指導者、そして戦術で相手を圧倒する監督になりたいと思っていました。でも、指導を学び、経験をしていく中で変わっていったんです。今は、戦術うんぬんも大事だけれど、それ以前に、情熱を持ってしっかりと心で伝えること、人を大切に思うことを大切にしたいと考えています。

——変化していったのですか。

北嶋 熊本でコーチを始めた当初は、サッカーの知識や戦術をたくさん詰め込み、それを選手たちに植え付けていけば勝てるだろうと思っていました。でも、当時監督だった小野剛さん（現、AFCテクニカルサブダイレクター）から「その考えは正しいけれど、一方で選手のことをどう考えるかがやっぱり重要だよ」と何度も言われました。小野さんの言葉で今も刺さっているのは、「選手と指導者の間には渡ってはいけない川があり、

その川を渡ってしまったら選手からの人気は得られるけれど本場の信頼は得られない。川辺のギリギリのところから一生懸命に手を差し伸べ、選手の手を放さないように支えてあげられるのが良い指導者なんだ」ということ。戦術ももちろん重要ですが、選手を大切に、ピッチで躍動させてあげられるようなマネジメントを心掛けています。

——18年には「KITAJI SOCCER SCHOOL」を創設されました。今も子どもたちを指導されているのですか。

北嶋 参加できるときには顔を出していきます。そこでは私がサッカーを教えるというより、「将来、サッカー選手にはなれなくても夢が破れたわけではないし、夢はいくらでも見つけられる」ということを伝えていきます。

——その言葉にはどんな思いが？

北嶋 子どもたちに夢を聞くと「プロサッカー選手になりたい」と言う子がほとんど。でもプロになれなかったからといってそれは失敗じゃない。子どもたちにはサッカーを楽しく続けてほしいですし、好きでいてもらいたい。いろいろな道や夢があってもいいんだよ、と。そこでまた諦めずに一生懸命やればいい。それはずっと伝えて

います。

——指導者として学び続けるために心掛けていることはありますか。

北嶋 海外の試合などを見て、ピッチで起こる現象に「こういう原則で、こういう戦術でプレーしているからこの現象が起きているんじゃないか」と仮説を立て、それを言語化してアイデアをためておくということが続いています。そうした作業は選手するときから好きでしたので。いろいろな指導者に話も聞きますし、常に学び続ける姿勢を大切にしています。

——クリアソン新宿はJFLを戦っています。北嶋監督が思い描くクラブの未来像を教えてください。

北嶋 クリアソン新宿は、人を大事にし、他者を尊重することを大切にしているクラブです。サッカーを通して世の中に感動や豊かさを届けたという理念を持ち、クラブとして

世界一を目指して戦っている。私はそこに共感し、今、このクラブにいます。勝つことでチームがまとまって強くなるという考え方もありますが、私は、仲間を大切にすることでピッチ上での強さも生まれていくと考えていて、それを信じて指導しています。「甘い」と言われることもあります。チームの絆を深めることで個々も強くなっていく、という道筋をつくっていきたいと考えています。



監督として示す言葉や態度も大事にしている北嶋さん。「チームをマネジメントするには、まず選手を大切にすることが根底になければならない。一緒に前を向いて目標に向かっていくイメージで選手と向き合っている」と話す

佐藤篤さん

(アスルクラロ沼津アカデミーコーチ／ユースBライセンス)

積み重ねてきたものが整理されていく感覚

——これまでのサッカー歴、指導歴を教えてください。

佐藤 大学卒業までは選手としてサッカーに打ち込んでいました。教職課程を履修していたので指導者になろうかなという漠然とした考えはあったのですが、いったん就職して東京都内で働いていました。でも、やっぱり指導者をやりたいという思いが募り、2010年にC級コーチ(現、Cライセンス)を取得し、その翌年に、縁があつて清水エスパルスのスクールコーチになりました。清水には23年まで在籍して幼稚園児から小学生、中学生の指導を担当し、昨年、アスルクラロ沼津

選手を育てるためには 自分自身も向上しなければならぬ

ユースBライセンス(2023年に新設)を取得し、現在はエリートユースAライセンス取得を目指している佐藤篤さんに、ライセンスを取得した経緯、指導者養成講習会に参加して得たことなどについて聞いた。

取材日：2025年7月8日

に移ってアカデミーのU-15、今年はU-10を担当しています。

——指導者を志されたきっかけを教えてください。

佐藤 これまでに素晴らしい指導者の方々と出会い、大きな影響を受けてきましたので、私もサッカーの楽しさを伝える立場になりたいと思っていました。もちろん大好きなサッカーにずっと携わっていききたいという思いもありました。

——指導者ライセンスのことはいつどのように知りましたか。

佐藤 日本サッカー協会(JFA)のホームページでライセンスの存在を知りました。最初は明確な目標があつたわけではなく、指導者としての基礎を幅広く学べ

ると考え、C級からチャレンジしました。10年にC級を取った後、15年にB級(現、Bライセンス)、23年には新設されたユースBライセンスを取得しました。

——指導者養成講習会で印象に残っていることはありますか。

佐藤 C級のときは何もかもが初めてでしたので、練習メニューの作り方から、指導者の立ち位置、ボールの配球の仕方など、全てが勉強になりました。一昨年、ユースBを受講したときには、もちろん新しい学びもたくさんありましたが、それまで指導者として積み重ねてきたものが整理されていく感覚を覚えました。

——選手時代にも指導者像や指導論を抱かれていたと思います



在、アスルクラロ沼津のアカデミーコーチを務める
藤篤さん

が、実際に講習会に参加されてそのときの違いを感じた部分はありましたか。

佐藤 大きなギャップがありました。選手時代にも「こんなことをやればいいんじゃないか」「こんなメニューはどうか」と考えていたのですが、講習会を経てあらためて考えてみると、意外とちぐはぐだったり、メニューとして成立していなかったりする部分が見えました。私がC級を受講した頃は指導教本があり、練習メニューも記載されていた。要点が整理されていて、それを基に講習会で学べたのは良かったですね。

**現場の二歩外に出て
さまざまな刺激を**

——チューター(旧インストラクター)やほかの参加者とコミュニケーションを取られる中で気づいたことや学びになったことなどを教えてください。

佐藤 チューターの皆さんは、指導実践でうまくいかなかったときにはどこを改善すべきかを的確に指摘してくれて、うまくいったと思ったときにもさらなる改良点を示してくれるなど、さまざま

なフィードバックをくれました。参加者は全国各地から集まってきた人たちで、いろいろなレベルやカテゴリーで指導していますので、日常的な会話の中からも気づきはありますし、ピッチで見をぶつけ合って新たな発見を得ることもありました。

——他の参加者から刺激を受けたエピソードはありますか。

佐藤 ユースBライセンスの講習会の参加者の中にはすでにA級(現、Aジェネラルライセンス)を持っている人もいましたので、指導実践の進め方は、同じ参加者の立場ながら勉強になりました。トップチームの指導を経験した人は本当に細かいところを見ていましたし、逆にクラスルーツの指導者の方は成長途上の選手をどう導けばいいかを熟知されていました。いろいろな指導実践の形を見ることができました。

——指導者養成講習会に参加することによって、ご自身のネットワークは広がりましたか。

佐藤 ユースBライセンスの受講生とは今もチャットツールで連絡を取り合っています。個別

に連絡を取ることもありますし、同じカテゴリーの指導者に練習試合を申し込むこともあります。そういうつながりが増えていきましたね。

——ユースBライセンスを取得される前と後で、選手への接し方に変化はありましたか。

佐藤 ユースBライセンスは育成に特化したライセンスです。指導の際、以前より「個人」にフォーカスできるようになったと思います。たとえばポジションニングを指示するときに、以前は「ここに立つんだよ」と直接的に伝えていたのですが、講習会を受けた後は、どこに立てばいいのかを論理立てて導くようになり、選手にも考えさせることを意識するようになった。

——あらためて、指導者ライセンスを取得して良かったと感じる瞬間を教えてください。

佐藤 指導の現場で活用できることが増えた実感しています。現場から得られる学びはものすごく多いのですが、講習会などに参加することでいろいろな刺激を受け、自分の成長を実感できているので、講習を受けて良かったと思っています。

**指導者養成講習会は
自分を見つめ直す機会に**

——2024年に新設されたエリートユースAライセンスを受講される予定はありますか。

佐藤 今、まさに受講しています。ユースBの講習会での学びがとて多かったので、そこで得たことがエリートユースAにどうつながっていくんだろうと興味が湧き、すぐにエントリーしました。エリートユースAはトップエリート育成を目指すライセンスです。メニューも練習や選手へのアプローチの仕方ともユースBとは異なります。選手一人一人を育てていくという視点がありますので、より個人にフォーカスした指導を学ぶことができます。

——指導者として大切にされていることを教えてください。

佐藤 選手を育てるためには自分自身も向上しなければならぬと肝に銘じています。だからこそ講習会で学ぶことやそれ以外の場面でも自分を成長させることをやめなくてはならないと思っています。

——今後の目標を教えてください。

佐藤 これは指導者を始めたときから思い描いている大きな夢ですが、JFAが2050年までにFIFAワールドカップ優勝を目指す中、実際に日本代表が世界制覇を達成したときに、自分もやってきたことが何かしらそこにつながっていればいいな、と考えています。

——最後に、指導者養成講習会を受けてみたいと思っている人や受けようかどうしようか迷っている人に向けてのメッセージをお願いします。

佐藤 私自身は15年ほど指導者のキャリアを歩んでいますが、ずっと現場にいると少し閉鎖的になったり、刺激が足りなくなったりすることがあるかと思えます。指導者養成講習会に参加することで、新しいことを学べますし、学んできたことが整理されることもあります。多くの指導者と関わることで新しい刺激も得られます。指導者ライセンスを取ることが自分を見つめ直す機会になりますし、指導の幅は必ず広がります。

世界が広がり、 充実感を得られる

乙田晃太郎さんは大学院生時代、指導者養成講習会に参加してネットワー
クを広げたという。現在、ギラヴァンツ北九州のアカデミーで指導してい
る乙田さんに、指導者ライセンスを取得した経緯やそのメリットについて
語ってもらった。

○オンライン取材・2025年7月17日



特集・日本サッカーの未来を築く指導者
指導者への道

乙田晃太郎さん

(ギラヴァンツ北九州U-18 GKコーチ
Cライセンス、ゴールキーパーレベル1ライセンス)

C級を受けたときは 不安を抱いていた

私が指導者を志した最初のきっかけは、中学生時代にGKコーチの指導を受けて上達したのを実感したからです。将来は教員になつてサッカー部でGKコーチをやりたいと考え、大学は教育学部に進んだのですが、母親から大学院への進学を勧められ、それなら本格的にGKコーチを目指そうと考え、筑波大学の大学院に進学し、蹴球部の学生コーチを務めました。

大学院では、まずゴールキーパーレベル3コーチライセンス(現、ゴールキーパーレベル3ライセンス)やGKA級ライセンス、女子A級ジェネラルの指導者養成講習会の補助学生をしました。そこでハイレベルな指導実践や講義を見て刺激を受け、在学していた2年の間にC級コーチライセンス(現、Cライセンス)とゴールキーパーレベル1コーチライセンス(現、ゴールキーパーレベル1ライセンス)を取得しました。

恥ずかしさを感じたからです。それでも、プレーを止めて選手をそこに立たせたまま状況を理解させる「フリーズ」や、現象の一つ前の状態に戻す「ロールバック」など、コーチングにおける基本的な手法を学ぶうちに、徐々に自信を深めることができました。

ゴールキーパーレベル1の講習会を受けた当時、筑波大蹴球部では、GKコーチを務めていたスペイン人のジョアン・ミレツさんのメソッドを学んでいました。講習会では日本サッカー協会が掲げる理論や考え方を学ぶことができ、GKとしての考え方に新しい見地が加わりました。非常に有意義でした。

大学院修了後に、ギラヴァンツ北九州のGKコーチに就任したきっかけをつくってくださったのは、ゴールキーパーレベル1の講習会でチューターをされていた方です。「北九州のアカデミーがGKコーチを探しているよ」と連絡いただき、チャレンジすることにしました。

知識や意見をまとめる作業は 新たな視点を得られる

現在、私はBライセンスの講習会を受講しています。前期、中期、後期の三つに分かれているうちの前期が終わり、これから中期に進んでいきます。自分の成長を考えるとAライセンスからBライセン

スにステップアップしていきたいですし、GKコーチとしてフィールドを見る目も養わなければならないと考え、受講しています。

ディスカッションでは、意見を出し合い、それらをうまく融合させて一つの指導案にまとめていく作業があつて、そこに難しさを感じたりもしますが、新たな視点を得られるので、学びになっています。

講習会ではなるべく多くの人と話すようにしています。九州で開催されるコースですので九州の人が多いのですが、遠方から来ている人もいるので、サッカーに限らず、いろいろな話をしようと思っかけています。

これまで、複数のライセンスを取得して本当に良かったと思っております。純粹に楽しいですし、いろいろな人の意見を聞くことで世界が広がるので充実感を得られます。指導の現場で学んだことが実践できているかと言われると、まだまだ努力すべき部分はありますが、元プロ選手やプロの指導者の人々と共に学び、彼らの考え方に触れて刺激を受けられる機会があるのは素晴らしいことです。



「GKコーチとしてフィールドを見る目を養いたい」と乙田さんは話す

コーチングの価値を 体感することができた

WEリーグのマイナビ仙台レディースでプレーする後藤三知選手は今年6月、日本サッカー協会（JFA）主催のCライセンスコーチ養成講習会を受講した。Cライセンスを取得する経緯や講習会での気づき、新たなつながりについて聞いた。

○オンライン取材日・2025年7月22日



後藤三知選手
(マイナビ仙台レディース / Cライセンス)

写真は2024-25シーズンより

©mynavisendai

指導者という選択肢を 自分の中に持つておく

私は大学時代に授業の一環としてサッカーC級ライセンス（現、Cライセンス）の講習会を受講してライセンスを取得したのですが、海外

で活動中に失効しました。WEリーグでは開幕当初から、選手のキャリア形成や視野を広げるため、また、サッカー理解を深めてリーグ全体レベルアップを図るために、プロ契約を結んでいる選手にCライセンス以上を取得することを推奨し

ていて、マイナビ仙台レディースの選手たちもライセンスを持っていました（※）。現役中にBライセンスまで取得した選手もいたんです。私も引退後の進路として指導者という選択肢を考えるようになり、WEリーグのオフ期間を利用して講習会を受けました。

今回、WEリーグや大学女子サッカー、CPサッカー（脳性まひ者7人制サッカー）の選手、GKコーチ、フィジカルトレーナー、3人のお子さんがいる女性など、いろいろな立場の人たちと講習会で学び、刺激を受けました。「サッカーは楽しい」とあらためて心から思えた時間でした。

講習会では、座学と実技を通して、トレーニングのオーガナイズや選手にどう働きかけるか、そしてトレーニングの中で柔軟に対応することの重要性を学びました。チューターの方の指導を見ていると、選手たちにプレーに集中させながらも、獲得させたいスキルはその中でもちゃんとアプローチされていて、いざ自分がするとなるとそれがとても難しく、指導するって簡単ではないんだと。例えば、私がWEリーグのピッチ上でチームメイトにするコーチングと、U-12年代の子どもたちに教えるときのコーチングは、やはり違います。年代やレベルに応じた導き方や伝え方がとても大切で、選手とは異なる視点が求められます。選手を指導するには、指導者としての学びが必要なのだと強く

く感じました。

デイスカッションや指導実践では、難しいことや分からないこと、できないこともありましたが、チューターの皆さんのポジティブな働きかけによって前向きに楽しく学ぶことができました。

（※）後藤選手は2021-22シーズンにI神戸に所属、2022-23シーズンからマイナビに移籍

変わるきっかけは 選手それぞれにある

講習会では、サポートに入っていた東京大学のアス蹴球部女子（女子サッカー部）の選手たちとも会話をしました。彼女たちからは「もっと成長したい」という強い思いを聞かせてもらいました。講習会ですなごった大切な縁ですし、自分のできるものがあれば、オフの期間に講習会と一緒に受講したCPサッカー日本女子代表の大田麻衣選手と練習に参加してきました。ロングキックを蹴るのが苦手という選手がいて、一度蹴ってもらってそれを動画で撮り、次に私が蹴った動画を撮って二つを比較し、蹴るときのポイントや改善点を伝えると上手に蹴れるようになりました。

選手がスキルを獲得するには、日々、練習を積み重ねるしかありません。練習を繰り返していると、そのスキルが「自分のものになる瞬間」が訪れます。その瞬間に立ち会えることができ、コーチングというものが

のがいかにも価値のあるもののかを実感しました。とても貴重な体験でした。

クラブの活動でも、子どもたちにサッカーを教える機会があります。プレーのお手本を見せることで上達する子、説明しただけでコツをつかむ子など、変化するきっかけは子どもたちそれぞれに違います。私はこれまで14人の監督の下でプレーしてきました。私も最初は全然できなかったところからスタートして、今があります。講習会を通して指導者として学ぶ大切さを知り、これまで指導者の皆さんは私が成長できるよう試行錯誤して導いてくださったのだなと思うと、感謝の気持ちでいっぱいです。

そして、選手時代の積み重ねや経験も、指導者としての技量に影響するのだと今は感じていますので、選手としての一日一日をこれからも大切に積み重ねていきたいと思っています。



日本サッカー協会（JFA）の指導者ライセンスのうち、キッズリーダーとDライセンス、Cライセンスは15歳以上から取得することができる。ここではCライセンス、Dライセンスをそれぞれ取得した高校生の田先惺奈さんと渡邊漣さんに話を聞いた。



一人一人に合った指導を できるようにになりたい

田先惺奈さん

（FC NOMADEコーチ、高校2年生 / Cライセンス）

○取材日・2025年7月8日

相手が理解できるように伝える
その大切さを学んだ

指導者ライセンスを取得された理由をお聞かせください。

田先 小学生の頃は地元のカナルキッカーズ（少年少女チーム）とインターナショナルスクールのクラブ活動でサッカーをしていました。中学ではサッカー部に所属していたのですが、高校進学にあたり選手登録は男子と一緒にできないと言われ、マネージャーをしようかとも思ったんです。でもボールに触れる機会が減りますし、もっと自分がやりたいことがあるんじゃないかと思つたときに小学校時代のフランス人コーチ、ニコラ・ドウエズさんを思い出して、教えるのもいいかもと。5年ぶりに連絡したらとても喜んでくれました。ニコラさんが運営するFC Nomade（ノマド）で指導をする中で資格取得を勧められ、Dライセンスを取得しました。

取得されたのが昨年8月ですね。岩手県で講習会を受けられたとか？

田先 タイミング的にすぐ受講できるのが岩手だったんです。JFAのライセンス制度もそこで知り、帰りの新幹線で調べて9月のJFA女性C級コースにすぐ申し込みました。今年はフィジカルフィットネスCも取得したいと思っています。

— すごいですね。今はどこで指導されているのですか。

田先 ノマドとカナルキッカーズ、所属する中高一貫校の中学男子サッカー部でも指導しています。ノマドでは8歳以下のクラスを担当してもらい、自分で練習メ

ニューも考えています。

Dライセンスの講習会ではどんな学びがありましたか。

田先 プレーヤーの視点から指導者の視点に切り替える必要性を感じました。子どもたちにもちゃんと意図が伝わる言葉の使い方をしなければいけないんだなと。サッカー以外にも人への伝え方を考えるようになりました。

Cライセンスは8日間、高円宮記念JFA夢フィールドで受講されました。

田先 学びが多くて楽しかったです。でも、指導実践はとて難しかったです。3人グループでトレーニング計画を細かく立てるのですが、計画通りにいかなかったときに少し混乱してしまって、対応力も身に付けなければと思いました。試合映像なども俯瞰して見られるようになり、戦術やプレーの捉え方、サッカーの考え方にも成長を感じて、講習会の後はなんだか少し大人になった気がしました。

子どもたちの成長がうれしい

実際の指導でも変化がありましたか。

田先 試合での目標から逆算して練習メニューを組めるようになりました。以前はYouTubeとかを参考にしていたのですが、作るのに時間がかかっていたのですが、講習会で自分の中にマニュアルができたので、今はメニューを考えて組み立てるのが楽しくなってきました。難しいんですけど（笑）。

子どもたちの指導で大切にされていることは？

田先 ノマドでは8歳まで、カナルでは

12歳までを教えているのですが、6歳と12歳では言葉の伝え方もプレーの引き出し方も違ってきます。自分で考える力を身に付けさせられるような指導を頑張っています。あと褒めるタイミングをとっても意識しています。注意することもあるのですが、モチベーションを下げないように、注意した子には良い部分があれば褒めるなど緩急に気を付けているんです。あいさつすること、かばんや靴をそろえて置くこと、ご飯を残さず食べることなど生活面も大切にしています。それは保護者の方からも感謝されます。

— 人としての成長も考えてらっしゃるんですね。

田先 私自身、ニコラさんからそう教えられました。母が言うには私の性格はそこで正されたみたいなんです（笑）。ゆるくて適当だった性格が「変わった」と周りの人からも言われるくらい影響を受けました。だから私もそういう指導者になりたいと思っています。

— どんときに指導の楽しさを感じますか。

田先 最初はボールタッチもできなかった子がドリブルをできるようになったり、フエイントができるようになったり、子どもたちが成長したときです。自分が選手をしていたときよりも喜びは大きいです。

— これからの目標を教えてください。

田先 一人一人に合った指導ができること、あと、適切な言葉で伝えられる指導者になりたいです。卒業後は、海外の大学でスポーツマネジメントなどを学びたいと考えていて、将来はサッカーに携わる仕事がしたいと思っています。自分の可能性を幅広く考えて活動していきたいと思っています。



指導者養成講習会を どんどん受けてほしい

渡邊漣さん

(北海道文教大学附属高校3年生 / Dライセンス)

○オンライン取材日・2025年7月16日

**自分になかった考えが
たくさん出てきた**

——指導者ライセンスを取得しようと思ったきっかけを教えてください。

渡邊 僕が通う高校にはサッカー部員がコーチング論を学ぶ授業があります。高校3年生の(今年)8月に小学生の選手たちを実際に指導する単元があり、その準備として3年生全員が指導者養成講習会に参加してDライセンスを取得しました。

——講習会はどのような形で実施されたのでしょうか。

渡邊 チューターの方が学校に来てくださり、3年生部員およそ25人が参加して3日間に分けて受講しました。1日目は主に座学で、JFAが目指す指導者像を学んだり、グループワークで「自分が指導者だったらどう指導するか」などを話し合ったりしました。2日目は実際にグラウンドに出て、ジュニア世代への指導を体験しました。3日目に教室に戻って実践指導のフィードバックを受けて、講習会は終わりました。

——講習会について受講前はどのようなイメージを持っていましたか。

渡邊 もっと堅苦しいものだと思っていました。チュ

ターの方から「サッカーとはこういうものだ」という話を聞くのかな、と漠然と想像していたのですが、実際は全く違って、みんなできつくり上げていく感じでした。

——講習会の中で印象に残っていることを教えてください。

渡邊 グループワークで話し合ったとき、参加者が目指している指導者像がそれぞれ違い、自分にはなかった考えがたくさん出てきたことです。たとえば、試合ではあまり発言しない選手が、勝利にこだわる指導者になりたいという話をしていたのは意外でした。

——ちなみに、渡邊さんが目指す指導者像とは？

渡邊 チャレンジする選手が成長すると思っているので、ジュニア年代から「チャレンジ精神を持つのはいいことだ」と伝えて、積極的に挑戦する選手を育てたいです。

**指導者には言語化能力が
不可欠だと実感した**

——グラウンドでの指導実践から得たものはありますか。

渡邊 部活では技術中心のトレーニングをしているのですが、ジュニア年代に教える練習は、うまくなるためという側面を持ちながらも、「サッカーを楽しむこと」を第一に考えなければならぬと強く感じました。

——講習会を経て視点が変わったと感じる部分はありますか。

渡邊 以前はプレーを言語化するのが苦手だったのですが、講習会を受けて、指導者には言語化能力が不可欠だと実感したので、今は試合の後などに「こういう意図があってこういうプレーをした」とチームメイトに伝え、話し合うようになりました。指導者としては、選手一人一人の特徴や性格を見極めながら、それに合った接し方をする必要があると感じました。

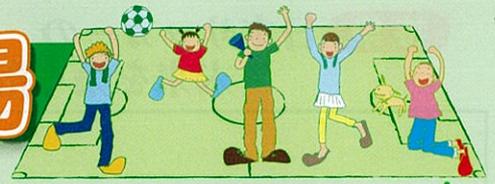
——8月に小学生を指導すると聞いています。どんなことを心掛けたいですか。

渡邊 講習会では最初にアイスブレイクをして緊張感が和らいだので、それを参考にして取り入れたいと思います。輪に入れたい子や戸惑っている子がいたら積極的に声をかけて、一緒にサッカーを楽しみたいと思います。そして、子どもたちが選択したプレーを褒め、「こうしたらもっと良くなるんじゃないか」というアドバイスを積極的にしていきたいです。

——昨年からDライセンス、Cライセンスを受講できる年齢が15歳以上になりました。受講を考えている高校生へのメッセージをお願いします。

渡邊 高校までサッカーをやってきた経験はとて貴重なものだと思います。教える側として次の世代にサッカーの楽しさを伝え、サッカーを好きになる人を増やすためにも、指導者養成講習会をどんどん受けてほしいと思います。

サッカーファミリー広場



『JFAnews』の未来は、あなたのひとことから 読者アンケートにご協力ください

抽選で10名様に日本代表サイン入りユニフォームが当たる！

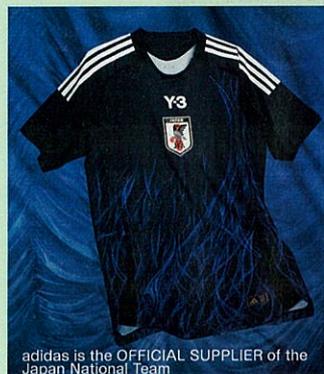
日本サッカー協会（JFA）の機関誌『JFAnews』は、協会が創立された翌年の1922年に創刊され、100年以上にわたってJFAの理念に基づくさまざまな取り組みや日本サッカーの歩みを記録・発信してきました。1993年からは全国の全ての登録チームに本誌を発送し、直接情報をお届けしています。

近年、情報発信のスタイルが多様化する中で、『JFAnews』も新たな可能性を模索しています。そこでこのたび、媒体の最適化を図り、皆さまにより魅力的で有益な情報をお届けできるよう、読者アンケートを実施することにしました。

アンケートにお答えいただいた方の中から抽選で10名様に、日本代表選手のサイン入りユニフォームをプレゼントします。

『JFAnews』の新たな歴史をつくるのは、読者の皆さまです。ぜひ貴重なご意見をお聞かせください。ご協力を心よりお待ちしております。

回答締切：2025年9月16日（火）
アンケートフォームはこちら：
<https://forms.office.com/r/VXeDi7Nj7q>



※プレゼントは、9月または10月の代表活動に参加するSAMURAI BLUE（日本代表）の選手のうちのいずれかのサイン入りユニフォームとなります。アンケートの最後に、好きな選手名をご記入ください。
※当選された方には10月中旬までにご連絡します。
発送は10月末の予定です。
※お預かりした個人情報、集計・分析および今後の情報発信の参考とするために使用し、目的外の利用はいたしません。取得した情報は厳重に管理し、第三者に提供することはありません。

JFA.jp『TOP RECOMMENDATION』に注目！

JFA公式ウェブサイト「JFA.jp」では、TOP RECOMMENDATIONページを設け、さまざまな情報を発信しています。ここでしか読めない有益な情報も。ぜひご覧ください。

- SPECIAL：サッカーに、代表に、JFAに、もっと興味を持ってもらいたい。JFA.jpがお届けするスペシャルコンテンツ。
- ホットピ！～HotTopic～：その時その時の旬な情報をお届け。JFA.jpがお届けする厳選コンテンツ。
- 知っトク！～知って得する～：JFAの事業やイベントなど、JFA.jpがお届けする知って得する情報をお届け。

<https://www.jfa.jp/special/>



『ツネログ』vol.11発行

宮本恒靖会長のコラムや主な活動を伝える『ツネログ』。2025年7月発行のvol.11では、川澄奈穂美JFA理事との対談を実施。

https://www.jfa.jp/about_jfa/president/tsunelog/news/00035322/



サッカーファミリー復興支援金

日本サッカー協会（JFA）は、東日本大震災で被災した地域のサッカーファミリーが、これまで通り、サッカーを楽しむことができるよう、サッカー環境の復興を目的に「サッカーファミリー復興支援金」口座を開設しています。集まった復興支援金は、運用細則に基づいて運用されます。

銀行口座 三菱UFJ銀行（0005） 渋谷支店（135）
普通預金 口座番号 0290451 公益財団法人日本サッカー協会
サッカーファミリー復興支援金口座
※ご利用金融機関が設定する振込手数料はご負担願います。

「暴力等根絶相談窓口」を設置しています

日本サッカー協会（JFA）は、サッカーの活動現場で生じた暴力行為に関する通報を受け付ける窓口として「暴力等根絶相談窓口」を設置しています。

【フォーム】 https://forms.office.com/pages/responsepage.aspx?id=jpDYk_b8f0-O_dkms7Ijh3cFKGINhKNbPvZIXnRIR4VUNidQNFJDMFRORDU2NlhFUOM2TkplUjFPUS4u

利用方法の詳細は、JFA公式ウェブサイトをご確認ください。
https://www.jfa.jp/violence_eradication/



サッカー活動中の落雷に注意しましょう!

温暖化や環境変化の影響に伴い、全国での落雷件数が増加しています。屋外でサッカー活動をする際は、落雷による事故防止対策に努めましょう。

原則①：危険・兆候が確認されたら公式戦・練習にかかわらず躊躇なく中止すること。

原則②：周辺で雷注意報・兆候がある場合、専門的なウェブサイトで常時天候情報を確認すること。

●サッカー活動中における落雷事故防止対策について

https://www.jfa.jp/about_jfa/report/PDF/h20240523_02.pdf



2025 Jリーグレフェリングスタンダードの映像を公開

JFA審判委員会は、Jリーグと共に「2025 Jリーグレフェリングスタンダード」の映像を作成した。映像には、選手に求めるプレー、昨シーズンの事例にFIFAの競技規則に基づく解説などが加えられている。

- ①選手生命を脅かすチャレンジ ②ハンドの反則
③オフサイド“インパクト” ④競技者の安全への対応

●2025 Jリーグレフェリングスタンダード

https://youtu.be/JaZiOJOdfwo?si=3z_v7e8-GfMDI3UJ



▼ルールに関する情報はこちら

競技規則 <https://www.jfa.jp/laws/>



栄養ガイドライン～選手における食事の重要性

JFAは2017年11月、医学委員会に栄養サポート部会を発足し、2018年8月にJFAとして統一した栄養に関する栄養ガイドラインを策定した。同ガイドラインでは、基礎的な食事や栄養の知識をベースに、サッカーをする選手、それを支える指導者や保護者にとって分かりやすく、より実践的な情報を伝えている。

●JFA栄養ガイドライン

<https://www.jfa.jp/medical/a08.html>



スモールサイドゲームガイドライン

JFA技術委員会は、小学校4年生以下の年代に応じたゲーム形式を明確に示すため、「JFAスモールサイドゲームガイドライン」を作成。「小学校1～4年生のゲーム環境整備」の一環としてガイドラインの普及に取り組んでいる。

●内容

1. はじめに
2. ガイドラインの基本的な考え方
3. 各年代での心身の特性とゲーム
4. ピッチマネージャーの配置・役割
5. 8人制との比較
6. スモールサイドゲームガイドラインに基づいた事業開催
7. 指導者の関わり的重要性

https://www.jfa.jp/coach/guidelines_smallsidegame.html



JFA育成年代でのヘディング習得のためのガイドライン (幼児期～U-15)

JFAは、ヘディングを「禁止」するのではなく、正しく恐れることによって適切な方法によるヘディングの習得を目指している。そこで幼児期において段階的にヘディングを習得するためのガイドラインを作成。子どもの安全を守るために、全ての指導者がこのガイドラインを理解しておきたい。なお、ヘディングに関わるリスクについては医・科学研究の報告を十分にフォローし、本ガイドラインも随時アップデートしていく。

https://www.jfa.jp/coach/pdf/heading_guidelines.pdf



選手・指導者・審判登録証の表示は JFA公式アプリ「JFA Passport」へ

2018年から運用してきた「JFA KICKOFF」アプリ(iOS/Android)を、2024年12月をもって終了しました(PC版のKICKOFFシステムに仕様変更はありません)。これまで「JFA KICKOFF」アプリで提供していたJFA登録証(選手証/監督証、指導者証、審判証)やチーム登録選手一覧の表示機能等はJFA公式アプリ「JFA Passport」で利用できるようになっています。

「JFA KICKOFF」アプリで提供していた以下サービスは、JFA公式アプリ「JFA Passport」で利用できます。

- ・登録証の表示(選手証、監督証、審判証、指導者ライセンス証)
- ・登録選手一覧の表示 ※チーム登録責任者および責任者代理のみ使用可
- ・お知らせ(あなたへのメッセージ)の表示
- ・その他(顔写真登録、パスワード設定、プッシュ通知など)

詳細はこちら▶



小学校体育サポート

JFA KDDI DREAM KIDS PROJECT

～教員向けのオンラインレッスンサイトを公開!講師派遣も受け付け中

JFAとKDDIは、「小学校体育サポート JFA KDDI DREAM KIDS PROJECT」の一環として、教員向けに動画でサッカーの授業を学ぶことのできるオンラインレッスンサイトを公開している。

教員の体育授業の準備における負担を軽減するため、これまでJFA

が対面でのみ実施していた小学校体育サポート研修会を初めて動画としてまとめたもので小学校の全学年に対応している。参加費は無料。

また、小学校体育サポート研修会の開催および講師の派遣も引き続き、申し込みを受け付けている。



●JFA学校体育サッカー指導のオンラインレッスン

<https://soccerlesson.jfa.jp/>



■JFA小学校体育サポート研修会 2025年度実施校の募集を開始!

<https://www.jfa.jp/news/00034935/>



ナショナル・フットボール・フィロソフィーとしての Japan's Way

JFAは2022年7月、「ナショナル・フットボール・フィロソフィーとしてのJapan's Way」を策定した。JFAの「2050年までにFIFAワールドカップで優勝する」という夢を実現したとき、日本サッカーはどのような状況になっているのか、その「ありたい姿」から逆算してそこに至る道筋を示したものの、Japan's Wayを全国のサッカーファミリーと共有し、議論を重ね、ビジョンを具現化するアクションプランをまとめていく。

●構成

1. プロローグ～なぜJapan's Wayなのか
2. フットボール・カルチャーの創造
3. 望まれる選手像とは
4. プレービジョン
5. 将来に向けた日本のユース育成
6. フィジカルフィットネスの未来
7. 将来のサッカーコーチとは?
8. フットボール・ファミリーの拡大

●デジタルブック(PDF)

<https://www.jfa.jp/japansway/japansway2022.pdf>

※デジタルブックのページ内「PLAY」マークを押すと動画が再生される

●Japan's Way特設サイト

<https://www.jfa.jp/japansway/>



フットボールが
つなぐもの

第1回

ジェフ千葉レディース

地域の人々にとって
「ジェフは誇り」であるために

今号より、Jリーグのシャレン！（社会連携活動）やWEリーグのWE ACTION（理念推進活動）など、地域に根差したクラブの活動を紹介する短期連載をスタート。第1回は、2024-25WEリーグアウォーズでMOST IMPRESSIVE WE ACTION DAYを受賞したジェフ千葉レディースの「蘇我小プレゼンツ ホームゲーム丸ごとプロデュース」について、高橋薫さん（ジェフユナイテッド株式会社取締役）に話を聞いた。

○オンライン取材日：2025年7月18日



オリジナルの応援チャントを制作した子どもたち。「丸ごとプロデュース」の日はサポーターと選手たちにエールを送った

蘇我小の子どもたちと
12の施策を考案

——今年3月8日、2024-25 SOMPO WEリーグ第13節のホームゲーム（フクダ電子アリーナ）で「蘇我小プレゼンツ ホームゲーム丸ごとプロデュース」を実施されました。経緯を教えてください。

高橋 きつかけは昨年9月、ホームタウンにある千葉市立蘇我小学校から相談を受けたことでした。蘇我小ではアントレプレナーシップ教育（※）を行っていて、担当の先生から何か一緒にできないかと。6年生の全児童が関わりたいとのこと。検討し、WEリーグの試合であれば関わりやすいと考え、ホームゲームを丸ごとプロデュースしてもらおうにしました。

（※）社会課題を自ら発見して解決する能力や、他者と協働して解決策を探索する能力を養う教育

——クラブのレポートでは「蘇我といえどジェフ」という先生のコメントもありました。地域にジェフが根付いている証しですね。

高橋 蘇我小では、「地域の魅力を発信する」をテーマに何を考えるか考えていたそうなんです。そこで子どもたちが「地域の魅力とは何か」を考え、ジェフに決まったと聞きました。蘇我小はフクダ電子アリーナに近く、ジェフのファンも多いんです。地域の魅力としてジェフを選んできたことが本当にうれしかったですね。だから応援したいと思いました。

——イベント当日は12の施策を実施され

ました（右下表参照）。子どもたちのアイデアなのですか。

高橋 子どもたちのアイデアを優先しながらもクラブの意見を伝えて形にしていきました。6年生は4クラスあって各クラス3グループ、計12グループでそれぞれ施策をしたいという学校からのリクエストがあり、12の施策を考えました。

——約6カ月、準備に時間をかけられています。

高橋 12の施策が固まるまで時間がかかりました。ジェフの4人のスタッフが一人ずつ各クラスに担当として付いて児童の提案を受け、それをクラブで検討して子どもたちにフィードバックし、再度考えてもらうという作業を繰り返しました。協力をお願いする関係各所との打ち合わせも重ね、方向性が決まったのは今年の1月末でした。

——施策をつくる中で重視されたことは何でしょうか。

高橋 WEリーグは興行でするので、お客さまに喜んでもらう、満足してもらうというポイントを外さないことです。自信を持ってお客さまに提供できるものにしよう、と何度も子どもたちと施策を練り直しました。

——街や企業の皆さんも協力してくださっています。

高橋 告知ポスターやちらしなどの制作は、株式会社ZOZOさんの全面協力の下でデザインを作成。地元企業のアリオ蘇我

■蘇我小プレゼンツ ホームゲーム丸ごとプロデュース 12の施策

- ① A4サイズクリアファイル製作
- ② オリジナル応援フラッグ製作
- ③ 飲食メニューの考案（そがつばうどん、子どもたちの好きなメニューをつめたなかなむら弁当、幸せの黄色い杏仁豆腐）
- ④ 告知ちらし制作
- ⑤ 告知ポスター制作
- ⑥ 3~4月のJ2リーグポスター制作
- ⑦ 蘇我小児童が制作した告知ポスターのJR蘇我駅構内への掲出
- ⑧ 蘇我小児童による駅構内での告知放送（事前録音）
- ⑨ ジェフ千葉レディースの選手への応援メッセージ（寄せ書き）
- ⑩ 当日のイベント実施（クイズラリー、クイズ大会、キックボーリング）
- ⑪ スタメン発表時の選手紹介文作成
- ⑫ 応援チャント制作

■ジェフ千葉レディースのWE ACTIONの取り組み
<https://weleague.jp/weaction/#jefunited>



さん、三幸商事さん、水野胃腸科・内科さんが印刷費などを支援してくださいました。ポスターは、ホームタウンの飲食店や企業にお願いして掲出してもらいました。JR蘇我駅では構内アナウンスもさせてもらい、飲食メニューはスタジアムグルメで出店している喜作さん、ファン・サポーターにもなじみ深いなかなむら食堂さんに協力してもらいました。

——まさに地域の皆さんと一体になったイベントですね。

高橋 地域の皆さんには感謝しています。子どもたちも前向きに取り組んでくれました。蘇我駅での構内アナウンスは、規定に沿うように何度か録り直したんです。試合でのスターティングメンバー発表でアナウンスする選手の紹介文も子どもたちが考えてくれたのですが、大型スクリーンに

流れる映像と連動させなければならぬので一人あたりの秒数などが決まっています。その秒数内に収まるように何度も修正し、当日は子どもたちと場内放送チームが打ち合わせをして、選手紹介を行いました。

オリジナルの応援チャントを作るときは、サポーターの皆さんとも打ち合わせをしました。チャントはそれぞれ歌うタイミングが決まっています、どのタイミングで入られるか、どんなリズムのものがいいかを決めていきました。

——選手たちはどう関わっていたのですか。

高橋 選手全員の紹介文は、子どもたちがインターネットなどで調べて作ってくれたものなのですが、3人の選手が蘇我小に行つて子どもたちにアドバイスをしました。訪問後も連絡を取り合いながら全員分が完成するようサポートしていました。

ほかに、21人の選手と子どもたちが12グループに分かれて、近隣の飲食店や企業など約60カ所を訪れ、ポスターの掲出をお願いします。掲出の依頼にあたって、子どもたちは事前に考えた文章を一生懸命に読んでいて、見ている微笑ましかったです。選手だけで各所を訪問することもありますが、子どもたちと一緒にだより温かい空気に包まれるというか、みんなが子どもたちを応援してくださりました。

——イベント当日の子どもたちの様子は？

高橋 とても真剣でしたよ。最初は少し興奮気味でそわそわして落ち着かない様

子も見受けられたので、これはいけないと思い、「お客さまに満足いただけるように、みんながもてなさなければいけないんだよ」と諭しました。

あとから先生に聞いた話では、普段あまり話さないおとなしいお子さんも、大きな声で積極的にお客さん呼び集めていたそうなんです。子どもたちの成長に先生方も驚かれたと。当日は試合も観戦してもらい、より選手たちを間近に感じてくれたのではないかと思います。

継続していくことと新たな視点を大切に

——イベント終了後、蘇我小からはその他にどのようなフィードバックがありましたか。

高橋 休み時間や放課後にも、子どもたちは自主的に集まって話し合っていたそうです。ジェフでの取り組みを通じて小学生が主体的に関わる経験ができたことは、子どもたちにとってもクラブや地域にとっても価値のあることだと思います。

——クラブとして新たに芽生えた思いもあるのでしょうか。

高橋 これはずっとやり続けなければならぬ、と。今回参加したのは6年生の96人ですが、蘇我という地域でそれだけ多くの子どもがジェフに関わり、深く知る機会があるということはとても貴重です。これが5年、10年と続いていけば、クラブにとっても大きな財産になる。次年度以降も継続して取り組んでいきたいですし、そのた

めには6年生が5年生に実施した内容を伝えて次につなげる、さらに3、4年生も異なる形で参加する。今はそんな構想を練っているところです。

——MOST IMPRESSIVE WE ACTION DAYも受賞されました。

高橋 受賞が発表された5月15日の帰宅途中、偶然にもなかむら食堂のマスターとママさんにお会いし「私たちが一緒に頑張ったイベント、受賞したね」と言ってもらいました。わがこととして、喜んでくれました。それがうれしかったですね。皆さんへの恩返しになっていたらいいと思います。

——WE ACTIONはどのような位置付けで取り組まれているのでしょうか。

高橋 ジェフは地域貢献活動を重視しており、男女ともクラブとして子ども食堂や学校訪問などを続けています。ですから、



試合当日、自分たちで考えたイベントを運営する子どもたち。お客さまに楽しんでもらおうという、一生懸命な姿が見られた



店舗にポスター掲出のお願いをする様子。「地域の人々と直接触れ合う中で選手たちが学ぶことは多い。頑張ると直接言われることもある。そうした関係が選手の成長やピッチ上での責任感にもつながる」と高橋さん

もともと取り組んでいたことの多くがWE ACTIONの趣旨にも当てはまるんです。昨シーズンは「多様性」がテーマでしたが、設定されたテーマに基づいて何ができるかを考えることで、クラブ側に新たな視点が生まれます。そういう意味では、継続してきた活動と新たな視点での活動、この両方を大事にしなければいけないと考えています。

——ホームタウンにとって、どういう存在でありたいですか。

高橋 地域の人々の誇り、ですね。ジェフがあるから人生が豊かになった。ジェフがあるから夢や生きがいがある。われわれは「ジェフユニテッドライフ」と呼んでいるのですが「ジェフのある生活」を通して、皆さんに元気や楽しみ、幸せを感じてもらいたい。ジェフがあることで生活が彩られる、そんな存在でありたいと思っています。

メディカル ROOM

「育成年代の貧血」

土肥美智子

(JFA医学委員会委員 / JFA診療所院長)

◎監修：JFA医学委員会

本連載では日本サッカー協会(JFA)医学委員会の監修の下、メディカルに関する情報をお伝えします。

急なスタミナ低下は成長に伴う貧血の可能性も

貧血とは、血液中の赤血球に含まれるヘモグロビンが減少した状態のことをいいます。ヘモグロビンは、酸素を全身に運ぶ働きのあるタンパク質で、血液中の濃度が減少すると体が酸欠状態になり、めまいや立ちくらみ、動悸、息切れなどが起こります。運動時の酸素能力の低下にもつながり、スポーツ選手のアスリートにも影響します。貧血は運動中に見られる現象と似ているため、貧血に「気づかない」ことが少なくなく、注意が必要です。

アスリートにおいては、①希釈性貧血(偽性貧血)、②鉄欠乏性貧血、③運動性溶血性貧血が問題となりますが(※)、この中で最も多いのが鉄不足による「鉄欠乏性貧血」です。ヘモグロビンは鉄を含むヘムとタンパク質であるクロロピンから成り、ヘモグロビンの合成に鉄は欠かせません。しかし、激しい運動を続けるアスリートは、体内で鉄の需要(消費)が高まるだけでなく、消化管出血や発汗による鉄の排出量が増え、慢性的な鉄不足に陥りやすくなります。長時間の運動では肝臓でヘプシジン(体内での鉄代謝を調整する役割を担う)の産生が増加し、鉄吸収の低下、鉄の再利用能力が減少する可能性があります。また、女性アスリートは過多月経による慢性的な鉄の喪失が鉄欠乏性貧血の原因となります。

■貧血の主な症状

めまい、立ちくらみ、動悸、息切れ、頭重感、易疲労感、顔面蒼白
⇒これらいくつかの症状は運動による現象とオーバーラップするため、貧血が原因と気づきにくい

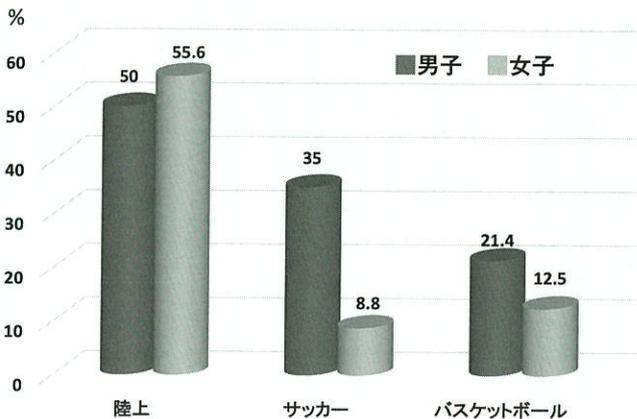
●鉄欠乏性貧血の症状

上記の他、さし状爪、舌の炎症や腫れ、異味症、異食症(氷食症、土食症)といった特徴的な症状が見られる

そして、男女を問わず、成長期は成長に伴って血液量も増え、多くの鉄が必要になります。成長期のアスリートは徐々に運動強度が高まり、筋肉量も増えるため、さらに鉄の需要は高まります。第一次成長期に入った男子は急激に身長が伸び、体重も増加することがあるため、貧血になりやすくなります。過去の調査結果では、サッカー競技において、男子の方が女子の4倍近く貧血だったとい

血が問題となりますが(※)、この中で最も多いのが鉄不足による「鉄欠乏性貧血」です。ヘモグロビンは鉄を含むヘムとタンパク質であるクロロピンから成り、ヘモグロビンの合成に鉄は欠かせません。しかし、激しい運動を続けるアスリートは、体内で鉄の需要(消費)が高まるだけでなく、消化管出血や発汗による鉄の排出量が増え、慢性的な鉄不足に陥りやすくなります。長時間の運動では肝臓でヘプシジン(体内での鉄代謝を調整する役割を担う)の産生が増加し、鉄吸収の低下、鉄の再利用能力が減少する可能性があります。また、女性アスリートは過多月経による慢性的な鉄の喪失が鉄欠乏性貧血の原因となります。

■図 ジュニア(18歳未満)における貧血



JISS(国立スポーツ科学センター)データより土肥調べ 2011.4-2012.7

データもあります(左図参照)。
例えば、少し前まで活発に動いていた選手が急にスタミナ切れや息切れを起すようになったり、疲れやすくなったりの場合、貧血が原因であることが考えられます。貧血によるパフォーマンス低下は、選手の頑張りどころにかなるものではありません。貧血と気づかず選手自身が「自分は練習についていけない」「自分はスタミナがないんだ」と悲観してサッカーをやめてしまつたことだけは避けなければなりません。

(※)希釈性貧血 循環の増加により発生する見かけの貧血。高強度のトレーニングでは体内の水分が血液の血漿部分に移行し、血液量が増えることでヘモグロビン濃度が相対的に低下する。一時的なもので治療は不要。
運動性溶血性貧血 ランニングやジャンプなど足底への衝撃によって赤血球の破壊(溶血)が起る。溶血は軽微で、貧血に進行するのは少ない。

選手の身長・体重、心拍数測定を

選手の成長による変化を見逃さないよう、指導者の皆さんにはいつも次の三つをお願いしています。

1. 選手の観察
2. 毎月の身長測定
3. 毎日の心拍数と体重(除脂肪体重=筋肉量)の測定

身長や体重の測定を習慣化し、選手の成長を把握すること。そして、プレー中の様子も気にしてください。身長が伸び、体重が増えて普通通りに生活しているかもしれませんが、心拍数が上がっていれば貧血の可能性があります。症状が見られた場合、血液検査をすることで貧血かどうか分かります。

また、成長期は体の成長に合わせて必要なエネルギー量や栄養素も増えます。貧血予防には、パフオンスの良い食事を心がけるとともに、ヘモグロビンのもとになる鉄(赤身の肉や魚、レバーなど)とタンパク質(肉類、魚介類、牛乳や乳製品など)を含んだ食品を積極的に取りましよう。ビタミンCによって吸収が促進されるので野菜や芋類、果物などと一緒に摂取するのも効果的です。なお、「コーヒーや紅茶などは鉄の吸収を阻害する」といわれているため、食事時の摂取や取り過ぎには注意しましょう。

育成年代の貧血は気づきにくいいため、アスリートは定期的に血液検査をしてコンディションを確認することが理想です。日々の体調や身長・体重の変化を記録し、選手に貧血の症状が表れたときは血液検査を行うなど適切に対応する必要があります。

「遊び」があつていいはず

学校が夏休みの期間、通勤途中の風景にも変化が見えました。中学校のグラウンドではサッカーの練習に励む姿があり、小学生たちは空き地の木陰で仲間とボールを蹴って遊んでいます。猛暑が続く夏、子どもたちには熱中症に十分注意しながら、少しでも外で体を動かす機会を持つてほしいと願っています。

とはいえ、いきなり猛暑で全力プレーをするのは危険です。段階的に体を慣らしていくことで、「暑さに強い身体」をつくることができます。これは「暑熱順化」と呼ばれる適応反応で、体が熱への耐性を高め、効率的に体温を調整できるようになります。普段からコンディショニングを管理し、夏本番に向けて意識的に負荷を高めていく取り組みが重要です。

子どもたちが仲間同士で遊んでいるとき、しんどくなれば自然と休憩を取り、活動をやめることもできます。しかし、サッカーのトレーニングでは無理をしまつたり、調子が悪くても言い出しにくかつたりする場面もあるのではないのでしょうか。このとき、指導者や大人の適切なサポートと配慮が求められます。

夏季の「自発的な遊び」の場面を見ていると、子どもたちは自分のペースを探りながら、遊びの中で身体を動かす、無理のない範囲で暑さと向き合っているように見えます。現代の子どもたちのスポーツ環境において、「強

制されないこと」の重要性をあらためて実感させられます。私は通勤を兼ねて片道30分ほど歩きます。多少の雨にも傘を差し、ほぼ毎日歩いています。これも自分が「楽しい」から続いているのです。梅雨から徐々に気温が上がる中、気づけば暑さにも少しずつ慣れてきました。暑い日も、木陰に入ると時に涼しさを感じられることがあります。

「自由に、好きにやる」時間は、子どもにも大人にとっても、身体と心を自然に調整していくための大切なプロセスではないでしょうか。子どもの成長には、こうした時間が、思っている以上に大きな影響を与えていると思います。

近年の猛暑を受け、日本サッカー協会(JFA)は主催・管轄する大会やリーグ戦、フェスティバルなどを原則として7・8月には開催しない方針を発表しました。夏休みは活動の最盛期、という考え方を見直す時期にきています。これを「活動できない期間」と捉えるのではなく、むしろ子どもたちのパフォーマンスを高めるための工夫をする機会と捉えることが大切です。トレーニングに固執するのではなく、遊びや休息、あるいは夏にしかできない体験を通じて、サッカーに生きる多様な刺激を取り入れる。その視点が今は求められます。私が子どもの頃、夏休みは海水浴に出かけたり、山でキャンプをしたり、自然の中で遊ぶ機会がごく当たり

隔月連載

サッカー心育論 Vol.93

～指導者は何を考えるべきか～



中山 雅雄 (JFA技術委員会普及部会部会長 / JFA普及ディレクター / JFAキッズプロジェクトメンバー / 筑波大学体育系教授)

り前にありました。そうした経験を通して、海や山という不整地に適応する感覚や自然の変化に対応する判断力が身についたように思います。友だち同士でルールを工夫し、野球などを遊びとして思いっきりできることも夏休みの大きな魅力でした。現代でも子どもたちが自発的に集まって自由に遊べるような時間をクラブなどで意図的に設けることはできないでしょうか。あるいは、身体への負担が比較的少ないスポーツやクリエイティブな活動を楽しむことができれば、サッカーだけでは得られない多様な刺激や運動経験を補う貴重な機会となるはずです。

「サッカークラブに通っているのに、サッカーをする時間が少なくて大丈夫なのか」と感じる人もいるかもしれませんが、特に保護者の皆さんには意図や意味をしっかりと伝え、理解してもらうことが重要です。そして、コーチ自身も「もっとサッカーの指導がしたい」と感じるかもしれない。確かに、サッカーはプレーを重ねることで上達します。ただ、安全が十分に確保できない猛暑の環境では、トレーニングの内容や方法を一時的に変えることも必要です。それは「我慢」ではなく、先を見据えた育成の一部と捉えるべきです。

日本の気候を考えれば、秋から冬がサッカーに適した季節でしょう。積雪のない地域であれば、冬場のトレーニングも大いに活用できます。

だからこそ夏は、「今できることは何か?」を柔軟に考える時間とし、一年を通じて計画的な育成を心掛けていくことが、これからの指導には求められます。

昨年の夏にも感じたことですが、欧州のビッグクラブがプレシーズンマッチで来日した際、時差や日本の高温多湿な環境でも、欧州の選手たちはリーグの選手たちに負けずに走り、激しくコンタクトし、そして何よりサッカーを心から楽しんでいるように見えました。

「しばらくバカンスで連絡が取れないよ」と言って、当たり前前に休暇を楽しむ私のイングランドの友人に比べ、日本のスポーツ環境には、どこか常に動いていなければならぬという焦りや余裕のなさを感じます。全力で取り組むことが尊ばれる一方、「力を抜くこと」や「遊ぶこと」に対して肯定的な価値が十分に認められていないように思います。

車のハンドルには、ハンドルを回してもある程度の範囲までは反応しない「遊び」と呼ばれる領域があり、これがあることで急な変化にも柔軟に対応できます。指導にも同じような「遊び」があつていいはず。子どもたちが自分の感覚でペースを調整し、自由に動く余地があること。それが心と体の調和を生み、長い目で見たときによりしなやかで強い選手の育成につながるのかなと、この夏、クーラーを効かせた車を運転しながら考えています。

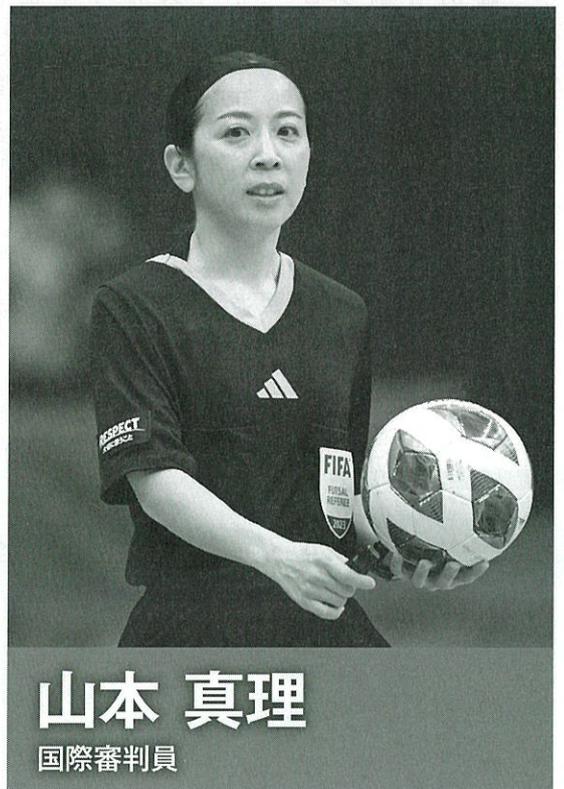
No Football, No Life

「国内外の仲間たちと
研さんを積んでいきたい」

フットボールに関わる人々、フットボールを支える人々にインタビューを実施し、フットボールの可能性や魅力に迫る本連載。

第11回は、国際審判員として活躍している山本真理さんに話を聞いた。

○オンライン取材日・2025年7月16日



山本 真理
国際審判員

新しい世界を知った 大学生時代

——現在、所有されている審判ライセンス、担当されている試合を教えてください。

山本 サッカー、フットサルともに1級審判員の資格を持っており、フットサルでは国際審判員に登録しています。サッカーはWEリーグとナadeshicリーグ、フットサルはFリーグディビジョン1とディビジョン2、日本女子フットサルリーグを担当しています。

——フットボールに携わるようになったきっかけは何ですか。

山本 私が通っていた小学校で、友だちのお父さんが男子サッカーチームのコーチを務めていたのですが、あるとき、女子チームをつくってくれたんです。そこで仲の良い友だちとボールを蹴り始めたのがきっかけです。その後、中高一貫校で女子サッカー部に入り、進学した東京女子体育大学でもサッカーを続け、社会人になってからは20代半ばまで東京都女子サッカーリーグでプレーしていました。

——本格的にプレーされていたのですか。

山本 東京女子体育大では、現在、ナadeshicリーグのオルカ鴨川で

GMを務めている北本綾子さんと同期でした。北本さんは在学中、さいたまレイナスFC(三菱重工浦和レッズレディースの前身)に移籍しました。私はサッカー2級審判員のライセンスを持っていたのでナadeshicリーグの副審を担当することがあり、立場は違っても彼女と同じ舞台に立てたことをとてもうれしく思いました。頻繁に連絡を取っているわけではありませんが、今でもときどき、競技規則について質問を受けたりします。

——審判員のライセンスを取得された経緯は？

山本 中学3年生のとき、女子サッカー部の顧問に勧められて友人とサッカー4級審判資格を取得しました。その後、チームの紅白戦などで経験を積んで、高校2年生のときにサッカー3級審判員の資格を取ったのですが、そのころは大学でも選手としてサッカーを続けようと思っていたので、審判員になることは頭になかったんです。

大学に入ると、複数の人たちに審判員を続けてみないかと言われるようになり、徐々に真剣に考えるようになりました。特に、女子

で初めて国際審判員に選ばれた吉澤久恵さんに誘っていたいたことが大きかったように思います。大学2年生のときにサッカー2級審判員に合格し、そこから本格的に審判活動に取り組みようになりました。2級になると全国規模のリーグも担当するので新しい世界を知ることができました。選手としてたどり着けなかった舞台に審判員として挑戦するチャンスがあるなら、1級ライセンス取得を目指そうと考えるようになり、サッカーとの向き合い方も大学2、3年生のころに変わりました。

——審判員の魅力を感じるの、どんなときですか。

山本 言葉にするのは難しいのですが、選手に自分の意図が伝わったと感じるときです。例えばアシニアともいえるようなプレーがあり、それを繰り返さないでほしいと選手に伝えたとき、その後、その選手がこちらの意図をくんでくれたことで試合がスムーズに運んだときは充実感を得られます。とはいっても、あのときは選手にもっとこういふ伝え方をすればよかったと反省することばかりなんですけど。

——悔しいことのほうが印象に残りますからね。

山本 それをバネに頑張ってきました。3級審判員のライセンスを取得を目指していた高校時代、中学生の大会で笛を吹いたときのことは今でも鮮明に覚えています。当時は主審を担当することに慣れてなくて、緊張していたこともあって選手交代のときにミスをしてしまいました。そのとき、ベンチにいた監督からかなり厳しいことを言われてショックを受け、同行してくださった顧問に試合後、「審判員をやっていく自信がありません」と伝え、落ち込んだまま帰路に就きました。そのときは自信を失いかけていましたが、半面、「もっと頑張るぞ」という気持ちに火がついた、重要な出来事だったと思います。

ともに試合をつくり助け合う仲間がいる

——フットサルの審判員を始められたきっかけは何でしょうか。
山本 07年に初めてFリーグの試合を観戦し、サッカーと異なる競技規則や、パワープレーなどを駆使したスリリングな試合を目の当

たりにして、フットサルはとても魅力的だと感じたんです。当時はサッカーの1級審判員を目指していたので、すぐにはフットサルの審判員になろうとは思いませんでしたが、サッカーの1級審判員になってから日本女子フットサルリーグが創設され、フットサルでも国際審判員を育成しようという機運が高まっていました。その後、サッカー1級審判員はフットサル1級の審判ライセンスの試験を受けられることを知り、これはチャンスだと思って仲間たちと一緒に申し込みました。

——18年にフットサルの国際審判員に登録され、今年5月、AFC女子フットサルアジアカップ中国2025に参加されました。

山本 18年の前回大会で担当審判員に選出してもらい、その後、コロナ禍での中止を経て7年ぶりに開催された大会でした。再び参加することができ、とても光栄に思いました。フットサル日本女子代表が初優勝を飾るシーンを会場で見られることもできて、強く印象に残っています。大会全体を見ても18年から各国がレベルアップしていることを肌で感じました。

FIFAフットサル女子ワールドカップの予選を兼ねていたこともあって、どの選手も一つ一つのプレーで相手を上回ろうという執念を見せていました。

——他国の審判員のレフェリングについてはいかがでしょうか。

山本 今回のアジアカップに参加した審判員とは、ほかの大会や試合で一緒になるのですが、みんなたまたまが洗練されていて存在感があります。その点は自分に足りない部分で、身につけるべき要素だと思っています。

——今後の目標を教えてください。

山本 自分が任された全ての試合で両チームが全力を尽くせるよう、最善のレフェリングをすることです。それによって観客にとっても魅力的な試合になると思っています。いろいろな巡り合わせや多くの人たちの協力があつて国際審判員をさせてもらっているの、国際舞台で必要とされる審判員を目指しています。幸い、国内外に切磋琢磨できる仲間たちがいるので、共に研さんを積んでいければと思います。

——最後に、審判員を目指す女性にメッセージをお願いします。

山本 高いハードルだと感じるかもしれませんが、最初は誰でも怖いものです。審判員は決して孤独ではなく、助け合いながら試合をつくっていく仲間がいます。その仲間とともに成長する過程でやりがいを感じることもできます。フットサルの場合は、男女を問わず審判員の数がまだ少ないので家族のように交流することができ、さまざまなお話を教える機会もあります。選手や観客と異なる視点で試合に携わるうちにフットボールがもっと楽しいものになると思います。興味がある方は、ぜひ思い切ってチャレンジしてください。



フットサル特有のスリリングな試合展開に魅了され、サッカーだけでなく、フットサルの審判員を志すようになったという

Profile

山本 真理(やまもと まり)

1983年5月14日生まれ、東京都出身。小学生のときにサッカーを始め、共立女子第二中学校・高校、東京女子体育大学でプレー。社会人時代は東京都女子サッカーリーグのチームで20代半ばまでプレーを続けた。中学3年生でサッカー4級審判員、高校2年生で3級の資格を取得する。大学進学後、試合のレフェリングを任される機会が増え、大学2年生のときに2級審判資格を取得。現在はサッカー1級審判員、フットサル1級審判員の資格を保有し、2018年にフットサル国際審判員として登録し、同年、AFC女子フットサル選手権タイ2018で審判員にアポイント。2025年5月にはAFC女子フットサルアジアカップ中国でも審判員を務めた。

それはとても美しく、特別なシーンでした。

7月6日に東京の国立競技場で開催された陸上競技の日本選手権最終日、最終種目の女子百メートルハードル決勝。優勝した9月の世界選手権（東京）の代表権獲得に大きく近づくと、重要なレースは大激戦となりました。

このレースは、この競技における「レジェンド」寺田明日香選手（ジャパンクリエイト）の「最後の日本選手権」として注目されていました。しかも12秒69という現在の日本記録を持つ福部真子選手（日本建設工業）を中心にハイレベルな選手がそろっており、大会のフィナーレにふさわしいものとなりました。

勝ったのは内側の第4レーンを走った田中佑美選手（富士通）か、追いついた第7レーンの中島ひとみ選手（長谷川体育施設）か——。場内の大型映像装置に出た「速報」は、1位中島選手、2位田中選手。タイムはともに12秒86。しかしその数字が点減し、中島選手12秒851、田中選手12秒852と表示されます。1000分の1秒差の勝負だったということです。

全力を出し切った8人のランナーは、寺田選手のところへ次々と駆け寄り、田中選手は「楽し

いつも心に

連載 Vol.148

大住良之
(サッカージャーナリスト)

リスペクト

RESPECT
大切に思うこと

スポーツの特別なシーン

かった！」と言いながら寺田選手、福部選手と肩を組みました。そして口を押さえて喜びを表現する中島選手に拍手しながら歩み寄り、「おめでとう」とハグしました。

大型映像装置には、まだ3位以下の結果が出ていません。8人はやがて第一コーナーのトラック上に集まり、輪をつくって座ると、わいわい話しながら結果が出るのを待ちます。ところがレース結果は次々と変わり、みんな驚いたり、笑ったり。まるで女子高生の集まりのような雰囲気になります。

ようやく最終的な結果が出たのは数分後。他の6選手が拍手する中、「逆転」で1位が確定した田中選手と2位になった中島選手が輪の中から立ち上がり、ハグし合います。そして最後は全員で手を取り合って横一列に並び、全員で両手をつないでスタンドの観客に振ったのです。もちろん、どの選手も笑顔いっぱいでした。

スポーツには勝敗があります。スポーツの最も大きな価値は、勝つために努力することにあると、私は思っています。努力を尽くした結果の勝利がうれしくないはずがありません。そして同時に、血のにじむような努力をしたことが報われなかったときの落

胆や悔しい思いは当然のことです。それは、勝敗という結果が伴うあらゆるスポーツに共通することです。

しかしこの女子百メートルハードル決勝を走った選手たちは本当に「特別」でした。最後に8人で並んでスタンドに手を上げたとき、そこには「勝者」も「敗者」もなく、努力を尽くしてこの場に到達し、全力を出し切った人々の美しい姿だけがありました。

その輪は、寺田選手という存在があつたことだったかもしれない。選手としてピークにあった23歳のときにケガで引退しながら、その後、結婚・出産を経て7人制ラグビーに挑戦し、29歳で陸上競技に復帰、その年に19年間保たれてきた日本記録を破り、2021年の東京オリンピックに出場して準決勝まで進出。そのレジェンドの「最後の日本選手権」の決勝を一緒に走れたことの喜びは、全員に共通したものであったでしょう。

この「第109回日本陸上競技選手権大会（天皇杯JFA全日本サッカー選手権大会よりも歴史のある大会です）」の女子百

女子100mハードル決勝を走り終えた後、互いの手を取ってスタンドにあいさつする8人の選手たち(左から3人目が初優勝した田中佑美選手、4人目が寺田明日香選手、5人目が2位となった中島ひとみ選手、右から2人目が福部真子選手)



写真：長田洋平/アフロスポーツ

メートルハードルは、私にとつてスポーツの理想像のようなレースでした。偶然、そのシーンをライブのテレビ中継で見ることができて幸運でした。「自分の力を出し切ったレースだったので、一番でも2番でもいいかと思っていました」と、表彰式後、田中選手は話しました。

一方、2位となった中島選手は、世界選手権の代表入りをするために今後の大会で参加標準記録（12秒73）突破を目指すと言っていました。そしてその言葉通り、わずか2週間後にフィンランドで行われた大会で12秒71の好記録を出して優勝、世界選手権出場を大きく引き寄せたのです。



日本サッカー協会

<https://www.jfa.jp/>

環境省制作の熱中症予防動画に宮本恒靖会長、森保一監督が出演

環境省が制作する熱中症予防啓発動画にJFAの宮本恒靖会長、SAMURAI BLUE (日本代表)の森保一監督が出演した。この動画は宮本会長と森保監督がそれぞれ熱中症警戒アラートの確認、適切なエアコンの使用、こまめな水分・塩分補給などを呼びかける内容となっており、7月5日から天皇杯 JFA 第105回全日本サッカー選手権 (3回戦以降) や環境省が連携協定を結ぶJリーグの試合会場でも放映される。

●環境省が制作した熱中症予防啓発動画の内容

https://www.wbgt.env.go.jp/heatillness_library.php

●動画制作の背景

近年、気候変動等の影響により、国内の熱中症による救急搬送者数は毎

年数万人を超え、死亡者数も高い水準で推移している。熱中症対策を強化するため、2023年4月に気候変動適応法 (平成30年法律第50号) が改正され、2024年4月1日に全面施行された。改正気候変動適応法では、従前の熱中症警戒アラートに加え、さらに深刻な健康被害が発生し得る場合の備えとして、一段上の熱中症特別警戒アラートが創設され、2024年から運用を開始した。

このような背景の下、環境省は、国民に対して熱中症の予防行動を呼びかけるため、熱中症予防啓発動画を制作することとし、宮本恒靖会長とSAMURAI BLUE (日本代表)の森保一監督に出演を打診。JFAとしてもサッカーファミリーをはじめ、多くの人々に熱中症予防や落雷事故防止を呼びかけたいとして、協力することが決まった。

JFA×モルテン「組み立て式サッカーボールを1,000人の子どもたちに届ける!」プロジェクトがスタート

JFAは、JFAソーシャルバリューパートナー/コンペティションパートナーの株式会社モルテン (以下、モルテン) と共に、JFAクラウドファンディングで「組み立て式サッカーボールを1,000人の子どもたちに届ける!」プロジェクトを立ち上げた。同プロジェクトで届けるのは、モルテンが展開する「MY FOOTBALL KIT」で、子どもたちが自らの手でサッカーボールを組み立て、完成したボールで遊ぶという「体験」を通じて、ものづくりの楽しさや挑戦する力を育むもの。

JFAがサッカーファミリーと共に取り組む社会貢献やSDGs達成につながる活動「アスパス!」では、「差別や暴力のない自由で平等なスポーツの世界を一緒に築いて、年齢・性別・障がいの有無等に関係なく輝ける社会をつくらう」を目標の一つに掲げている。さまざまな事情で体験の機会が限られている子どもたちに対してこのプロジェクトは、「つくる」「遊ぶ」「挑戦する」という一連の体験を届けて興味や発見を引き出し、夢を抱きかけや将来の選択肢を広げていくことを目指す。クラウドファンディングで集まった寄付金により、全国の児童養護施設の子どもたちや被災地の子どもたちに組み立て式ボール「MY FOOTBALL KIT」が届けられる。

JFAとモルテンは、この活動を通して体験格差を減らし、子どもたちに教育やスポーツの体験機会を提供していくこととしている。

【プロジェクト概要】

名称 : 組み立て式サッカーボールを1,000人の子どもたちに届ける!
 主催 : 公益財団法人日本サッカー協会、株式会社モルテン
 協力 : 株式会社CAMPFIRE
 概要 : 体験機会の少ない子どもたちに組み立て式サッカーボールを届ける
 期間 : 2025年7月22日 (火) ~ 8月31日 (日)

資金使途 : 子どもたちに届ける活動資金・人件費・リターン仕入れ費

ページURL : <https://camp-fire.jp/projects/862279/view>



【プロジェクト立ち上げの目的】

- 「体験機会の少ない子どもたちにもっと体験と成長のきっかけを届けたい」
この活動は2022年からJFAとモルテンが共同で開催している夏休み自由研究イベントの収益の一部を活用して実施してきた。より多くの子どもたちに体験を届けたいという考えから、規模の拡大と支援先増加のため本プロジェクトを立ち上げた。
- 「体験格差という社会課題を解決したい」
プロジェクトの原点は、モルテンが東南アジアで商品開発のため現地調査を行った際に出会った子どもたち。将来の夢を描くことすらできない現状に直面し、「体験の機会がないこと」が子どもたちの未来に深刻な影響を与えていることを実感したモルテンの考えと、JFAが取り組むアスパス!で掲げる理念や目標が合致した。

【リターン内容】

本プロジェクト限定のグッズや体験を用意 (リターン内容は変更になる場合あり)

- ①MY FOOTBALL KIT 1個 & MY FOOTBALL KIT 1個寄付
- ②高円宮記念JFA夢フィールドツアー & MY FOOTBALL KIT 組み立て体験親子イベント参加権 (スペシャルゲストあり)
- ③宮本恒靖JFA会長サイン入り天皇杯公式試合球
- ④天皇杯 JFA 第105回全日本サッカー選手権大会決勝観戦ペアチケット (MY FOOTBALL KIT 1個付き)

子どもたちに外遊びの場所を！天然芝のグラウンド造成へ！ ～ JFA Partnership Project for NOTO

JFAは7月5日、震災復興プロジェクト「JFA Partnership Project for NOTO」の活動の一環として、石川県珠洲市立三崎中学校の臨時グラウンドに天然芝グラウンドを整備するため、ポット苗を植える作業を行った。

石川県珠洲市は特に家屋の被害が多く、市内の小中学校11校のうち、10校のグラウンドに仮設住宅が建てられ、子どもたちや地域住民が運動できる環境が少なくなっている。要望のあった珠洲市立三崎中学校の仮設グラウンドを芝生化することを通して、仮設住宅の入居者を含む地域住民と学校との連携強化、そして被災地の一日も早い復興に貢献することを目指し



元日本代表の永島昭浩さんも参加し、交流を深めながらポット苗を植え付けた

ている。芝生化には「JFAグリーンプロジェクト」で推進しているポット苗方式を採用した。

ポット苗植え当日は、元サッカー日本代表の永島昭浩さん、JFAのパートナー企業からは麒麟ホールディングス株式会社、株式会社みずほフィナンシャルグループ、東亜道路工業株式会社の関係者、石川県サッカー協会のボランティア、地域住民と三崎中学校の中学生ら総勢約150名が参加し約17,000株の苗を植えた。数カ月後には一面芝の緑のグラウンドになる見込み。



JFA/パートナー企業からは芝刈り機などが贈呈された

なでしこジャパン(日本女子代表)

<https://www.jfa.jp/nadeshikojapan/>



AFC女子アジアカップオーストラリア2026グループステージの組み合わせが決定

アジアサッカー連盟(AFC)は7月29日、オーストラリアのシドニーでAFC女子アジアカップオーストラリア2026(2026年3月1日～21日)の組み合わせ抽選会を開催した。組み合わせ抽選の結果、日本はグループCに入り、ベトナム、インド、チャイニーズ・タイペイと同組になった。

今大会の上位4チームおよび準々決勝敗退チーム同士のプレーオフで勝利した2チームは自動的にFIFA女子ワールドカップブラジル2027の出場権を獲得する。

■グループステージ組み合わせ結果

グループA：【A1】オーストラリア、【A2】韓国、【A3】イラン、
【A4】フィリピン

グループB：【B1】朝鮮民主主義人民共和国、【B2】中国、
【B3】バングラデシュ、【B4】ウズベキスタン

グループC：【C1】日本、【C2】ベトナム、【C3】インド、
【C4】チャイニーズ・タイペイ

■マッチスケジュール

●グループステージ(グループC)

第1戦 3月4日(水) 13:00 [日本時間14:00]
vs チャイニーズ・タイペイ (Perth Rectangular Stadium)

第2戦 3月7日(土) 19:00 [日本時間20:00]
vs インド (Perth Rectangular Stadium)

第3戦 3月10日(火) 17:00 [日本時間18:00]
vs ベトナム (Perth Rectangular Stadium)

●ノックアウトステージ

準々決勝：

3月14日(土) 13:00 [日本時間14:00]

グループB1位 vs グループC2位 (Perth Rectangular Stadium)

3月14日(土) 20:00 [日本時間18:00]

グループA1位 vs グループC3位 (Stadium Australia)

※各グループ3位の中で成績上位2チームの場合)

3月15日(日) 16:00 [日本時間14:00]

グループC1位 vs グループA or B3位 (Stadium Australia)

準決勝：

3月17日(火) 18:00 [日本時間19:00]

※グループC2位の場合 (Perth Stadium)

3月18日(水) 20:00 [日本時間18:00]

※グループC1位/同C3位の場合 (Stadium Australia)

プレーオフ：

3月19日(木) 13:00 [日本時間12:00]

または19:00 [日本時間18:00] (Gold Coast Stadium)

決勝：

3月21日(土) 20:00 [日本時間18:00] (Stadium Australia)

●ニルス・ニールセン監督コメント

来年3月に開催されるAFC女子アジアカップオーストラリア2026は、私たちの最終目標であるFIFA女子ワールドカップブラジル2027へのアジア最終予選も兼ねています。今回、グループステージの対戦相手が決まりましたが、いずれの試合も決して簡単なものではありません。それでも、全ての試合に勝つ可能性があり、そして私たちは勝たなければならない立場にあります。これまで非常に集中して質の高い準備を重ねてきて、この大会に優勝候補の一角として臨めると考えています。今年2月のSheBelieves Cupではアメリカと対戦し、その後の国際親善試合ではコロンビア、ブラジル、スペインといった世界の強豪とも対戦

して非常に価値ある経験を積んできました。7月には東アジアE-1サッカー選手権でアジア諸国とも対戦し、チームのさらなる成長につながっています。これまでの経験と成果を土台に、今後の活動でもさらに入念に準備を進めていきます。一試合一試合を確実に勝ち切り、まずは女子ワールドカップの出場権獲得を最低限の目標として必ず達成したいと考えています。もちろん、私たちの目標はタイトル獲得です。しかし、同じ目標を掲げているチームは他にもあり、優勝できるのはたった一つのチームです。その一つになるために、私たちは全てを懸けて戦います。

フットサル日本代表

https://www.jfa.jp/national_team/futsal_2025/



10月にフットサルブラジル代表と静岡県で国際親善試合

フットサル日本代表が10月17日と19日、静岡県の北里アリーナ富士でフットサルブラジル代表と国際親善試合を行うことが決定した(7月7日発表)。

【国際親善試合(概要)】

<第1戦>

日時：2025年10月17日(金) 19:10キックオフ(予定)

対戦：フットサル日本代表 対 フットサルブラジル代表

会場：静岡県/北里アリーナ富士

主催：公益財団法人日本サッカー協会

主管：一般財団法人静岡県サッカー協会

JFAオフィシャルトップパートナー：キリンビール株式会社、

キリンビバレッジ株式会社

JFAオフィシャルサプライヤー：アディダス ジャパン株式会社

テレビ放送：調整中

<第2戦>

日時：2025年10月19日(日) 14:00キックオフ(予定)

対戦：フットサル日本代表 対 フットサルブラジル代表

会場：静岡県/北里アリーナ富士

主催：公益財団法人日本サッカー協会

主管：一般財団法人静岡県サッカー協会

JFAオフィシャルトップパートナー：キリンビール株式会社、

キリンビバレッジ株式会社

JFAオフィシャルサプライヤー：アディダス ジャパン株式会社

テレビ放送：地上波日本テレビにて放送(24:45~)※関東地区のみ

●対戦国関連データ：フットサルブラジル代表

- ・FIFAフットサルワールドカップウズベキスタン2024：優勝
- ・FIFAランキング(2025年4月4日更新)：1位(日本は13位)
- ・過去の対戦成績：日本の1分け20敗

日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)

<https://www.jleague.jp/>



三菱HCキャピタル株式会社とJリーグ気候アクションパートナー契約を締結

Jリーグは、三菱HCキャピタル株式会社と、気候アクションパートナー契約を締結した(7月1日発表)。契約開始日は2025年7月1日。

●パートナー締結の背景

Jリーグは、“未来の地球にいいパスを”を掲げ、サッカーがある風景を守り、持続可能な形で発展していくことを目指し、自治体や企業、ファン・サポーターを巻き込みながら、気候変動問題や地域課題の解決に取り組んでいる。

2023年5月には、Jリーグ・Jクラブが行う気候アクションの推進や気候変動対策への興味・関心の喚起、さらには人々の日々の行動変容への寄与を目指し、気候アクションに特化した「Jリーグ気候アクションパートナー」を新設。そして、三菱HCキャピタル株式会社が推進するカーボンオフセット付PC-LCMおよびPCのリユースサービスが、Jリーグ職員が環境負荷を低減しながら日々の業務を推進していくことにつながることから「Jリーグ気候アクションパートナー」の契約締結に至った。

●取り組み内容

Jリーグ職員の使用するPCとしてカーボンオフセット付PC-LCM(Life Cycle Management※)およびPCのリユースサービスを導入することで、Jリーグの業務において環境負荷の低減につなげる施策を行う。将来的にはJクラブや地域の企業などにも環境負荷を低減する取り組みを提案し、サーキュラーエコノミーモデルの構築や環境クレジット創出等、地域のゼロカーボンの実現に向けた活動を実施していく予定。

※PC-LCM(Life Cycle Management)：三菱HCキャピタル株式会社またはPCメーカーがカーボンクレジットを付保し、オフセット実施までをワンパッケージで提供するサービス

ベースフード株式会社とJリーグ未来育成パートナー契約を締結

Jリーグは、育成年代（ジュニア/ユース年代）の各種大会などJリーグの行う選手育成に関連する取り組みに特化したJリーグ未来育成パートナー契約を、完全栄養食を開発・販売するベースフード株式会社と締結した（7月10日発表）。契約開始は2025年7月。

●パートナー締結の背景

Jリーグは、育成年代における身体づくりの土台となる“栄養”の重要性にも注目している。ベースフードは、日常の中で自然に栄養バランスが整う“完全栄養食”を開発・提供しており、アスリートやアスリートを目指す若者に向けた支援活動「BASE UPプロジェクト」を展開。「BASE UPプロジェクト」の一環として両者が連携し、アスリートの成長過程における“食”を通じた支援を実施し、未来のトッププレーヤーを目指す若年層に対して、栄養面からのコンディショニング支援を行う新たなパートナーシップを実現する。

●取り組み内容

- 育成年代アスリートへの完全栄養食の提供
ベースフードは、アンダー世代のJリーグ選抜活動において、選手スタッフに対し完全栄養パン「BASE BREAD」などの提供を通じて栄養面をサポート。そのほか、コンディショニングリテラシーの向上を目指した支援（栄養指導等）実施も視野に入れている。
- 選手から同社へのフィードバック機会の提供
Jリーグは、アンダー世代のJリーグ選抜活動に参加する選手・スタッフから、同社に対して、完全栄養食に関するフィードバックを行う。

2025シーズン前半戦のJリーグをデータで振り返る『J STATS REPORT 2025 Q2』を発行

Jリーグは、2025シーズンの前半戦をデータで振り返る『J STATS REPORT 2025 Q2』を発行した。同レポートでは、データで選ぶベストイレブン、アクチュアルプレーイングタイム、アウトオブプレータイム、ゴール、世界トップ水準との比較をまとめている。J1とJ2は第19節、J3は第16節終了時点のデータを使用（J1は2025年6月15日時点で未開催の試合を除く）。

名称	: J STATS REPORT 2025 Q2
発行日	: 2025年7月4日（金）
発行	: 公益社団法人 日本プロサッカーリーグ
URL	: https://jlib.j-league.or.jp/#/content/92
PDFデータ	: https://www.jleague.jp/img/pdf/31343_01.pdf



THINK THE BALL PROJECT presents 「サステナカップ2025」がギネス世界記録™を達成

Jリーグは7月11日、NTT株式会社と共同で推進する気候アクションプロジェクト「THINK THE BALL PROJECT」の一環として実施した「サステナカップ2025」において、「サッカーリーグのファン・サポーター主導のサステナビリティ活動に1か月で参加した最多人数」(Most participants in a fan-powered sustainability campaign for a football league in one month)のギネス世界記録™を達成したことを発表した。

■ギネス世界記録™ 認定概要

挑戦名：サッカーリーグのファン・サポーター主導のサステナビリティ活動に1か月で参加した最多人数

Most participants in a fan-powered sustainability campaign for a football league in one month

期間：2025年5月31日（土）～6月29日（日）

認定参加人数：31,694人

●THINK THE BALL PROJECT presents 「サステナカップ2025」の実施
https://think-the-ball.com/sustainable_cup/index.html



●今後の展望

「THINK THE BALL PROJECT」および「サステナカップ」は、Jリーグ全60クラブのファン・サポーターと各ステークホルダーが連携し、サステナブルな活動や環境貢献活動を推進するためのプラットフォーム。今後もその提供価値を高め、多くのファン・サポーター、地域の人々と共に、気候アクションの輪を広げていく。

「Sports for Climate Action Framework（スポーツを通じた気候行動枠組み）」に署名

Jリーグは、気候変動という喫緊の地球規模の課題に対し、スポーツ界として具体的なアクションを推進するべく、UNFCCC（国連気候変動枠組条約）が主導する「Sports for Climate Action Framework（スポーツを通

じた気候行動枠組み）」に署名した（7月15日発表）。

Jリーグは2024年2月に「Jリーグ気候アクションロードマップ」を公表し、Jリーグの試合運営や事業活動を通じた、環境に対するネガティブな

インパクトの削減も進めている。今回の国際的なフレームワークへの署名を通じ、ネットゼロ（温室効果ガスの排出量が差しゼロになっている状態）を目指すことで、さらにこれらの活動を促進する。

■Sports for Climate Action Framework（スポーツを通じた気候行動枠組み）

本枠組みは、ネットゼロ社会の実現に向けてスポーツ界が一丸となり行動することを目的に、2018年のCOP24（第24回気候変動枠組条約締結国会議）において、UNFCCCとIOC（国際オリンピック委員会）の連携により設立された。署名団体は、以下の5つの原則に基づいて行動することが求められる。

原則1 より大きな環境責任を担うため、組織的な取り組みを行う

原則2 気候変動の全般的な影響を削減する

原則3 気候変動対策のための教育を行う

原則4 持続可能で責任ある消費を推進する

原則5 情報発信を通じ、気候変動対策を呼びかける

●本枠組みへの署名を受けた、Jリーグの具体的な気候アクション

- 2030年の中間目標および長期的な排出削減目標の設定：2030年までに最低でも温室効果ガス排出量50%削減、2040年までにネットゼロ排出の目標を掲げる
- 測定と報告：温室効果ガスの排出量および削減の進捗状況を毎年測定・公表する
- ネットゼロ達成に向けた計画の測定：署名から12か月以内に、中間目標の達成に向けた具体的な行動計画を提出する
- 発信：この気候アクションへの取り組みを、すべてのステークホルダーに対して発信する

■2026特別シーズンにおける特別大会

2026/27シーズンからのシーズン移行に向けて、2026年前半（2026年1月から6月）に2026特別シーズンとして開催する特別大会について、大会スケジュールや今後の各種発表予定は下記の通り（7月29日発表）。

■2026特別シーズンに開催を決定している大会

・J1リーグ特別大会（仮称）

・J2・J3リーグ特別大会（仮称）

*JリーグYBCルヴァンカップ、天皇杯は開催されない。AFCチャンピオンズリーグエリート、AFCチャンピオンズリーグ2は開催される。

■J1リーグ特別大会／J2・J3リーグ特別大会

●報告内容

(1)大会スケジュール

・地域リーグラウンド：2月7日（土）・8日（日）～5月23日（土）・24日（日）

・プレーオフラウンド：第1戦：5月30日（土）・31日（日）

第2戦：6月6日（土）・7日（日）

*各日程については金曜開催の可能性あり。J1リーグ特別大会も含めて、3月の国際選手公式休暇期間にも開催され、当該期間は代表招集が優先される。

(2)登録ウインドー／追加登録期限

・登録ウインドー：1月12日（月）～4月8日（水）*1回のみ

・追加登録期間：5月1日（金）まで

(3)大会名称／レギュレーション等：2025年8月または9月に発表予定

(4)地域リーグラウンドのグループ組み合わせ：2025年12月に発表

*2025シーズンの昇格／降格クラブの確定後、2月・3月頃にホーム開催ができない降雪地域クラブのバランスや、同都道府県クラブができる限り同グループになるようにといった調整を行った上で決定する。

●検討の背景

J1リーグ特別大会とJ2・J3リーグ特別大会は、2026/27シーズンのシーズン移行前に開催される特別なタイミングでの大会となる。6月11日から開幕されるFIFAワールドカップ26までに大会を終了させることを前提にすると非常に限られた期間となり、この中でファン・サポーターやステークホルダーにとって価値の高い大会を開催するために60クラブで議論をし、さまざまな対応を検討・決定している。

※J1リーグ特別大会、J2・J3リーグ特別大会の大会方式等の詳細はQRコードより参照



■2026特別シーズンからの「選手登録枠」・「ホームグロウン制度」

Jリーグは7月29日の理事会で、2026年1月から6月の2026特別シーズンについて、下記の2点を決議した。

(1)変更する事項：プロ選手の登録枠上限を設けない *2026特別シーズン以降

(2)変更しない事項：現行のホームグロウン基準人数を継続する *2026特別シーズンのみ

(1)プロ選手の登録枠上限を設けない *2026特別シーズン以降

●決議内容：2026特別シーズンより、プロ選手の登録人数に関する上限を設けない。

●検討の背景：

・現在、選手登録できるプロA選手は、第2種（ユース）登録選手も含めてクラブ全体で原則27名としている。

・2026特別シーズンよりプロABC契約制度が撤廃されるため、「27名枠」に替わるルール設計が必要だった。

・その中で①現行ルールをベースとした上限設定、②ACLと同様に21歳以下の選手枠を設定、③上限を設けない、いずれかの方向性で検討を開始した。

●決議の理由：2026特別シーズンから始まる選手契約制度改定に伴う年俸下限の導入など、これまでよりも選手編成の制約が強まる中、過度なルール設定よりも、登録人数の上限を設けないことにより、各クラブの方針で多様な選手編成を行えるようにすることとした。

(2)現行のホームグロウン基準人数を継続する *2026特別シーズンのみ

●決議内容：2026特別シーズンについて、2025シーズンと同様のホームグロウン基準人数を継続する。

●補足事項：

- ・2026/27シーズンからのホームグロウン制度については、現在、検討を行っている。
- ・本ルールは、これまでJFA「プロサッカー選手の契約、登録および移籍に関する規則」に記載されていたが、Jリーグ独自のものであることから、来シーズンからはJリーグ規則（Jリーグ規約または試合実施要項

等)へ移管する。

- [参考]現行のルールの概要:Jクラブの第1種チームは、当該シーズンの初回の登録ウインドーの終了日において、次に定める人数以上のホームグロウン選手を登録していなければならない。「2025シーズン J1:4名 J2/J3:2名」

2025/26競技規則「キャプテンオンリー」実施を決定

Jリーグは、2025/26サッカー競技規則の適用開始日に合わせて「キャプテンオンリー」のガイドラインを実施することを決定した(7月29日発表)。

■「キャプテンオンリー」ガイドライン

https://www.jfa.jp/documents/pdf/soccer/law_soccer_250619_03.pdf



■運用について

- キャプテン以外が審判員に話しかけることができるか。

キャプテン以外の競技者と審判の通常のやり取りは認められている。

重要な事象などの場合のみ、競技者が主審を威嚇したり取り囲んだりするのを防ぐために、各チームから主審に話しかけることができるのは1人の競技者のみ(通常はキャプテン)。

- キャプテンがGKや外国籍選手の場合の対応はどうか。

代理の選手を立てることができる。どの競技者が代理となるかを、キックオフ前のコイントスマでに主審に伝えなければならない。選手交代で代理の選手が変更となる場合は、選手交代の際に主審に伝える必要がある。

- 主審がキャプテン以外の選手とコミュニケーションを取りたい場合はどうか。

キャプテン以外の競技者とやり取りすることも、主審の裁量に委ねられている。

■2025/26サッカー競技規則の適用開始日

- 2025明治安田J1リーグ：8月9日(土)
- 2025明治安田J2リーグ：8月2日(土)
- 2025明治安田J3リーグ：8月16日(土)
- 2025JリーグYBCルヴァンカップ：9月3日(水)

明治安田Jリーグワールドチャレンジ2025 presented by 日本財団 ～ Jリーグでは初事例となるレフェリーカメラを試験導入

7月30日に開催された明治安田Jリーグワールドチャレンジ2025 presented by 日本財団 横浜F・マリノス対リヴァプールFCの試合において、Jリーグフェアプレーパートナーである独立行政法人日本スポーツ振興センター(JSC)の協賛の下、審判員が試合中に小型のボディカメラを装着する通称「レフェリーカメラ」を試験的に導入した。レフェリーカメラは、国際サッカー評議会(IFAB)が審判員のレフェリング技術向上に資する環境を提供する一環で試験的に運用している取り組みで、各国で年2回まで試験導入することができる。

JリーグはJFAと連携し、国内で初めてIFABの同制度を活用し、明治安田Jリーグワールドチャレンジ2025 presented by 日本財団で試験的にレフェリーカメラを導入。なお、FIFAクラブワールドカップ2025では、レフェリーカメラによる映像の一部がライブ配信された。ライブ配信は現時点ではIFABが特別に認めた競技会に限られることや、Jリーグで初の実施で安全な運用に注力すべきことなどから、今回の試験導入では行われなかった。審判員の指導教材として活用の他、YouTubeのJリーグ公式チャンネル内の公式番組「Jリーグ審判レポート(シンレポ!)」などで撮影映像の一般公開を予定している。

●レフェリーカメラ

審判員が試合内で胸や耳などのボディに装着する視点カメラで、審判員の主観的な視点での試合映像の撮影が可能となります。明治安田Jリーグワールドチャレンジ2025 presented by 日本財団では主審が装着します。

●試験導入の目的

1. レフェリング技術の向上を目的とした指導教材としての活用
海外クラブとの国際試合や重要な試合を担当する審判員のレフェリング基準、ポジショニング、視点、視野の確保、選手とのコミュニケーションなどをよりリアリティーをもって学ぶことのできる学習素材として活用する。
2. 審判の重要性の理解促進
審判目線の映像を通して「フェアプレー」を司る審判の難しさや重要性を伝え、理解促進につなげる。また、審判という役割への注目を高め、トップレベルを目指す人材の育成および裾野の拡大につなげる。

Jリーグ主催試合における最多入場者数記録67,032人を更新

7月30日の明治安田Jリーグワールドチャレンジ2025 presented by 日本財団 横浜F・マリノス対リヴァプールFC(日産スタジアム)の試合において、Jリーグ主催試合における最多入場者数記録を更新した。

【Jリーグ主催試合 入場者数上位5試合】

入場者数	大会名	開催日	ホーム	アウェイ	スタジアム
67,032人	明治安田Jリーグワールドチャレンジ 2025presented by 日本財団	2025年 7月30日	横浜FM	リヴァプールFC	日産ス
65,049人	Audi Football Summit powered by docomo	2023年 7月26日	FCバイエルン・ミュンヘン	マンチェスター・シティ	国立
64,922人	パリ・サン＝ジェルマン ジャパンツアー 2022	2022年 7月20日	パリ・サン＝ジェルマン	川崎フロンターレ	国立
64,899人	2004サントリー チャンピオンシップ 第1戦	2004年 12月5日	横浜FM	浦和	横浜国
63,854人	2019明治安田生命 J1リーグ 第34節	2019年 12月7日	横浜FM	FC東京	日産ス

日本女子プロサッカーリーグ(WEリーグ) <https://weleague.jp/> 

2025/26 WEリーグパートナー契約

WEリーグは、下記の通り2025/26シーズンのWEリーグパートナー契約を締結することを決定した(7月1日発表)。

カテゴリー／契約社名(2025年6月30日時点)	契約開始年
WEリーグダイレクトパートナー	
SOMPOホールディングス株式会社	2024年
WEリーグゴールドパートナー/クラシエカップパートナー	
ダイハツ工業株式会社	2021年
WEリーグシルバートナー	
クラシエ株式会社	2023年
株式会社西原商会	2025年
WEリーグシルバートナー/オフィシャルサプライヤー	
株式会社ビーズインターナショナル	2021年

カテゴリー／契約社名(2025年6月30日時点)	契約開始年
WEリーグゴールドパートナー	
DAZN Japan Investment 合同会社	2021年
WEリーグオフィシャルメディアパートナー	
株式会社読売新聞東京本社	2024年
WEリーグオフィシャルレイアウトパートナー	
KPMGコンサルティング株式会社	2023年
WEリーグオフィシャルレイアウトパートナー	
株式会社モルテン	2021年
WEリーグオフィシャルレイアウトパートナー	
びあ株式会社	2021年

株式会社西原商会とシルバートナー契約を締結

WEリーグは、株式会社西原商会と、シルバートナー契約を締結することを決定した(7月1日発表)。契約期間は2025年7月1日から2028年6月30日。

●西原一将 株式会社西原商会 代表取締役社長コメント
西原商会は、昨年度2024-25シーズンのWEリーグカップ(クラシエカップ)にて「セミファイナル・ファイナルパートナー」を務めさせていただき、このたびシルバートナーの一員となりました。女子サッカーは、

今後のサッカー界の可能性を大きく広げる力を持っていると感じております。西原商会の、「日本の食を通じて国内のみならず、世界中においてしさを届けたい」という想いと、WEリーグの選手皆様の「世界へ挑戦し、はばたく姿」はわれわれの想いとも重なり、心から共感しております。われわれも、食の力で世界に挑む企業として、共に歩んでいければと願っております。今後も、WEリーグのさらなる発展を心より応援してまいります。

特任理事の選任

WEリーグは、2024/25 6月度理事会において近賀ゆかり氏を特任理事に選任することを決定した(7月1日発表)。

■追加選任理事

●特任理事

名前 : 近賀 ゆかり(きんが ゆかり)
所属 : サンプルチェ広島レジーナ アンバサダー

●主な経歴

生年月日 : 1984年5月2日
出身地 : 神奈川県

サッカー歴 : 東汲沢小学校サッカークラブ/横須賀シーガルス / 湘南学院高校/日テレ・ベレーザ / INAC神戸レオネッサ /アーセナル・レディース(イングランド) / INAC神戸レオネッサ / キャンベラ・ユナイテッド(オーストラリア) / 杭州女子倶楽部(中国) /メルボルン・シティ(オーストラリア) / 杭州女子倶楽部(中国) /メルボルン・シティ(オーストラリア) /オルカ鴨川FC /メルボルン・シティ(オーストラリア) /オルカ鴨川FC / サンプルチェ広島レジーナ※2024-25シーズンをもって現役引退

WEリーグ通算 : WEリーグ47試合3得点、WEリーグカップ9試合0得点
日本代表通算 : 国際Aマッチ 100試合出場5得点

【クラシエ株式会社とWEリーグカップ戦タイトルパートナー契約を更新

WEリーグは、クラシエ株式会社と、2025/26シーズン「WEリーグカップ戦タイトルパートナー契約」を更新した(7月22日発表)。

■カテゴリー／契約社名

WEリーグカップ戦タイトルパートナー／クラシエ株式会社

■大会名称

2025/26 WEリーグ クラシエカップ

(英文表記：2025/26 WE LEAGUE Kracie CUP)

【2025/26 シーズン表彰概要について

WEリーグは7月30日に開催した理事会において、2025/26シーズンの表彰に「月間ベストオフェンス賞」「月間ベストディフェンス賞」「最優秀オフェンス賞」「最優秀ディフェンス賞」を新設することを決議した。

【目的】

各月のリーグ戦において最も優れた攻撃・守備のシーンおよび選手を選考し、称えるため。また本賞を新設することにより、対外的にWEリーグの魅力を発信・露出していくことを企図している。

【月間ベストオフェンス賞・月間ベストディフェンス賞の新設】

●選考方法

- ・各クラブがオフェンス・ディフェンスシーンを推薦
- ・ファン・サポーター投票を実施
- ・月間ベストオフェンス賞・月間ベストディフェンス賞選考委員会を開催し、上記クラブ推薦とファン投票の結果を踏まえて、各賞を決定する

●選考委員会

- ・チェアが指名した者により構成する
- ・選考委員は理事、特任理事、元選手、メディア関係者などで構成

●表彰対象

- ・2025/26 SOMPO WEリーグ

- ・表彰対象月：8月、9月、10月、11・12月、2・3月、4・5月(全6回)

●発表スケジュール(予定)

- ・当該翌月発表 ※発表方法や詳細スケジュールは別途発表

●記念品の授与

- ・月間ベストオフェンス賞・月間ベストディフェンス賞受賞者には記念品を授与する

【最優秀オフェンス賞・最優秀ディフェンス賞の新設】

●選考方法

各月で選出された月間ベストオフェンス賞・月間ベストディフェンス賞の結果に基づき、表彰選考委員会にて最優秀オフェンス賞・最優秀ディフェンス賞を決定し、WEリーグアウォーズにて表彰する。

●賞金および記念品の授与

最優秀オフェンス賞・最優秀ディフェンス賞受賞者には、それぞれ賞金200,000円および記念品を授与する。

※その他詳細は下記参照

<https://weleague.jp/news/1662/>



【競技規則変更に伴うキャプテンオンリー適用

2025/26競技規則の変更において、キャプテンオンリーが新たに規定されることになった。その実施については競技会ごとに決定することができることから、WEリーグにおいては2025/26シーズンの公式試合より適用することを7月30日の理事会で決議した。

【内容】

●適用の目的

- ・重要な事象または決定の後に、競技者が主審を威嚇したり取り囲んだりすることを防ぐため。
- ・FIFAの国際試合ですでに適用されており、世界基準のルールに慣れる必要があるため。
- ・審判員への取り囲みを防ぐことにより、サッカーという競技のイメージが守られ、試合再開までの時間を短縮できる。

●キャプテンオンリーとは

- ・キャプテン以外の競技者と主審の通常のやり取りは認められている

- ・主審は、必要に応じて、キャプテンまたは事象にかかわった競技者に重要な決定について説明する
 - ・重要な事象時に、主審に話しかけることができるのはキャプテンまたは代理のみとする
 - ・主審は、他の競技者に対して近づかないように口頭または身振りで指示できる
 - ・許可されていないのに主審に近づいたり、取り囲んだりする競技者は、警告されることがある
 - ・例えば競技者が反則を行った、ファウルを受けた、または負傷した場合、キャプテン以外のどの競技者とやり取りするか、どの競技者が主審に話しかける(アプローチする)ことを認めるかは、主審の裁量に委ねられる。
- ※重要な事象の例：得点にかかわる事象／PKにかかわる事象/退場(2つ目の警告によるものではない)に関わる事象

2025/26シーズン入場者数増に向けた取り組み

WEリーグは7月30日の理事会で、2025/26シーズンにおける入場者数増に向けた取り組みとして、各クラブの集客注力試合に対してサポートすることを決議した。

【取り組みの内容】

●集客注力試合パイロットクラブの募集

- ・1万人を集客目標とするパイロットクラブを募集し、プロモ・マーケティングを費用面でサポート
- ・そこで見いだされた「集客の型・事例・ノウハウ」を他クラブにも共有する

普及目的スタジアム基準に沿って承認したスタジアム

WEリーグは、新設した普及目的スタジアム基準に基づき、下記のスタジアムを承認した。

【内容】

- ・申請クラブ：ちふれAS エルフェン埼玉
- ・スタジアム名：熊谷スポーツ文化公園ラグビー場(〒360-0004 埼玉県熊谷市上川上300)
- ※座席数：23,085席／ゴール：移動式
- ・試合：2025/26 SOMPO WEリーグ第2節
- ・対戦：ちふれAS エルフェン埼玉 vs セレッソ大阪ヤンマーレディース

・日程：2025年8月16日(土)

- ・申請クラブ：ジェフ千葉レディース
- ・スタジアム名：ゼットエーオリブリススタジアム(〒290-0047 千葉県市原市岩崎536)

※座席数：8,515席

- ・試合：2025/26 SOMPO WEリーグ第11節
- ・対戦：ジェフ千葉レディース vs サンフレッチェ広島レジーナ
- ・日程：2025年10月18日(土)

日本女子サッカーリーグ(なでしこリーグ)

<https://www.nadeshikoleague.jp/>



2025年度なでしこリーグ新人研修会を開催

なでしこリーグは6月30日と7月1日、なでしこリーグ新人研修会を開催した。参加したのは、今年度からなでしこリーグ所属チームでプレーをする新人選手と、昨年まで参加の機会がなかった2年目以降の選手を含めた51人。この新人研修は毎年行われており、なでしこリーグの選手に求められる心構えやビジネスマナーなどを学ぶ貴重な機会となっている。

選手たちは2日間にわたって7つの講義を受講。7人の講師を招き、女子サッカーの歴史、リスペクト・フェアプレー、キャリアデザイン、アスリートの栄養と食事、アンチ・ドーピング、女性アスリートのコンディショニング、SNSとの付き合い方、ビジネスマナーやコミュニケーションのポイントについて学んだ。

●なでしこリーグ新人研修会の目的

- ・なでしこリーグの理念や日本の女子サッカーの歴史を知り、女子サッカーのトップ選手としての自覚を促す
- ・少女たちのロールモデルとなるべく、そのための知識や心構えを醸成する
- ・女性活躍を推進し、社会に影響力を持つ選手を育成する
- ・社会人として活躍していくために、必要な立ち居振る舞いやマナー等を学ぶ機会とする

※2025年度なでしこリーグ新人研修会の詳細はこちら

https://www.nadeshikoleague.jp/news/2025/0714_0934.html



なでしこリーグ新人研修会に参加した選手たち



講義を通して学ぶ中、なでしこリーグの選手としてどうあるべきか、どうありたいかを選手それぞれが考える濃い2日間となった

誰もが安心・安全に心からサッカー、スポーツを楽しむために



お互いに、ありがとう！

サッカーは楽しいもの。自分がやりたくてやるもの。そのためにも、**安心、安全な場**が必要です。

サッカーには暴力も暴言もありません。子どもたちの**挑戦する勇気**を見守り、励ましてください。

子どもたちは精一杯がんばっています。**応援**してください。

相手チームも**大切な仲間**です。両方の良いプレーに拍手を送ってください。

審判員も、子どもたちが思い切ってゲームができるように、**良いゲーム**になるように、一生懸命務めています。頑張って勉強も準備もしています。応援してください。

フェアプレーはみんなの約束です。1人審判はみんなの協力で成り立つサッカーのすばらしさの証です。

運営の人達は大変です。子どもたちのために良い大会にしたいと頑張っています。ぜひ「**おつかれさまです**」と声をかけてください。

保護者の皆さん。いつもありがとうございます。子どもたちは皆、**感謝**しています。

サポーターも、すばらしいゲームをつくる大事な仲間です。**爽快な良いゲーム**を！

ボールは僕の相棒であり、**宝物**。スパイクもバッグもお気に入り。大切にします。

すばらしいピッチ、きれいな施設。きれいに使う。**ありがとうございます**。

たくさんのチャレンジ。成功と失敗。達成感とくやしさ。勝っても負けても、すばらしい経験。子どもたちの**成長をサポート**できることは幸せです。



日本フットボールリーグ (JFL) 便り



「頂戦」の覚悟を胸に、地域密着クラブの進化と挑戦

FCティアモ枚方 運営・広報 酒井咲良

<https://www.fctiamo.net/>

FCティアモ枚方は、大阪府枚方市・寝屋川市・交野市を中心とする北河内地域をホームタウンとし、JFL (日本フットボールリーグ) に所属しています。

昨シーズンはJFL昇格後、最高成績となる3位でフィニッシュ。昇格から5年目を迎える今季はJFL優勝と、さらなる高みを目指す強い覚悟を込めて、スローガン「頂戦」を掲げて戦っています。

昨季から引き続きプレーする選手に加え、Jクラブから加入した即戦力や勢いのある新戦力が加わり、二川孝広監督の下でチームは日々進化を続けています。ヘッドコーチには、オーストラリアでの指導経験を持つベン・カーン氏が就任。監督を支えながら、チームの強化に尽力しています。

JFL第16節終了時点での成績は、7勝4分け5敗の6位です。多くの選手から得点生まれ、ここまで28得点を記録。ゴールキーパーから丁寧にボールをつなぐ攻撃的なスタイルで得点を重ねています。JFL優勝を目指し、チーム一丸となって戦い続けます。

クラブ全体としても着実な成長を遂げています。今年6月には、フォファナ マリック選手がJ2・水戸ホーリーホックに完全移籍し、タナグリット ラオーカイ選手は自国タイのU-23代表に選出されました。また、ジュニアユースが日本クラブユース選手権関西大会に初出場を果たすなど、各カテゴリーの選手たちが成果を上げています。

ホームゲームでは毎試合、さまざまなイベントを開催。第14節では「万博開催記念マッチ」と題して、万博推進局や枚方市のご協力の下、公式キャラクター「ミャクミャク」の登場やチアダンスパフォーマンスを実施し、1,240人のファン・サポーターの皆さまにご来場いただきました。

今後も、地域イベントへの積極的な参加を通じて、サッカーを軸に地域の一員として深く根差す活動を展開してまいります。日本サッカー協会、枚方市、寝屋川市、交野市、スポンサーの皆さま、そして日々応援してくださるファン・サポーターの皆さまへの感謝の気持ちを忘れず、期待を超える成果をお届けできるよう努力します。

今後とも、FCティアモ枚方の新たな挑戦にご支援と熱いご声援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



JFL昇格から5年、さらなる高みを目指す

日本フットボールリーグ (JFL) 便り



3年目の躍進。創立10年目で目指すJFL初優勝

沖縄SV 広報担当 金子真弓

<https://www.okinawasv.com/>

2015年12月に元日本代表の高原直泰が設立したサッカークラブ「沖縄SV (おきなわ・エス・ファウ)」は、今年で創立10周年を迎えました。

トップチームは日本フットボールリーグ (JFL) に昇格して2年目となった昨シーズン、第6節まで負けなしで、最下位に沈んだJFL初年度とは違った姿を見せました。しかし、得点しながらも勝ち点に結びつけることができない試合が続くなど、最終的に11勝8分け11敗の9位でシーズンを終えました。主力FWの青戸翔はJFL得点王に輝きました。

入れ替え戦を勝ち抜いて残留した2023年から確実に成長しているものの、克服すべき課題も多く見つかったシーズンでした。

そして今年3月に開幕した3年目のJFL。今季は大卒やJクラブからの期限付き移籍などで12選手が加入 (7月2日現在)。開幕からMF小川嵩翔 (中央大学卒) やDF大野篤生 (同)、MF村田達哉 (東海学園大学卒) ら若手の活躍が目覚ましく、中堅のDF水越陽也、MF有田朱里らも安定したプレーを見せています。元日本代表の我那覇和樹、運動量が豊富な上野瑤介らFW陣のさらなる得点に期待がかかる一方、アカデミー出身のFW平真桜も新たな得点源として、その成長に注目したいところです。

昨シーズンから続投する小野木玲監督はチームの基盤を着実に固め、「常に仕掛けていく」アグレッシブなスタイルを貫いています。天皇杯沖縄県予選では2年連続でFC琉球 (J3) を下して県代表となり、JFLも7月の前期 (第15節) 終了時点で単独首位の成績。後期もこの勢いを落とさずJFL優勝を

目指します。

アカデミーでは、Jクラブの育成を身をもって体験してきたダイレクター兼U-18監督の高柳一誠、ガンバ大阪やギラヴァンツ北九州で活躍した星原健太らが中心となり、トップチームの選手として活躍する宮崎浩太郎がGKコーチとして支えるなど、後進の指導に当たっています。

沖縄SVは、スポーツを中心に地域と共に成長することを目標に「With The Community」をスローガンに掲げています。その中心にある「沖縄コーヒプロジェクト」では耕作放棄地でのコーヒー栽培を進め、栽培に関わっている選手もいます。また、沖縄県の「沖縄サッカーキャンプ」誘致推進事業の事務局として、今年もJクラブだけでなくWEリーグや大学の各チームの誘致や、関連事業の組成など観光振興の一翼を担っています。

今年、クラブ創立10周年を迎えます。設立時から積み上げてきた経験や実績を下地に、地元・沖縄だけでなく全国の人々の心を動かせるようこれまで以上に挑戦を続けていきます。



天皇杯沖縄県予選を優勝し喜ぶ選手たち



なでしこリーグ便り

「子育てする女性」が働きやすいクラブへ

ASハリマアルビオン トップコーチ 西東友里

<https://h-albion.jp/>

ASハリマアルビオンでは、選手だけでなく指導者や運営スタッフなど、クラブ全体で「女性活躍」を目指しており、私も今シーズンからトップコーチに就任し、3歳の息子と母子での単身赴任をしています。

子ども同伴の単身赴任については、母子が共に暮らす方が子どもにとっても安心なのではないかと夫婦で話し合い、決断しました。

単身赴任にあたり、まず優先したことは、練習や仕事上の託児先探しです。平日練習が17時開始のため、夜間託児が可能な保育園を見つけました。土日の練習や試合で保育園利用ができないときは、クラブの岸田直美代表に相談し、スタッフや関係者などをお願いして仕事ができる環境づくりをサポートしてもらっています。チームの遠征・合宿時は、子どもと同行し、活動中はクラブ関係者に子守をお願いし、遠征先に知人家族や私の兄弟家族がいれば頼ることもあります。

子育て制度の活用や周囲の協力を得ながら、子育てと仕事の両立を目指していますが、単身赴任に関しては悩みがたくさんありました。子どもが預け先に慣れるまでどれくらいの時間がかかるのか、何をどこまで周りの人に相談していいのか、子どもが父親と離れて愛情不足にならないか、などです。

実際のところ、子どもは大人よりも環境への順応が早く、新しい保育園やクラブ関係者とすぐに馴染んでくれました。勇気を出して自分の状況と悩みを伝えると、多くの人たちが協力してくれ、ASハリ

マや姫路という町の温かさを感じています。夫とは、毎日のテレビ電話を通して家族で会話をする事でコミュニケーションを取り、月に1度は姫路市に来て子どもと遊び、精神的な距離を少しでも感じることはないよう努めています。

母子での単身赴任経験を通して感じたことは、家族はもちろんのこと、職場や保育園の先生などに相談する勇気と、最善の方法を早め早めに見つけることの大切さです。より早い段階で相談ができる環境があることで子どもも私も安心して日々を過ごすことができます。ASハリマアルビオンは、子育てする女性も働きやすいクラブとして進化していきます。



ASハリマはクラブ全体で女性活躍を目指している

なでしこリーグ便り

なでしこリーグをもっと身近に!～サッカーフェスティバルの開催～

ディアヴォロッソ広島 運営責任者 兼山宏之

<https://diavorosso.club/>

ディアヴォロッソ広島は2019年に広島県熊野町でクラブを設立し、広島県的女子サッカー界、そして「女子サッカーの町」熊野町を盛り上げるべく活動してきました。クラブ設立から4シーズン目でなでしこリーグ2部に参入し、今シーズンでリーグ4年目を迎えています。

なでしこリーグでのホームゲームの開催の際には試合会場および周辺施設で、前座イベントとして「サッカーフェスティバル」を開催しています。

試合会場周辺で活動するU-8からU-12のジュニアカテゴリーをはじめ、U-13のジュニアユース男女、ユース女子、成年女子など、さまざまなカテゴリーのチームを募ったサッカーフェスティバルで、プレーを楽しんだ後は、スタジアムでなでしこリーグの試合を観戦してもらうといったサッカー尽くしの日を提供しています。

参加チームの募集に際しては、弊社クラブスタッフのネットワークに加え、地域・地区サッカー協会や行政、企業の協力を得て、多くのチームに参加いただいています。2024シーズンは延べ168チームが参加。なでしこリーグ開催日は会場がサッカー一色に染まる光景をつくることができました(2024シーズン総観客動員数 5,891人 [前シーズン比+約64%]、2025シーズン第18節終了時点の観客動員数はなでしこリーグ2部第3位)。

また、ジュニア世代の選手たちには、ウォーミングアップ入場時の選手とのハイタッチや試合前入場時のエスコートキッズ、ハーフタイムに実施するチャレンジゲームなど、クラブの選手たちと直接触れ合う機会を提供し、試合を最後まで楽しんでもらえるように工夫しています。

これらの取り組みを通じて、なでしこリーグの観客動員数を伸ばすとともに、ディアヴォロッソ広島への関心を高め、サッカーの楽しさ・素晴らしさに触れてもらうことで地域にサッカー文化を根付かせ、なでしこリーグの価値の向上、そして、ディアヴォロッソ広島を応援してくれる人々の裾野を広げていけるものと考えています。



開催したジュニアサッカーフェスティバルの様子



関東フットサル連盟 地域での活動「リーグ未開催県へのアプローチ」

関東フットサル連盟 理事長 早川祐司

<https://www.jff-futsal.or.jp/>

2025年度、関東フットサル連盟の役員改選により、理事長に就任した早川です。歴代の功績に負けないよう、連盟の発展に誠心誠意、尽力する所存です。

早速ですが、今後の関東フットサル連盟の課題として、登録者の減少を食い止め、増加に転じる必要があると考えています。現在、関東フットサル連盟だけでなく日本フットサル連盟の登録者数の減少が問題となっていますが、日本全体の人口数が減少傾向にあるため、厳しい状況であるのは明白です。

関東フットサル連盟ではピンチをチャンスと捉え、ユース年代の掘り起こしにつなげるべく、新たな施策として、「関東U-18フットサル中央支部プレリーグ」を実施します。関東1都7県でU-18リーグを開催していない県が複数ありますが、その県にも2種登録のチームは存在しています。所属県において3チーム以下の場合、リーグは開催できずフットサルの公式戦に参加できるのはJFA全日本U-18フットサル選手権大会のみという現状から、リーグ参加意欲を持ってもらうために、リーグが開催できていない県を対象にスタートさせました。このリーグ戦の上位チームは関東U-18フットサルチャンピオンズリーグの出場につながる仕組みとなります。

これがきっかけとなり、2～3年後にはそれぞれの県でU-18リーグを開催できるようになっていければと考えています。今回は2種

登録チームを対象としていますが、段階的に女子や大学、シニアなど他のカテゴリーへの広がりも視野に入れています。

今回の施策には関東ユース委員会メンバー、メイン開催県となる埼玉県フットサル連盟役員の皆さまにご協力をいただいています。今後のカテゴリーごとの発展については、都県フットサル連盟の協力がなければ成り立ちません。このような施策をほかの地域連盟の人々とも連携し、さらに発展させることでプレーヤーの選択肢の増加につなげ、サッカー、フットサルの将来に少しでも貢献することが連盟の役目と考えています。



SFAフットボールセンター KAZOヴェロレージ 体育館



あの日を越えて、今を生きる。東北から、ビーチサッカーの未来

Fun Lady's Football Club 監督兼選手(キャプテン) 村上今日子

<https://jbsf.or.jp/>

このたび、静岡県浜松市で行われたJBSFビーチサッカー日本女子選抜のトレーニングキャンプに参加しました。

17歳でU-18サッカー日本女子代表に選ばれ、その後、フットサルを経てビーチサッカーに転向。37歳となった今、再び「日の丸」を背負う機会が訪れるとは思ってもおらず、大変驚いています。これまで支えてくださった方々への感謝をあらためて実感する機会となりました。

私は岩手県釜石市出身ですが、育ちは仙台です。サッカーを始めたのは小学4年生のときで、高校卒業後は東京電力女子サッカー部マリーゼに加入し、2011年に現役を引退しました。

その年に発生した東日本大震災により、勤務先の東京電力福島第二原子力発電所で被災しました。津波や原発事故のショックでサッカーや海と関わるのがつらくなり、どちらも自分の中から抹殺してしまいました。

そんな私をもう一度サッカーの世界に戻してくれたのは、かつて所属していた東京電力マリーゼの先輩でした。仙台を拠点とするビーチサッカーチーム「モスベリオ東北BS」の女子チーム「Fun Lady's Football Club」でビーチサッカーを始めることになり、チームメートもこの挑戦を快く受け入れてくれました。前向きな思いで「海とサッカー」に向き合えるようになったのは、仲間や地域の支えが

あったからです。

今回のキャンプでは、技術や戦術だけでなく、仲間との信頼関係の重要性を強く学びました。砂の上では一人では何もできません。だからこそ、支え合い、声を掛け合う姿勢がより大切になると感じました。現在は、Fun Lady's Football Clubの監督兼選手として活動し、ミズノが運営するスポパーク松森フットサルプラザでフットサルやスクール指導も行っています。また、デフフットサルの取り組みなどを通じて、誰もがボールを蹴られる環境づくりにも取り組んでいます。

東北からビーチサッカーを広げていけるよう、環境と年齢を言い訳にせず、これからも一歩ずつ進んでいきたいと思っています。

このような貴重な機会をいただき、本当にありがとうございました。



浜松市で行われたトレーニングキャンプ



日本障がい者サッカー連盟便り



「世界を日常に」～知的障がい者サッカー日本代表、フランス代表に2戦2勝～

日本知的障がい者サッカー連盟 日本代表監督 西真一

<https://www.jiff.football/>

知的障がい者サッカー日本代表は、来年(2026年)開催される予定のVirtusワールドカップに向けた強化を目的に、6月24日～7月3日に10日間のフランス遠征を行い、フランス代表と2試合行って2勝しました。

さかのぼれば3年前の2022年、4年に1度のワールドカップが新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止となったため、代替の国際試合としてフランス遠征を実施。フランス代表と対戦して2戦2敗(第1戦:日本0-5フランス、第2戦:日本0-3フランス)という悔しい結果となりました。それから3年後の今年、同じフランスを相手に2戦2勝(第1戦:日本2-0フランス、第2戦:日本2-1フランス)できたことは素晴らしい成果です。

「世界を日常に」。これは、私たちのIdentity(アイデンティティー)です。2022年のフランス遠征で、国際試合の経験不足で本来の力を発揮できていないという分析結果が得られたことから、それに基づいて策定したものです。2023、2024年にはアルゼンチン遠征を連続して行い、世界トップレベルの国と対戦。移動の負担や時差、食事、気候、言葉、文化、それら全てにおける対応力など、選手とチームは世界で戦うことの日常を毎年経験することができました。海外遠征で、持てる力を存分に発揮できるメンタリティーとコンディション調整、そのベースの上に強化されたパフォーマンスを発揮することによ

て、世界トップレベルの国と互角の対戦ができるようになりました。

その経験を積み重ねた上での今回のフランスとの対戦は、決定力、デュエルの強さ、ヘディングの競り合い、スピード、トランジション(切り替え)、そして勝ちたいという強い意識など、勝つためのディテール(Detail)が相手を上回っていたと思います。

日本国内では、女子サッカーや普及のイベントをはじめ、地域でのリーグ戦とトレセン、全国では地域トレセン対抗戦やチャンピオンシップ大会、そして指導者の養成を目的としたライセンス制度(知的B級・知的C級)の構築など、代表強化につながる取り組みを着実に進めています。そうした長年の取り組みの延長線上に日本代表は存在しており、2030年には世界一を目指します。

これからも、知的障がい者サッカー日本代表へのご声援をよろしくお願いいたします。



フランス代表と第2戦後の集合写真

なでしこひろば便り



女子サッカーをもっと身近に-なでしこひろばで始める女子サッカーの輪

JFAなでしこひろば事務局

<https://www.jfa.jp/nadeshikohiroba/>

JFAなでしこひろばは、全ての女性がサッカーというスポーツを身近に感じ、日本中どこにいてもいつでも楽しむことができるよう、JFAが各地域の団体と連携して開催しているサッカー体験イベントです。JFAの理念とビジョン、そして、なでしこvisionに基づき、女子サッカーの普及を目的として2013年12月にスタートさせたプロジェクトで、日本全国のすべての女性を対象に、年齢やこれまでのサッカー経験などに関係なくサッカーを楽しめる環境をつくるため、各地域の認定団体の協力の下、各地で展開しています。

現在、認定団体は43の都道府県で登録されており、今後は全ての都道府県に認定団体が広がり、全国になでしこひろばが開催されるよう活動しています。

また、なでしこひろばでは、ディズニープリンセスの装飾の中で行われる「JFAマジカルフィールド Inspired by Disney なでしこひろば"セカンドタッチ"」を開催しています。小学生以下のサッカー未経験者や初心者子どもたちがサッカーを体験できるイベントとなります。これまで延べ2,000人以上が参加し、徐々に会場数も増えています。定期的に開催している会場では、募集後すぐに定員に達するという状況です。

セカンドタッチでは、3回参加した少女らにオリジナルキーホルダーをプレゼントしており、継続的に参加する子どもたちも多くなります。

JFAなでしこひろば事務局では、このなでしこひろばを開催していただく団体を募集しています。一緒に女子サッカーを全国で盛り上げていきましょう。

なでしこひろばを開催するには認定団体としての登録が必要ですが(登録は無料)。開催をご希望の皆さまは、ぜひJFAなでしこひろばにご登録ください。多くのご参加をお待ちしています。

詳細は下記サイトをご確認ください。

◆JFAなでしこひろばについて

<https://www.jfa.jp/nadeshikohiroba/>

◆お問い合わせフォーム

<https://forms.office.com/r/1Hg8CddKRq>



JFAマジカルフィールド Inspired by Disney なでしこひろば"セカンドタッチ"の様子

サッカーなら、どんな障害も超えられる。

日本の人口の7%は障がい者です。その障がいは多様で、ひとつとして同じ在り方はありません。
障がいがあっても、いつでも、どこでも、サッカーを心から楽しめる環境を。
彼ら彼女らが社会にある"障害"を超えていききっかけづくりやサポートも、サッカーならできる。
私たちはそう信じて、日本障がい者サッカー連盟を推進していきます。

障がい者サッカー7団体は、日本サッカー協会と連携し、サッカー界の発展のために取り組みます。



切断障がい



脳性麻痺



精神障がい



知的障がい



電動車椅子



視覚障がい



聴覚障がい

日本アンブティサッカー協会

アンブティサッカーとは、足や腕に切断障がいのある人が行う7人制サッカーです。日常生活で使用する義足・義手を外してロフトスタンドクラッチで体を支えながらプレーします。

日本ソーシャルフットボール協会

ソーシャルフットボールとは、精神障がいのある人が行うフットサルやサッカーです。基本ルールは健常者と同じで、フットサルでは女子選手を含む場合に最大6人がコートでプレーするなど、一部特別ルールを採用しています。

日本知的障がい者サッカー連盟

知的障がい者サッカーとは、知的障がいのある人が行う11人制サッカーです。フットサルも行っています。ルールは健常者のサッカー・フットサルと同じで、プレーヤーの障がいの度合いにより試合時間が異なります。

日本電動車椅子サッカー協会

国際的にはパワーチェアフットボールと呼ばれ、自立歩行が困難な重度の障がいのある人が多く行う4人制サッカーです。手やアゴでジョイスティック型のコントローラーを操り、電動車椅子でプレーします。

日本CPサッカー協会

CPサッカーとは、脳の損傷によって運動障害がある人が行うサッカーです。Cerebral (脳からの) Palsy (麻痺) の頭文字をとり、そう呼ばれています。

日本ブラインドサッカー協会

ブラインドサッカーとは、視覚障がいのある人が行う5人制サッカーです。転がると音が出るボールを使用し、まわりの声を頼りにプレーします。2004年からパラリンピックの正式種目です。弱視者がプレーするロービジョンフットサルもあります。

日本ろう者サッカー協会

デフサッカーと呼ばれる、聴覚障がいのある人が行うサッカーです。サッカーとフットサルがあり、審判は笛だけではなくフラッグも使用するなど、視覚情報を頼りにプレーします。



一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟

支援団体

JIFFパートナー



日本サッカー後援会



Johnson & Johnson



東京海上日動

Nabtesco



Bewith



会議レポート



公益財団法人日本サッカー協会 2025年度第7回理事会

公式URL https://www.jfa.jp/about_jfa/report/executive_committee.html



日本サッカー協会（JFA）は2025年7月17日、2025年度第7回理事会をJFAハウスで開催した。決議、報告された事項は、下記の通り。

決議事項

- | | |
|--|--------------------------|
| 1 「プロサッカー選手の契約・登録および移籍に関する規則」改正 …… P40 | 3 事務局の統括体制 …… P40 |
| 2 技術委員会 委員の選任 …… P40 | 4 事務局の統括体制に係る規則改正 …… P40 |

「プロサッカー選手の契約・登録および移籍に関する規則」改正

「プロサッカー選手の契約、登録および移籍に関する規則」を下記の通り、改正する。
なお、本件は法務委員会で審議済み。

【改正内容のポイント】

(1) 選手契約制度の改正

本規則を改正する方針については、2024年度第8回Jリーグ理事会（2024年9月24日開催）での決議の内容と併せて2024年第12回JFA理事会（2024年11月21日開催）にて決議済み。今般、この具体的文言を規則に反映するもの。

改正の概要は以下の通り。なお、施行日は2026年2月1日とする。

- ①ABC区分の撤廃
- ②基本報酬の下限の設定（2026年7月1日適用開始）
- ③初年度の年俸上限の緩和
- ④プロ選手の最少登録人数（20名）の設定（2026年7月1日適用開始）
- ⑤登録数上限枠（プロA選手）の撤廃 等

※ABC区分の撤廃に伴い、統一契約書書式についても変更

(2) シーズン移行に伴う「年度」や「登録ウインドーの設定」等の変更

シーズンの移行に伴い、規則においても新たなシーズンの期間を「7月1日から翌年6月30日までの1年間」として再定義し、規則に反映する。また、登録ウインドーもシーズンの移行に伴い再定義する。

(3) その他の適正化

その他、FIFA規則および実運用等を踏まえ、規則の適正化を行う。

- ①国内のトレーニング補償金（プロ→プロ）に係る規定をFIFA規則に合わせて一部改正
- ②移籍リストに係る手続き、契約更新に係る手続き、国際移籍手続き等の手続規定を運用実態等に合わせて整理・適正化する。

なお、これら手続に係る規定については、「女子プロサッカー選手の契約、登録および移籍に関する規則」「プロフットサル選手の契約、登録および移籍に関する規則」「サッカー選手の登録と移籍等に関する規則」「フットサル選手の登録と移籍等に関する規則」にも同様の規定があるため、それぞれ該当箇所についても併せて改正する（ただし、「女子プロサッカー選手の契約、登録および移籍に関する規則」については、当理事会ではなく、次期改正のタイミングで改正するものとする）。

技術委員会 委員の選任

技術委員会の委員として、右記の2名を選任する。

- | | |
|-----------------|----------------|
| 小倉勉（おぐら つとむ） | JFA副技術委員長 |
| 竹内弘明（たけうち ひろあき） | 川崎フロンターレ 強化本部長 |

事務局の統括体制

現在、運用されている事務局の統括体制の基本形を維持しながら、実態に合わせて一部、責任・権限・名称等の明確化・見直しを行い、事務局の統括機能を強化する。

そのため、「重要な使用人」として新たに副事務総長を設置し、下記の通り選任する。

副事務総長：西澤和剛

事務局の統括体制に係る規則改正

前議案が承認された場合において、係る規程類を改正する。

<対象となる規程>

- 事務局組織運営規則
- 事案決裁規則

報告事項

- | | |
|---|---------------------------------|
| 1 第6回東アジアサッカー連盟 (EAFF)臨時総会 (7月15日開催) …… P41 | 5 2025/26年サッカー競技規則改正 …… P41 |
| 2 第79回東アジアサッカー連盟 (EAFF)理事会 (7月15日開催) …… P41 | 6 審判員海外派遣 …… P41 |
| 3 JFAサステナビリティレポート2024 …… P41 | 7 審判員表彰 …… P42 |
| 4 能登半島地震・豪雨災害復興支援活動 …… P41 | 8 JFAロングバイル人工芝ピッチ公認 (更新) …… P42 |

第6回東アジアサッカー連盟 (EAFF) 臨時総会 (7月15日開催)

第6回EAFF臨時総会が2025年7月15日に韓国・水原とオンラインで開催された。主な決定・報告事項は下記の通り。

- (1) 第13回EAFF総会 (2025年3月30日/東京)の議事録を承認した。
- (2) 2022年-2026年任期の残存期間のEAFF会長にCHUNG Mong Gyu氏 (韓国)を選出した。
※対立候補がなく、無投票での選出

- (3) 2022年-2026年任期の残存期間のEAFF副会長に宮本恒靖氏 (日本)を選出した。
※対立候補がなく、無投票での選出
- (4) 2022年-2026年任期の残存期間のEAFF理事会メンバーにTAI Hsia-Ling氏 (チャイニーズ・タイペイ)を選出した。
※対立候補がなく、無投票での選出

第79回東アジアサッカー連盟 (EAFF) 理事会 (7月15日開催)

第79回EAFF理事会が2025年7月15日に韓国・水原で開催された。主な決定・報告事項は下記の通り。

- (1) 第78回EAFF理事会 (2025年3月30日/東京)の議事録を承認した。
- (2) 国際連合が提唱する「Football for the Goals」イニシアチブへの申請を承認した。
- (3) 東アジアE-1サッカー選手権2025決勝大会 韓国の大会進捗が報告された。

- (4) 東アジアE-1サッカー選手権2025決勝大会 韓国のマーケティングレポートが報告された。
- (5) 2022年-2026年任期の残存期間に関し、以下のポストの選挙について報告された。
①EAFF会長
②EAFF副会長 (1名)
③EAFF理事会メンバー (1名)
- (6) EAFF U-15男子フェスティバルの開催案について協議した。

JFAサステナビリティレポート2024

「JFAサステナビリティレポート2024」について報告する。
※詳細は右記のJFAウェブサイト参照

https://www.jfa.jp/about_jfa/report/PDF/h20250717_01.pdf



能登半島地震・豪雨災害復興支援活動

2024年1月に発生した能登半島地震および同年9月の能登半島豪雨災害の、この1年半に実施した支援活動を報告する。

※詳細は下記のJFAウェブサイト参照

https://www.jfa.jp/about_jfa/report/PDF/h20250717_02.pdf



2025/26年サッカー競技規則改正

2025年6月19日付 (日サ協発第25050006号) で発信した2025/26年サッカー競技規則改正に関し、国際サッカー評議会 (IFAB) から追加で送られた回状第31号で競技規則第10条「試合結果の決定」および第14条「ペナルティーキック」における「ダブルタッチに関する明確化」が通達された。これを受けて「事案決裁規則」に基づき審判委員会で決議した。

なお、本内容は軽微な改正であるため、理事会報告前に関係各所に通達文書を発信する旨、政策会議にて確認済み。

※詳細は下記のJFAウェブサイト参照

<https://www.jfa.jp/laws/>



審判員海外派遣

委員会、大会、試合など	役職	名前	試合日または派遣 (受け入れ) 期間	場所
FIFAビーチサッカーワールドカップセーシェル2025	審判員	波多野祐一	5月1日~11日	ビクトリア/セーシェル
AFC女子フットサルアジアカップ中国2025	審判員	晝間久美、山本真理、齋藤香菜	5月1日~18日	フフホト/中国
AFCレフェリアアカデミー パッチ5 インターミディエイト モジュール4	審判員	大橋佑祐	5月5日~9日	クアラルンプール/マレーシア

次ページより続く

委員会、大会、試合など	役職	名前	試合日または派遣(受け入れ)期間	場所
AFCレフェリーアカデミー バッチ6 イントロダクトリー モジュール2	審判員	椎野大地、中川愛斗	5月12日～16日	クアラルンプール/マレーシア
AFC女子チャンピオンズリーグ 2024/25 決勝	審判員	小泉朝香、坊園真琴、一木千広	5月21日～24日	武漢/中国
FIFA ワールドカップ26 アジア最終予選 (3次予選) グループB Matchday 9 イラク vs 韓国	審判員	荒木友輔、三原純、波辺康太、谷本涼、飯田淳平、笠原寛貴	6月5日	バスラ/イラク
AFC女子アジアカップオーストラリア2026 2次予選 グループB	審判員	杉野杏紗、一木千広	6月23日～7月5日	チェンマイ/タイ
AFC女子アジアカップオーストラリア2026 2次予選 グループD	審判員	兼松春奈	6月26日～7月5日	ジャカルタ/インドネシア
AFC女子アジアカップオーストラリア2026 2次予選 グループF	審判員	小泉朝香、曾根未宇	6月26日～7月5日	タシュケント/ウズベキスタン
AFC女子フットサルアジアカップ中国2025	審判指導者(アセッサー)	小崎知広	5月1日～18日	フホト/中国
AFCレフェリーアカデミー バッチ5 インターミディエイト モジュール4	審判指導者(インストラクター)	佐藤隆治	5月5日～9日	クアラルンプール/マレーシア
AFCレフェリーアカデミー バッチ6 イントロダクトリー モジュール2	審判指導者(インストラクター)	手代木直美	5月12日～16日	クアラルンプール/マレーシア
AFC チャンピオンズリーグ Two 2024/25 LION CITY SAILORS FC (シンガポール) vs SHARJAH FC (アラブ首長国連邦)	審判指導者(アセッサー)	上川徹	5月18日	シンガポール
AFCフットサルレフェリーリクルーティング2024: 第3回アセスメントビジット	審判指導者(リクルーター)	延本泰一	5月20日	バイルート/レバノン
FIFAワールドカップ26アジア最終予選 (3次予選) グループA Matchday 9 - アラブ首長国連邦 vs ウズベキスタン	審判指導者(アセッサー)	佐藤隆治	6月5日	アブダビ/アラブ首長国連邦
FIFA ワールドカップ26アジア最終予選 (3次予選) グループA Matchday 10 - イラン vs 朝鮮民主主義人民共和国	審判指導者(アセッサー)	上川徹	6月10日	テヘラン/イラン
AFCレフェリーアカデミー: リーガスーパーFAセランゴール競技会	審判指導者(インストラクター)	佐藤隆治	6月25日～29日	クアラルンプール/マレーシア
AFC女子アジアカップオーストラリア2026 2次予選 グループC	審判指導者(アセッサー)	深野悦子	6月29日～7月5日	ヤンゴン/ミャンマー
AFC女子アジアカップオーストラリア2026 2次予選 グループD	審判指導者(アセッサー)	山岸佐知子	6月26日～7月5日	プノンベン/カンボジア
AFC女子アジアカップオーストラリア2026 2次予選 グループH	審判指導者(アセッサー)	山岸佐知子	6月26日～7月5日	ドゥシャンベ/タジキスタン
AFCフットサルレフェリーリクルーティング	審判指導者(リクルーター)	延本泰一	6月29日	シドニー/オーストラリア

審判員表彰

「審判員及び審判指導者等に関する規則」第30条および「審判員および審判指導者の表彰対象」に基づき、審判委員会より以下の審判員への表彰の推薦があり、殿堂・表彰委員会がこれを決定した。

対象大会: FIFAビーチサッカーワールドカップセーシェル2025

試合: 準決勝

対象: 主審 波多野祐一

表彰内容: 表彰状授与

【関連規則】

●審判員及び審判指導者等に関する規則

第30条 [表彰]

本協会は、審判技術の向上等に著しく貢献のあった審判員及び審判指導者を表彰する。

●表彰規則

第3条 本協会が行う表彰の対象者は、次のとおりとする。

(7)審判員及び審判指導者(以下「審判員等」という。)

第6条 表彰者の決定は、理事会において行う。

ただし、別表に定める者については、表彰委員会がその内容を確認した上で決定し、理事会に報告するものとする。

別表③2012年度第8回理事会にて承認された表彰に関する内規(「審判員および審判指導者の表彰について」2021年度第13回理事会改定)に定める表彰者で審判委員会から推薦があった者

JFAロングパイル人工芝ピッチ公認(更新)

(1)申請者(施設所有者): 堺市

施設名: J-GREEN堺 S8

(大阪府堺市堺区築港八幡町145番地)

使用製品: 積水樹脂株式会社 ドリームターフ PT2055RS+U-04CR (Gr)

公認期間: 2025年4月11日～2027年4月10日

公認番号: 第092号

(2)申請者(施設所有者): 佐賀県

施設名: SAGAサンライズパーク球技場 北コート

(佐賀県佐賀市日の出2丁目143番地)

使用製品: コウフ・フィールド株式会社 Desso iDNA X 60-16 VU

公認期間: 2025年7月13日～2026年7月12日

公認番号: 第199号

(3)申請者(施設所有者): 佐賀県

施設名: SAGAサンライズパーク球技場 南コート

(佐賀県佐賀市日の出2丁目143番地)

使用製品: 美津濃株式会社 グランクラス PT65UC

公認期間: 2025年7月13日～2026年7月12日

公認番号: 第200号



JAPAN NATIONAL TEAM

Japan National Team would like to thank its partners for their support.

SAMURAI BLUE



©JFA/2024年11月 日本代表先発メンバー

JFA OFFICIAL TOP PARTNER



JFA OFFICIAL SUPPLIER



JFA MAJOR PARTNER



JFA NATIONAL TEAM PARTNER



- ① SAMURAI BLUE 東アジアE-1サッカー選手権2025決勝大会 韓国
- ② U-22日本代表 Mirabrur Usmanov Memorial Cup 2025
- ③ U-16日本代表 中国遠征 CFA PEACE CUP
- ④ なでしこジャパン 東アジアE-1サッカー選手権2025決勝大会 韓国

- ⑤ U-17日本女子代表 アメリカ遠征
- ⑥ FIFAクラブワールドカップ2025

※NCS: ナショナルコーチングスタッフ、JC: JFAコーチ / VAR: ビデオアシスタントレフェリー、AVAR: アシスタントビデオアシスタントレフェリー

SAMURAI BLUE 東アジアE-1サッカー選手権2025決勝大会 韓国

※50~51ページに関連記事あり

<スタッフ>

○監督: 森保一(NCS) ○コーチ: 名波浩(NCS)、齊藤俊秀(NCS)、前田遼一(NCS)、長谷部誠(アイントラハト・フランクフルト) ○フィジカルコーチ: 松本良一(NCS) ○GKコーチ: 下田崇(NCS) ○テクニカルスタッフ: 寺門大輔(JFAテクニカルハウス)、中下征樹(JFAテクニカルハウス)、若林大智(JFAテクニカルハウス)、渡邊秀朗(JFAテクニカルハウス)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	早川友基*	鹿島アントラーズ	MF/FW	宮代大聖*	ヴィッセル神戸
	大迫敬介	サンフレッチェ広島		山田新*	川崎フロンターレ
	ピサノ アレクサンドレ幸冬堀尾*	名古屋グランパス		川崎颯太※1	京都サンガF.C.
DF	長友佑都	FC東京	細谷真大	柏レイソル	
	植田直通	鹿島アントラーズ	望月ヘンリー海輝	FC町田ゼルビア	
	荒木隼人	サンフレッチェ広島	中村草太*	サンフレッチェ広島	
	古賀太陽	柏レイソル	宇野禪斗*	清水エスパルス	
	安藤智哉*	アビスパ福岡	俵積田晃太	FC東京	
	網島悠斗*	東京ヴェルディ	大関友翔*	川崎フロンターレ	
MF/FW	稲垣祥	名古屋グランパス	佐藤龍之介	ファジアーノ岡山	
	ジャーマイン良*	サンフレッチェ広島	田中聡* ※3	サンフレッチェ広島	
	川辺駿	サンフレッチェ広島	原大智* ※3	京都サンガF.C.	
	西村拓真※2	FC町田ゼルビア			
	相馬勇紀	FC町田ゼルビア			
	垣田裕輝*	柏レイソル			
	久保藤次郎*	柏レイソル			

<スケジュール>

- 7月5日 羽田発、ソウル(金浦)着
- 6日 公式トレーニング (Yong-in Mireu Stadium)
- 7日 トレーニング (Ansan Wa Stadium Auxiliary Field)
- 8日 東アジアE-1サッカー選手権2025決勝大会 韓国 第1節 vs ホンコン・チャイナ代表 (Yong-in Mireu Stadium)
- 9日 トレーニング (Suwon World Cup Auxiliary Field B)
- 10日 トレーニング (Anyang Bisan Sports Park)
- 11日 トレーニング (Suwon World Cup Auxiliary Field A)
- 12日 第2節 vs 中国代表 (Yong-in Mireu Stadium)
- 13日 トレーニング (Suwon World Cup Auxiliary Field A)
- 14日 トレーニング (Suwon World Cup Auxiliary Field A)
- 15日 第3節 vs 韓国代表 (Yong-in Mireu Stadium)
- 16日 ソウル(金浦)発、羽田着

*: 初召集
 ※1: 所属クラブ事情のため不参加
 ※2: 脳振とうのため不参加
 ※3: 追加召集

順位	日本	韓国	中国	ホンコン・チャイナ	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	日本	1 〇 〇	2 〇 〇	6 〇 1	9	3	0	0	9	1	8
2	韓国	0 〇 1	3 〇 〇	2 〇 〇	6	2	0	1	5	1	4
3	中国	0 〇 2	0 〇 3	1 〇 〇	3	1	0	2	1	5	-4
4	ホンコン・チャイナ	1 〇 6	0 〇 2	0 〇 1	0	0	0	3	1	9	-8

○: 勝ち(勝ち点3)、△: 引き分け(勝ち点1)、●: 負け(勝ち点0)

第1戦

SAMURAI BLUE 6 (前半5-0 後半1-1) **1** **ホンコン・チャイナ代表**

●2025年7月8日 19:24 ●Yong-in Mireu Stadium ●試合時間:90分 ●審判員: [主審]MUNIR ALKATIRI THORIQ [副審]NURHADI SULCHAN / LADSAVONG KILAR [第4の審判員]NGO DUY LAN ●マッチコミッショナー: Espiritu Jill ●観衆: 687人

日本(監督: 森保一): [GK] (23)ピサノ アレクサンドレ幸冬堀尾 [DF] (3)荒木隼人(4)古賀太陽(16)安藤智哉 [MF/FW] (6)川辺駿<→63' (14)大関友翔>(7)相馬勇紀(9)宮代大聖<→77' (2)望月ヘンリー海輝>(13)ジャーマイン良<→46' (26)中村草太>(15)稲垣祥(19)垣田裕輝<→46' (18)山田新>(24)久保藤次郎<→63' (21)佐藤龍之介>

控え: (1)大迫敬介(12)早川友基(5)長友佑都(8)田中聡(10)細谷真大(11)原大智(17)宇野禪斗(20)俵積田晃太(22)植田直通(25)網島悠斗

ホンコン・チャイナ(監督: Ashley Michael Westwood): [GK] (1)Hung Fai Yapp [DF] (3)Oliver Benjamin Gerbig(4)Leon Jones(17)Shinichi Chan(21)Tze Nam Yau(23)Ming Him Sun [MF] (6)Chun Lok Tan<→80' (13)Stefan Figueiredo Pereira>(8)Cheuk Pan Ngan<→30' (20)Michael Chibuikem Udebuluzor>(12)Fernando Augusto Azevedo Pedreira<→46' (10)Wai Wong> [FW] (7)Walter Soares Bellitardo Junior<→67' (15)Awal Mahama>(9)Matthew Elliot Wing Kai Orr<→67' (11)Ka Kiu Lau>

控え: (18)Ka Wing Tse(19)Oleksii Shliakotin(5)Luis Eduardo Chebel Klein Nunes(14)Rapael Ayrtton Lee Merkies(16)Siu Kwan Philip Chan(22)Nicholas Benavides Medeiros(24)Yu Hei Ng(26)Ka Ho Lee

得点 [日本]4', 10', 22', 26' ジャーマイン良(1-0) (2-0) (4-0) (5-0)、20' 稲垣祥(3-0)、90+3' 中村草太(6-1) [ホンコン・チャイナ]59' Matthew Elliot Wing Kai Orr(5-1)

警告 [日本]81' 佐藤龍之介 [ホンコン・チャイナ]71' Ashley Michael Westwood

第2戦

SAMURAI BLUE 2 (前半1-0 後半1-0) **0** **中国代表**

●2025年7月12日 19:24 ●Yong-in Mireu Stadium ●試合時間:90分 ●審判員: [主審]PU-JDOM SIVAKORN [副審]NOPHUAN APICHT / NGUYEN TRUNG VIET [第4の審判員]MOHD YAASIN BIN TUAN MOHD HANAFIAH TUAN ●マッチコミッショナー: Espiritu Jill ●観衆: 1,661人

日本(監督: 森保一): [GK] (12)早川友基 [DF] (5)長友佑都(22)植田直通(25)網島悠斗 [MF/FW] (2)望月ヘンリー海輝(8)田中聡<→46' (15)稲垣祥>(10)細谷真大<→90' (26)中村草太>(11)原大智<→46' (13)ジャーマイン良>(17)宇野禪斗(20)俵積田晃太<→67' (7)相馬勇紀>(21)佐藤龍之介<→69' (14)大関友翔>

控え: (1)大迫敬介(23)ピサノ アレクサンドレ幸冬堀尾(3)荒木隼人(4)古賀太陽(6)川辺駿(9)宮代大聖(16)安藤智哉(18)山田新(19)垣田裕輝(24)久保藤次郎

中国(監督: Dejan Durdevic): [GK] (1)Junling Yan [DF] (2)Haofan Liu(4)Shenglong Jiang(5)Chenjie Zhu(24)Shiqin Wang<→46' (23)Wenneng Xie> [MF] (6)Zhengyu Huang<→67' (8)Xin Xu>(14)Tianyi Gao(15)Yudong Wang<→77' (11)Erjiniao Sai>(16)Dun Ba [FW] (9)Yuning Zhang<→67' (20)Ziming Wang>(10)Wei Shihao<→67' (21)Qianglong Tao>

控え: (12)Qinghao Xue(26)Jinyong Yu(3)Zhunyi Gao(7)Haoyang Xu(13)Zhen Wei(17)Jiwen Kuai(18)Jintao Liao(19)Yongjing Cao(22)Chengyu Liu(25)Yusupu Wumitijiang

得点 [日本]11' 細谷真大(1-0)、64' 望月ヘンリー海輝(2-0)

警告 [中国]45+1' Tianyi Gao、90+1' Haofan Liu

第3戦

SAMURAI BLUE 1 (前半1-0 後半0-0) 0 韓国代表

●2025年7月15日 19:24 ●Yong-in Mireu Stadium ●試合時間:90分 ●審判員:
[主審]MOHD YAASIN BIN TUAN MOHD HANAFIAH TUAN [副審]BIN AHMAD SAID
MUHAMMAD SHAFIQ / NOPHUAN APICHT [第4の審判員]PU-UDOM SIVAKORN
●マッチコミッショナー:Sukhbaatar Jergal ●観衆:18,418人

日本(監督:森保一):[GK](1)大迫敬介 [DF](3)荒木隼人(4)古賀太陽(16)安藤智哉
[MF/FW](2)望月ヘンリー海輝(6)川辺駿<-77'(17)宇野禰斗>(7)相馬勇紀<-77'(22)
植田直通>(9)宮代大聖<-65'(21)佐藤龍之介>(13)ジャーマイン良<-85'(11)原大
智>(15)稲垣祥(19)垣田裕喨<-65'(10)細谷真大>

控え:(12)早川友基(23)ピサノ アレクサンドレ奉冬堀尾(5)長友佑都(8)田中聡(14)大関
友翔(18)山田新(20)俵積田晃太(24)久保謙次郎(25)網島悠斗(26)中村草太

韓国(監督:Myung Bo Hong):[GK](21)Hyeonwoo Jo [DF](3)Taeseok Lee(4)
Jusung Kim<-83'(17)Seungwon Jeong>(14)Seungwook Park(15)Moonhwan Kim
[MF](5)Jinseob Park(6)Jingyu Kim<-74'(13)Sangyeon Kang>(10)Donggyeong
Lee<-74'(19)Sehun Oh>(23)Minwoo Seo [FW](7)Sangho Na(9)Minkyu Joo
<-46'(18)Hojae Lee->'64'(11)Seon Min Moon>

控え:(1)Changgeun Lee(12)Dongheon Kim(2)Hyun Taek Cho(8)Bongsoo Kim(16)
Myunggun Seo(20)Seungwon Lee(22)Taehyun Kim(24)Junsu Byun(25)Jaehyeon
Mo(26)Taehyeon Kim

得点 [日本]8'ジャーマイン良(1-0)

警告 [日本]10'川辺駿、45'相馬勇紀 [韓国]85'Seungwon Jeong、90+6'Taeseok Lee



第2戦・SAMURAI BLUE vs 中国代表

U-22日本代表 Mirabror Usmanov Memorial Cup 2025

[スタッフ]

○監督:大岩剛(NCS) ○コーチ:羽田憲司(NCS) ○GKコーチ:佐藤洋平(NCS) ○フィジカルコーチ:矢野由治(NCS) ○テクニカルスタッフ:越智滋之(JFAテクニカルハウス)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	小林将天	FC東京	MF	永野修都	ガイナレ鳥取
	内山翔太	アルビレックス新潟		杉浦駿吾	名古屋グランパス
DF	稲垣篤志	明治大学		山本丈徳	東京ヴェルディ
	宮崎達也※1	中央大学		安藤陸登	テゲバジャーロ宮崎
	尾崎凱琉	早稲田大学		矢田龍之介	筑波大学
	関富貴太	桐蔭横浜大学		嶋本悠大	清水エスパルス
	土屋耀大	川崎フロンターレ		川合徳孟	ジュビロ磐田
	本多康太郎	湘南ベルマーレ		新川志音	サガン鳥栖U-18
	岡部タリクカナイ颯斗	東洋大学	FW	ンワディケ ウチェブライアン世雄	桐蔭横浜大学
	松本遥翔	鹿島アントラーズ		安野匠	ベガルタ仙台
	池田春汰※2	筑波大学		神代慶人※1	ロアッソ熊本
MF	古谷柊介	東京国際大学		井上愛蔵※2	サンフレッチェ広島
	原康介	北海道コンサドーレ札幌			

※1:ケガのため途中離脱
※2:追加招集

<スケジュール>

7月20日 トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)
21日 成田発、仁川経由
タシュケント着
22日~24日 トレーニング(Dustlik Stadium Reserve Field)
25日 Mirabror Usmanov Memorial Cup 2025
第1戦 vs U-22サウジアラビア代表(JAR Stadium)
26日~27日 トレーニング(Dustlik Stadium Reserve Field)
28日 第2戦 vs U-22ウズベキスタン代表(JAR Stadium)
29日 タシュケント発、アルマトイ経由
30日 仁川経由、成田着

第1戦

U-22日本代表 5 (前半2-1 後半3-0) 1 U-22 サウジアラビア代表

●2025年7月25日 20:00 ●JAR Stadium ●試合時間:90分

日本(監督:大岩剛):[GK](12)内山翔太 [DF](15)尾崎凱琉(16)稲垣篤志(21)池田春汰
(22)本多康太郎 [MF](7)矢田龍之介<-77'(6)山本丈徳>(10)古谷柊介<-62'(11)
安野匠>(14)川合徳孟<-62'(18)新川志音>(17)杉浦駿吾<-70'(13)原康介>(20)
永野修都<-77'(8)嶋本悠大> [FW](9)ンワディケ ウチェブライアン世雄<-46'(24)
井上愛蔵>

控え:(1)小林将天(2)松本遥翔(3)土屋耀大(4)岡部タリクカナイ颯斗(5)関富貴太(19)安
藤陸登

得点 6'ンワディケ ウチェブライアン世雄(1-0)、28'失点(1-1)、45+3'矢田龍之介(2-1)、
56'井上愛蔵(3-1)、90+1'新川志音(4-1)、90+2'安野匠(5-1)

警告 50'池田春汰

第2戦

U-22日本代表 2 (前半0-0 後半2-0) 0 U-22 ウズベキスタン代表

●2025年7月28日 20:00 ●JAR Stadium ●試合時間:90分

日本(監督:大岩剛):[GK](1)小林将天 [DF](2)松本遥翔<-71'(7)矢田龍之介>(3)土
屋耀大(4)岡部タリクカナイ颯斗(5)関富貴太 [MF](6)山本丈徳<-63'(17)杉浦駿吾
>(8)嶋本悠大<-71'(16)稲垣篤志>(13)原康介<-63'(18)新川志音>(14)川合徳孟
<-83'(9)ンワディケ ウチェブライアン世雄>(19)安藤陸登<-63'(20)永野修都>
[FW](24)井上愛蔵

控え:(12)内山翔太(10)古谷柊介(11)安野匠(15)尾崎凱琉(21)池田春汰(22)本多康太郎

得点 61'嶋本悠大(1-0)、88'井上愛蔵(2-0)

U-16日本代表 中国遠征 CFA PEACE CUP

【スタッフ】

○団長: 城和憲 ○監督: 小野信義(NCS) ○コーチ: 山橋貴史(JC) ○GKコーチ: 井出大志(NCS) ○フィジカルコーチ: 小嶺肇之(NCS) ○テクニカルスタッフ: 引田真尋(JFAテクニカルハウス)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	佐藤大翔	浦和レッズユース	MF	里見汰福	ヴィッセル神戸U-18
	枝川航大	サンフレッチェ広島F.Cユース		岩土そら	鹿島アントラーズユース
	大下幸誠	鹿島アントラーズユース		小笠原央	鹿島アントラーズユース
DF	森井莉人	サンフレッチェ広島F.Cユース	和田武士	浦和レッズユース	
	高橋温郎	浦和レッズユース	江川慶亮	横浜F・マリノスユース	
	斉藤健吾	船橋市立船橋高校	小枝朔太郎	ジュビロ磐田U-18	
	エゼモクェ チメツェ海	セレッソ大阪U-18	木村風斗	川崎フロンターレU-18	
	笠原慶多	昌平高校	松永翔	横浜F・マリノスユース	
	西野陽向	ジュビロ磐田U-18	三井寺真	FC FUORICLASSE SENDAI	
	橋本凜来	FC東京U-18	FW	高木瑛人	鹿島アントラーズユース
	竹内悠三	名古屋グランパスU-15		平井一輝	ロアッソ熊本ユース
	藤本祥輝	ガンバ大阪ユース			

<スケジュール>

7月1日 成田発、瀋陽着
2日 トレーニング
3日 トレーニング (Shenyang Heping Sports Park)
4日 CFA PEACE CUP
第1戦 vs U-16中国代表 (Shenyang Urban Stadium)
5日 トレーニング (Shenyang Heping Sports Park)
6日 第2戦 vs U-16韓国代表 (Shenyang Urban Stadium)
7日 トレーニング (Shenyang Heping Sports Park)
8日 第3戦 vs U-16ウズベキスタン代表 (Shenyang Urban Stadium)
9日 瀋陽発、成田着

第1戦

U-16日本代表 **1** (前半1-0 後半0-1) **1** U-16中国代表

●2025年7月4日 19:35 ●Shenyang Urban Stadium ●試合時間:90分

日本(監督:小野信義):[GK](12)佐藤大翔 [DF](2)橋本凜来(3)森井莉人(5)エゼモクェ チメツェ海<→59'(13)高橋温郎>(20)竹内悠三 [MF](6)和田武士(7)岩土そら(8)小笠原央<→85'(21)江川慶亮>(11)木村風斗<→69'(10)里見汰福>(22)三井寺真<→69'(16)松永翔> [FW](18)平井一輝<→69'(9)高木瑛人>

控え:(1)大下幸誠(23)枝川航大(4)西野陽向(14)小枝朔太郎(15)笠原慶多(17)藤本祥輝(19)斉藤健吾

得点 20' 和田武士(1-0)、47' 失点(0-1)

警告 28' 橋本凜来

第2戦

U-16日本代表 **1** (前半0-0 後半1-2) **2** U-16韓国代表

●2025年7月6日 15:00 ●Shenyang Urban Stadium ●試合時間:90分

日本(監督:小野信義):[GK](1)大下幸誠 [DF](4)西野陽向(13)高橋温郎(15)笠原慶多<→80'(7)岩土そら>(19)斉藤健吾 [MF](10)里見汰福<→89'(11)木村風斗>(14)小枝朔太郎<→80'(2)橋本凜来>(16)松永翔<→64'(8)小笠原央>(17)藤本祥輝<→64'(22)三井寺真>(21)江川慶亮<→89'(18)平井一輝> [FW](9)高木瑛人

控え:(12)佐藤大翔(23)枝川航大(3)森井莉人(5)エゼモクェ チメツェ海(6)和田武士(20)竹内悠三

得点 55'、68' 失点(0-1)(1-2)、60' 高木瑛人(1-1)

第3戦

U-16日本代表 **3** (前半1-1 後半2-0) **1** U-16ウズベキスタン代表

●2025年7月8日 15:00 ●Shenyang Urban Stadium ●試合時間:90分

日本(監督:小野信義):[GK](23)枝川航大 [DF](2)橋本凜来<→73'(5)エゼモクェ チメツェ海>(3)森井莉人(13)高橋温郎<→73'(15)笠原慶多>(20)竹内悠三 [MF](6)和田武士(7)岩土そら<→HT(16)松永翔>(8)小笠原央<→86'(4)西野陽向>(21)江川慶亮<→60'(10)里見汰福>(22)三井寺真<→HT(17)藤本祥輝> [FW](9)高木瑛人

控え:(1)大下幸誠(12)佐藤大翔(11)木村風斗(14)小枝朔太郎(17)藤本祥輝(18)平井一輝

得点 23' 失点(0-1)、38' 高木瑛人(1-1)、48' 小笠原央(2-1)、74' 高木瑛人(3-1)

警告 41' 森井莉人、77' 竹内悠三

なでしこジャパン 東アジアE-1サッカー選手権2025決勝大会 韓国

※52~53ページに関連記事あり

【スタッフ】

○監督: ニルス・ニールセン(NCS) ○コーチ: 狩野倫久(NCS/SAGAWA SHIGA FC)、リア・ブレニー(NCS) ○GKコーチ: 西入俊浩(NCS) ○フィジカルコーチ: 岡本隆吾(NCS/東日本電信電話) ○テクニカルスタッフ: 小杉光正(JFAテクニカルハウス)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	平尾知佳	アルビレックス新潟レディース	MF	土方麻椰※1	日テレ・東京ヴェルディベレーザ
	浅野菜摘	ちふれASエルフェン埼玉		滝川結女※2	アルビレックス新潟レディース
	大熊茜	INAC神戸レオネッサ		上野真実※3	サンフレッチェ広島レジーナ
DF	三宅史織	INAC神戸レオネッサ	中嶋淑乃	サンフレッチェ広島レジーナ	
	遠藤優	三菱重工浦和レッズレディース	矢形海優*	マイナビ仙台レディース	
	市瀬千里*	サンフレッチェ広島レジーナ	浜田芽来*	RB大宮アルディージャ WOMEN	
	高橋はな	三菱重工浦和レッズレディース	大澤春花*	VfBシュツットガルト(GER)	
	嶋田華*	サンフレッチェ広島レジーナ	山本袖月	日テレ・東京ヴェルディベレーザ	
	石川璃音	三菱重工浦和レッズレディース	愛川陽菜*	INAC神戸レオネッサ	
	成宮唯	INAC神戸レオネッサ	樋渡百花*	日テレ・東京ヴェルディベレーザ	
MF	塩越柚歩	日テレ・東京ヴェルディベレーザ	*: 初招集		
	菅野奏音*	日テレ・東京ヴェルディベレーザ	GER: ドイツ		
	北村美羽*	ジェフ千葉レディース	※1: コンディション不良のため不参加		
	吉田莉胡*	INAC神戸レオネッサ	※2: 追加招集		
			※3: コンディション不良のため途中離脱		

<スケジュール>

7月6日 羽田発、金浦着
関西国際発、金浦着
7日~8日 トレーニング
9日 東アジアE-1サッカー選手権2025決勝大会 韓国
第1戦 vs チャイニーズ・タイペイ女子代表
(Suwon WC Stadium / 水原)
10日~12日 トレーニング
13日 第2戦 vs 韓国女子代表
(Hwaseong Sports Complex / 華城)
14日~15日 トレーニング
16日 第3戦 vs 中国女子代表
(Suwon WC Stadium / 水原)
17日 金浦発、羽田着
金浦発、関西国際着

順位	韓国	中国	日本	チャイニーズ・タイペイ	勝	分	負	得点	失点	差	
1	韓国	2△2	1△1	2○0	5	1	2	0	5	3	2
2	中国	2△2	0△0	4○2	5	1	2	0	6	4	2
3	日本	1△1	0△0	4○0	5	1	2	0	5	1	4
4	チャイニーズ・タイペイ	0●2	2●4	0●4	0	0	0	3	2	10	-8

○:勝ち(勝ち点3)、△:引き分け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

データボックス

第1戦

なでしこジャパン 4 (前半2-0 後半2-0) 0 チャイニーズ・タイペイ女子代表

●2025年7月9日 16:30 ●Suwon WC Stadium ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]Chaisanit Pansa [副審]Donjangreed Nuannid / CHANTHAVONG PHUTSAVAN [第4の審判員]NYEIN CHAN KHIN ●マッチコミッショナー:Sukbaatar Jargal ●観衆:193人

日本(監督:ニルス・ニールセン):[GK](12)浅野菜摘 [DF](2)遠藤優<→74'(16)大澤春花>(3)三宅史織<→58'(4)市瀬千里>(5)高橋はな(21)石川瑠音 [MF](7)北村美羽(8)成宮唯<→68'(14)吉田莉胡>(11)滝川結女<→46'(15)上野真実> [FW](9)山本柚月<→58'(19)中嶋淑乃>(13)矢形海優(20)愛川陽菜

控え:(1)平尾知佳(23)大熊茜(6)菅野奏音(10)塩越柚歩(17)浜田芽来(18)橘渡百花(22)嶋田華

チャイニーズ・タイペイ(監督:HIU-MING CHAN):[GK](1)YU-TING WANG [DF](3)SIN-YUN SU<→71'(5)SHIN-YU PAN>(6)PEI-LIN TENG(20)YING-HUI CHEN(22)KE-SIN HUANG [MF](4)YUN-YA TSENG(9)YI-YUN HSU<→84'(7)YA-HSIAN LIN>(10)SAKI MATSUNAGA [FW](17)JIN-WEN CHEN<→71'(8)YI-WEN LI>(19)YU-HSIAN SU<→84'(11)JIA-SHUAN HE>(21)YU-CHIN CHEN<→58'(16)YU-CHIAO LIU>

控え:(18)RUO-PING WANG(23)I-HHSIU CHIU(2)CHI-LAN CHANG(12)HSIN-HUI PU(13)PI-HAN CHAN(14)WAN-CHEN LEE(15)YUN-CHING TSENG

得点 [日本]22'矢形海優(1-0)、25'滝川結女(2-0)、48'高橋はな(3-0)、70'オウンゴール(4-0)

警告 [チャイニーズ・タイペイ]66'KE-SIN HUANG

第3戦

なでしこジャパン 0 (前半0-0 後半0-0) 0 中国女子代表

●2025年7月16日 16:00 ●Suwon WC Stadium ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]Chaisanit Pansa [副審]Donjangreed Nuannid / BINTI HA ALI MUNIRAH [第4の審判員] ●マッチコミッショナー:CHA MINJI ●観衆:323人

日本(監督:ニルス・ニールセン):[GK](1)平尾知佳 [DF](5)高橋はな(21)石川瑠音(22)嶋田華 [MF](7)北村美羽(8)成宮唯(11)滝川結女<→46'(6)菅野奏音>(14)吉田莉胡<→78'(13)矢形海優> [FW](9)山本柚月(18)橘渡百花<→69'(10)塩越柚歩>(19)中嶋淑乃<→69'(20)愛川陽菜>

控え:(12)浅野菜摘(23)大熊茜(2)遠藤優(3)三宅史織(4)市瀬千里(16)大澤春花(17)浜田芽来

中国(監督:ANTHONY JOSIP MILICIC):[GK](23)HONGYAN PAN [DF](4)LINLIN WANG(5)HAIYAN WU(11)MENGWEN LI(22)QIAOZHU CHEN [MF](8)WEI YAO<→84'(16)JING LIU>(10)YANWEN WANG<→84'(14)YUEXIN HUO>(24)AIFANG WANG<→71'(9)MENGYU SHEN> [FW](7)SHUANG WANG<→60'(19)LINYAN ZHANG>(13)KUN JIN<→60'(15)FANGXIN SUN>(20)ZIQIN SHAO

控え:(1)HUAN XU(12)YU ZHU(2)DUAN SONG(3)JIAXING DOU(6)XIN ZHANG(17)JIE ZHI(18)JIALI TANG(21)RUIQI QIAO(25)YATONG LYU

警告 [中国]49'QIAOZHU CHEN

第2戦

なでしこジャパン 1 (前半1-0 後半0-1) 1 韓国女子代表

●2025年7月13日 20:00 ●Hwaseong Sports Complex ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]TAM PING WUN [副審]HA THI PHUONG / MAY THET PHYU [第4の審判員]NYEIN CHAN KHIN ●マッチコミッショナー:Espiritu Jill ●観衆:1,641人

日本(監督:ニルス・ニールセン):[GK](23)大熊茜 [DF](5)高橋はな(21)石川瑠音 [MF](6)菅野奏音(8)成宮唯(14)吉田莉胡<→75'(18)橘渡百花> [FW](9)山本柚月<→64'(22)嶋田華>(15)上野真実<→46'(10)塩越柚歩>(17)浜田芽来<→64'(13)矢形海優>(19)中嶋淑乃(20)愛川陽菜<→81'(16)大澤春花>

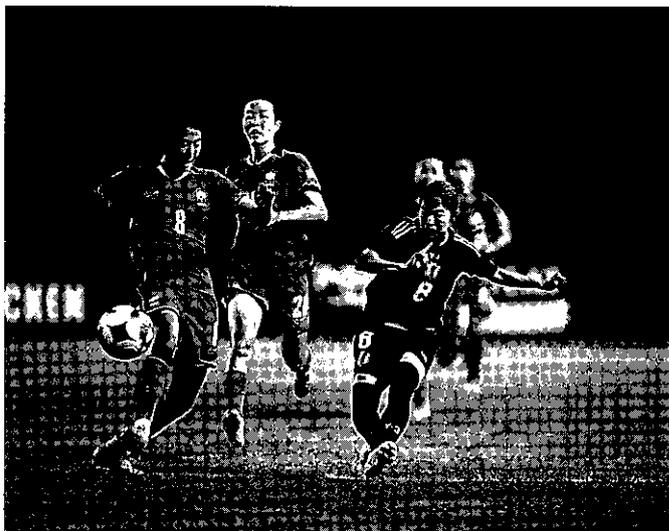
控え:(1)平尾知佳(12)浅野菜摘(2)遠藤優(3)三宅史織(4)市瀬千里(7)北村美羽(11)滝川結女

韓国(監督:SANG WOO SHIN):[GK](21)MINJUNG KIM [DF](5)YOOJIN KO(16)SELGI JANG(20)HYERI KIM [MF](4)JINYOUNG NOH<→46'(22)HYOJOO CHOO>(7)GEUMMIN LEE<→46'(12)MIYEON KIM>(9)EUNJU MUN<→88'(11)SEULGI HYUN>(10)SOYUN Ji(14)MINYOUNG JUNG(23)CHAERIM KANG<→71'(19)DABIN JEONG> [FW](26)MINJI KIM<→64'(8)SHINJI KIM>

控え:(1)SEOBIN WOO(18)JISU RYU(2)DAHEE MEANG(3)CHAEHYEON KOO(6)CASEY YUJIN PHAIR(13)YURI KIM(24)EUNYOUNG LEE(25)MINHWA LEE

得点 [日本]37'成宮唯(1-0) [韓国]86'DABIN JEONG(1-1)

警告 [韓国]45+1'MINYOUNG JUNG



第2戦・なでしこジャパン vs 韓国女子代表

データボックス

U-17日本女子代表 アメリカ遠征

[スタッフ]

○副長:能仲太司(JFA女子委員会副委員長) ○監督:白井貞義(NCS) ○コーチ:横道玲香(NCS) ○GKコーチ:井嶋正樹(NCS) ○フィジカルコーチ:石井孝典(NCS) ○テクニカルスタッフ:見原慧(JFAテクニカルハウス)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	関口明日香	セレッソ大阪ヤンマーガールズU-18	MF	星野朱凜	マイナビ仙台レディースユース
	神田瑠伽	JFAアカデミー福島		佐野杏花	JFAアカデミー福島
	山内れな	愛媛FCレディースMIKAN		佐藤色	十文字高校
DF	宮崎優那	マイナビ仙台レディースユース	FW	岩田琳香	マイナビ仙台レディースユース
	宮武つぐみ	AICJ高校		須長穂乃果	日テレ・東京ヴェルディメニーナ
	小泉恋奈	AIE国際高校		平川陽菜	三菱重工浦和レッズレディースユース
	松岡珠菜	日テレ・東京ヴェルディメニーナ		高橋佑奈	三菱重工浦和レッズレディースユース
	青木夕菜	日テレ・東京ヴェルディメニーナ		福島望愛	JFAアカデミー福島
	佐藤百音	大宮アルディージャ VENTUS U18		新田彩和	三菱重工浦和レッズレディースユース
	根鈴花李	十文字高校		佐藤愛真	日本航空高校
	伊藤白羽	柳ヶ浦高校		平七海	INAC神戸レオンチーナ
MF	大野羽愛	高知学園高知高校			

<スケジュール>

6月21日 羽田発、デトロイト経由
カンザスシティ着
22日~23日 トレーニング
24日~25日 練習試合
26日~27日 トレーニング
28日 国際親善試合 vs U-17アメリカ女子代表
(CPKC Stadium)
29日~30日 トレーニング
7月1日 国際親善試合 vs U-17アメリカ女子代表
(University of Kansas Health Systems Training Center)
2日 カンザスシティ発、シアトル経由
3日 羽田着

国際親善試合

U-17日本女子代表 3 (前半2-0 後半1-0) 0 U-17 アメリカ女子代表

●2025年6月28日 18:30 ●CPKC Stadium ●試合時間:90分

日本(監督:白井貞義):[GK](12)山内れな [DF](5)根鈴花李<→87'(7)宮崎優那>(6)小泉恵奈<→46'(3)佐藤百音>(18)松岡瑛菜<→87'(4)宮武つぐみ>(21)青木夕菜<→87'(9)伊藤白羽>(2)福島望愛<→67'(20)新田彩和>(10)大野羽愛<→67'(22)佐野杏花>(15)平川陽菜<→73'(14)佐藤色>(16)高橋佑奈<→87'(13)星野朱凜>(19)須長穂乃果 [FW](11)佐藤愛真<→46'(8)岩田琳香>

控え:(1)関口明日香(23)神田瑠伽(17)平七海

得点 10' 佐藤愛真(1-0)、32' 福島望愛(2-0)、48' 高橋佑奈(3-0)

国際親善試合

U-17日本女子代表 5 (前半2-2 後半3-2) 4 U-17 アメリカ女子代表

●2025年7月1日 13:00 ●University of Kansas Health Systems Training Center ●試合時間:90分

日本(監督:白井貞義):[GK](1)関口明日香<→46'(23)神田瑠伽> [DF](3)佐藤百音(7)宮崎優那<→75'(6)小泉恵奈>(18)松岡瑛菜<→46'(4)宮武つぐみ>(21)青木夕菜<→46'(9)伊藤白羽> [MF](8)岩田琳香(14)佐藤色<→75'(17)平七海>(16)高橋佑奈<→58'(5)根鈴花李>(19)須長穂乃果<→46'(13)星野朱凜>(20)新田彩和<→58'(10)大野羽愛>(22)佐野杏花<→46'(15)平川陽菜>

控え:(12)山内れな(2)福島望愛(11)佐藤愛真

得点 18'、36'、55'、86' 失点(0-1)(2-2)(3-3)(5-4)、29' 岩田琳香(1-1)、32'、49' 新田彩和(2-1)(3-2)、73' 平川陽菜(4-3)、80' 平七海(5-3)

FIFAクラブワールドカップ2025

※55ページに関連記事あり

■グループリーグ

順位	グループA	バルメイラス	インテルマイアミ	FCポルト	アルアハリ	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	バルメイラス(ブラジル)		2△2	0△0	2○0	5	1	2	0	4	2	2
2	インテルマイアミ(アメリカ)	2△2		2○1	0△0	5	1	2	0	4	3	1
3	FCポルト(ポルトガル)	0△0	1●2		4△4	2	0	2	1	5	6	-1
4	アルアハリ(エジプト)	0●2	0△0	4△4		2	0	2	1	4	6	-2

順位	グループB	パリサンジェルマン	ボタフォゴ	アトレチコマドリッド	アトランタ	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	パリサンジェルマン(フランス)		0●1	4○0	2○0	6	2	0	1	6	1	5
2	ボタフォゴ(ブラジル)	1○0		0●1	2○1	6	2	0	1	3	2	1
3	アトレチコマドリッド(スペイン)	0●4	1○0		3○1	6	2	0	1	4	5	-1
4	シアトルサウンダース(アメリカ)	0●2	1●2	1●3		0	0	0	3	2	7	-5

順位	グループC	ベンフィカ	バイエルンミュンヘン	ボカジュニアーズ	オークランドシティ	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	ベンフィカ(ポルトガル)		1○0	2△2	6○0	7	2	1	0	9	2	7
2	バイエルンミュンヘン(ドイツ)	0●1		2○1	10○0	6	2	0	1	12	2	10
3	ボカジュニアーズ(アルゼンチン)	2△2	1●2		1△1	2	0	2	1	4	5	-1
4	オークランドシティ(ニュージーランド)	0●6	0●10	1△1		1	0	1	2	1	17	-16

順位	グループD	CRフラメンゴ	チェルシー	エスパランス	ロサンゼルスFC	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	CRフラメンゴ(ブラジル)		3○1	2○0	1△1	7	2	1	0	6	2	4
2	チェルシー(イングランド)	1●3		3○0	2○0	6	2	0	1	6	3	3
3	エスパランス(チュニジア)	0●2	0●3		1○0	3	1	0	2	1	5	-4
4	ロサンゼルスFC(アメリカ)	1△1	0●2	0●1		1	0	1	2	1	4	-3

順位	グループE	インテルミラノ	CFモンテレイ	リバープレート	浦和	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	インテルミラノ(イタリア)		1△1	2○0	2○1	7	2	1	0	5	2	3
2	CFモンテレイ(メキシコ)	1△1		0△0	4○0	5	1	2	0	5	1	4
3	リバープレート(アルゼンチン)	0●2	0△0		3○1	4	1	1	1	3	3	0
4	浦和レッズ(日本)	1●2	0●4	1●3		0	0	0	3	2	9	-7

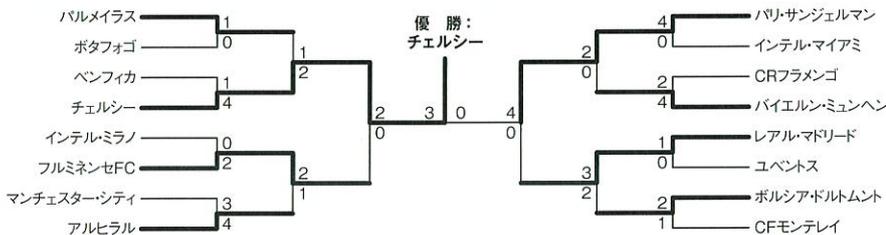
順位	グループF	レアルマドリッド	フルミネンセFC	マロティヤサンダウンス	蔚山HD	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	レアルマドリッド(スペイン)		0△0	4○3	1○0	7	2	1	0	5	3	2
2	フルミネンセFC(ブラジル)	0△0		0△0	4○2	5	1	2	0	4	2	2
3	マロティヤサンダウンス(南アフリカ)	3●4	0△0		1○0	4	1	1	1	4	4	0
4	蔚山HD(韓国)	0●1	2●4	0●1		0	0	0	3	2	6	-4

順位	グループG	マンチェスターシティ	ユベントス	アルアイン	ウィタード	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	マンチェスターシティ(イングランド)		5○2	6○0	2○0	9	3	0	0	13	2	11
2	ユベントス(イタリア)	2●5		5○0	4○1	6	2	0	1	11	6	5
3	アルアイン(UAE)	0●6	0●5		2○1	3	1	0	2	2	12	-10
4	ウィタード(モロッコ)	0●2	1●4	1●2		0	0	0	3	2	8	-6

順位	グループH	レアルマドリッド	アルヒラル	FCザルツブルク	CFパチューカ	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	レアルマドリッド(スペイン)		1△1	3○0	3○1	7	2	1	0	7	2	5
2	アルヒラル(サウジアラビア)	1△1		0△0	2○0	5	1	2	0	3	1	2
3	FCザルツブルク(オーストリア)	0●3	0△0		2○1	4	1	1	1	2	4	-2
4	CFパチューカ(メキシコ)	1●3	0●2	1●2		0	0	0	3	2	7	-5

○:勝ち(勝ち点3)、△:引き分け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

■決勝トーナメント



スポーツ 夢 実現!!

アスリートのためのスポーツ食

ミズマ

MIZUMA

「MIZUMA」はアスリートとして世界で戦った経験と知識を持つ開発者が商品を考案しました。「MIZUMA」にはそんなアスリートとして活躍した開発者の豊かな経験と知識が生きています。

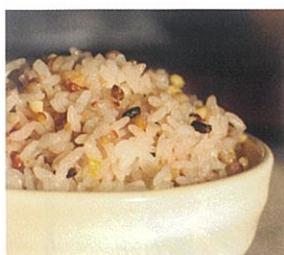
毎日の体づくりの基本に

1小袋につき
アミノ酸
4,284
mg

穀物の力 スポーツ雑穀米



16種類の穀物をスポーツ愛好家のためにブレンドしたアミノ酸スコア100の雑穀米。大豆の配合量が多く、豊富なたんぱく質を手軽に摂取できます。12種類を発芽させて栄養価をアップ。白米と炊くだけで歯ごたえのよい食感に。毎日の食事に雑穀米をプラスしてバランスの良い食生活を。



栄養成分(100g中)		アミノ酸スコア100	
エネルギー	351kcal	亜 鉛	2.3mg
たんぱく質	19.4g	ビタミンB1	0.48mg
脂 質	5.5g	ビタミンB6	0.86mg
糖 質	50.6g	ナイアシン	4.9mg
食物繊維	10.7g	パントテン酸	1.26mg
食塩相当量	0.0g	γ-アミノ酪酸	9mg
カリウム	730mg	たんぱく構成アミノ酸	21.420mg
カルシウム	61mg	総ポリフェノール	320mg
マグネシウム	150mg	大豆イソフラボン	54mg
鉄	2.5mg		

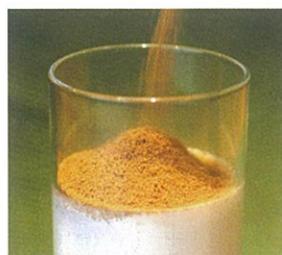
食品から得られる運動前のエネルギー補給・ 運動後のリカバリーに

1小袋につき
アミノ酸
3,788
mg

穀物の力パウダー



16種類の穀物をブレンドした、栄養バランスに優れた雑穀パウダー。持ち歩きに便利な小袋タイプで、そのまま食べてもおいしく水に混ぜてもOK。黒糖と雑穀の豊富な栄養から手軽にエネルギーを補給。程よい甘さが空腹感を和らげます。(穀物が溶けないので、混ぜながらお飲みください。)



栄養成分(100g中)			
エネルギー	384kcal	亜 鉛	2.1mg
たんぱく質	20.1g	ビタミンB6	0.37mg
脂 質	6.7g	ビタミンB12	2.36μg
糖 質	57.2g	ナイアシン	1.7mg
食物繊維	7.0g	パントテン酸	1.16mg
食塩相当量	0.4g	γ-アミノ酪酸	7mg
カリウム	1,600mg	たんぱく構成アミノ酸	18,940mg
カルシウム	220mg	総ポリフェノール	830mg
マグネシウム	190mg		
鉄	4.9mg		

※総ポリフェノールには大豆イソフラボンを含みます。 ※赤字は健康増進法に基づく栄養表示基準において、豊富と言える栄養素

国内産にこだわった安全・安心な商品で皆様の健康をサポートいたします。





東アジアE-1サッカー選手権2025 決勝大会 韓国

7月7日から16日にかけて韓国を舞台に東アジアE-1サッカー選手権2025決勝大会 韓国が開催された。SAMURAI BLUE（日本代表）は、8日にホンコン・チャイナ代表、12日に中国代表、15日に韓国代表と対戦し、3戦全勝で大会連覇を果たした。

※SAMURAI BLUEメンバー、公式記録は44～45ページに掲載 ※選手の所属は試合時



3連勝で大会連覇を達成

14人が初招集も 見事な連係で連勝

今大会は、国際Aマッチデー対象外期間での開催のため、森保一監督はJリーグでプレーする26人の選手でチームを編成した。しかし、7月3日のメンバー発表後に川崎颯大（京都）が所属クラブ事情で西村拓真（町田）が脳振盪のため不参加となり、代わって田中聡（広島）と原大智（京都）が7日に招集された。この選手変更により26人のうち14人が初招集となった。

初戦のホンコン・チャイナ戦、日本はFIFAワールドカップ26アジア最終予選と同様、3-4-2-1の布陣を採用し、先発6選手が国際Aマッチ初出場となった。

日本は開始早々から相手陣内で試合を進め、得点を重ねていく。4分、相馬勇紀（町田）のクロスをジャーマイン（広島）が胸で受け、ボレーシュートで先制点を挙げた。ジャーマインはその6分後にも相馬のクロスからヘディングシュートを決め、20分には稲垣祥（名古屋）が得意のミドルシュートで追加点を奪った。

4点目は22分、見事な連動から

生まれた。古賀太陽（柏）のパスを川辺駿（広島）、垣田裕暉（柏）とワンタッチでつなぎ、最後はジャーマインが左足でシュート。

チームは試合3日前に現地入りし、トレーニングとミーティングをそれぞれ1回行っただけでこの試合に臨んだが、急造チームとは思えないコンビネーションだった。

26分には久保藤次郎（柏）が右サイドから仕掛け、グラウンダーのクロス

を中央に送ると、これをジャーマインがワンタッチでゴールへ流し込んだ。国際Aマッチ初出場での4得点は、1930年5月の若林竹雄以来95年ぶりの快挙。また、30歳での国際Aマッチデビューは戦後最年長記録だ。

前半を5-0で折り返した日本は、後半開始とともに選手を入れ替えながら、試合の主導権を握り続けた。59分にCKから失点したが、チームが崩れることはなかった。

77分の5人目の選手交代後は、布陣を4バックに変更。アディショナルタイムには途中出場の中村草太（広島）が駄目押しとなる



ジャーマインは3試合で5得点を挙げ、大会最優秀選手と得点王に輝いた

ゴールを決め、6-1の白星発進となった。試合後、森保監督は「難しい初戦で、選手たちは思い切った。普段やっていることを出してくれた」と、選手のプレーをたたえた。

中3日で迎えた中国との第2戦は、初戦から先発全員を入れ替えた。長友佑都（FC東京）はFIFAワールドカップカタール2022年以来的の出場で、38歳303日での出場は日本史上3番目の年長記録となった。

日本はこの試合でも早い時間帯にスコアを動かす。11分、田中のパスを受けた細谷真大（柏）が、

鋭いターンから右足でシュート。これがゴール左隅に突き刺さった。17分には相手FWにディフェンスラインを突破されるが、国際Aマッチ初出場のGK早川友基（鹿島）がシュートをブロック。その後は中国にチャンスを与えず、追加点の好機をつくりながら前半を終えた。

後半も日本ペースで試合を進め、64分に右サイドの望月ヘンリー海輝（町田）がカットインから左足でシュートを決める。望月の国際Aマッチ初ゴールが貴重な追加点となり、日本はこのまま2-0で試合を終えた。

アウェイで韓国に勝利 2大会連続3度目の優勝

各チームが2試合を終え、日本と韓国が2連勝で勝ち点6。得失点差では日本が上

回っており、最終戦で引き分け以上であれば、優勝が決まる。日本と韓国、両チームにとっての一番には1万8418人の観衆が詰めかけた。「テーハミングク（大韓民

国）」の大合唱にスタンドが包まれる中、日本はGK大迫敬介（広島）と右サイドの望月以外、第1戦と同じメンバーで臨んだ。

3-4-2-1の布陣がぶつかり合うミラーゲームで、局面で激しい攻防が繰り広げられる。7分に相手のシュートがポストをたたくが、その直後、第1戦で

保ってはね返す。森保監督は77分、左ウイングバックの植田直通（鹿島）を投入。荒木隼人（広島）、古賀、安藤の3人に植田を加え、守備を強化した。84分には至近距離からシュートを打たれるが、これはGK大迫が俊敏なセーブで阻止。5分の

アディショナルタイムもしのぎ、1-0で終了の笛を聞いた。

日本は2大会連続3度目の優勝を果たすと同時に、2021年3月、22年7月の対戦に続いて韓国を下し、史上初めてとなる日韓戦3連勝を達成した。

森保監督は「選手たちは自分の存在感を示すことを考えていたと思うが、それでも日本のために、日本代表として誇りを持ってこの大会に挑んでくれた」と、個々の献身性を高く評価した。

なお、ジャーマインが5ゴールで得点王となり、大会最優秀選手にも輝いた。韓国戦でクリーンシートを達成した大迫は、最優秀GKに選ばれた。



日本は3試合で26人全員を起用しながらもチームとして連携し、個々の力も見せて勝利を重ねた

しかし、後半が始まると、自陣でのプレーが長くなる。CKを立て続けに与える時間もあつたが、全員が高い集中力を

森保監督は「選手たちは自分の存在感を示すことを考えていたと思うが、それでも日本のために、日本代表として誇りを持ってこの大会に挑んでくれた」と、個々の献身性を高く評価した。



韓国戦でチームを救うビッグセーブを見せた大迫。1試合のみの出場ながらも大会最優秀GKに選出された

2025年7月8日 19:24
龍仁(韓国) / Yong-in Mireu Stadium

日本 **6-1** ホンコン・チャイナ

4', 10', 22', 26' ジャーマイン良
20' 稲垣祥
90+3' 中村草太

5-0
1-1

59' MATTHEW ELLIOT WING KAI ORR

GK ②③ ビバ/アレクサンドレ・ジャクソン
DF ③ 荒木隼人
④ 古賀太陽
⑥ 安藤智哉
MF/FW ⑥ 川辺駿
⑦ 相馬勇紀
⑨ 宮代大聖
⑦⑦ 望月ヘンリー海輝

MFW ⑬ ジャーマイン良
→ 46' ②⑥ 中村草太
⑮ 稲垣祥
⑰ 垣田裕暉
→ 46' ⑮ 山田新
⑳ 久保隆次郎
→ 63' ⑳ 佐藤龍之介

2025年7月12日 19:24
龍仁(韓国) / Yong-in Mireu Stadium

日本 **2-0** 中国

11' 細谷真大
64' 望月ヘンリー海輝

1-0
1-0

GK ⑩ 早川友基
DF ⑤ 長友佑都
⑥ 植田直通
⑧ 網島悠斗
MF/FW ② 望月ヘンリー海輝
④ 田中聡
⑩ 細谷真大
→ 90' ②⑥ 中村草太

MFW ⑪ 原大智
→ 46' ⑩ ジャーマイン良
⑰ 宇野禪斗
⑱ 儀積田晃太
→ 67' ⑦ 相馬勇紀
⑳ 佐藤龍之介
→ 69' ⑭ 大関友翔

2025年7月15日 19:24
龍仁(韓国) / Yong-in Mireu Stadium

日本 **1-0** 韓国

8' ジャーマイン良

1-0
0-0

GK ① 大迫敬介
DF ③ 荒木隼人
④ 古賀太陽
⑥ 安藤智哉
MF/FW ② 望月ヘンリー海輝
⑥ 川辺駿
⑦ 相馬勇紀
→ 77' ⑦ 宇野禪斗
→ 77' ⑥ 植田直通

MFW ⑨ 宮代大聖
→ 65' ⑨ 佐藤龍之介
⑬ ジャーマイン良
→ 85' ⑪ 原大智
⑮ 稲垣祥
⑰ 垣田裕暉
→ 65' ⑩ 細谷真大

東アジアE-1サッカー選手権2025 決勝大会 韓国

東アジアE-1サッカー選手権2025決勝大会 韓国(7月7~16日)に出場したなでしこジャパン(日本女子代表)は、9日にチャイニーズ・タイペイ女子代表と、13日に韓国女子代表、16日に中国女子代表と対戦し、1戦2分けの3位で大会を終えた。



1勝2分けの3位で大会を終える

※なでしこジャパンメンバー、公式記録は46~47ページに掲載
※選手の所属は試合時

11人が初招集の今大会 初戦は4得点で快勝

なでしこジャパンのニルス・ニールセン監督は、東アジアE-1サッカー選手権2025決勝大会韓国の出場メンバーをWEリーグでプレーする選手から選出し、23人のうち11人が代表初招集となるフレッシュなメンバー構成となった。

前回大会(2022年)で連覇を達成した日本が今大会で目指すのは、もちろん優勝。初戦の3日前に韓国入りし、2日間の練習で準備をして初戦を迎えた。2024-25シーズンにWEリーグMVPを受賞した山本柚月(東京NB)は二緒にプレーするのが初めてという選手が多いが、WEリーグで対戦してきたので特徴は知っている。あとは試合中にプレーを擦り合わせて優勝という目標に近づきたいと意気込み、チャイニーズ・タイペイ戦に臨んだ。

パスから左サイドバックの矢形海優(マイ仙台)が先制弾を決める。所属チームではFWを任されている矢形は「人生初のサイドバックでびっくりました」としつつ、「やはりゴールを取

りたいとは思っていた。きれいな形ではなかったけど自分らしいゴール」と持ち前の攻撃的スタイルを発揮した。その3分後には追加招集の滝川結女(新潟)が追加点を決め、後半立ち上がりにも今大会のキャプテンを務める高橋はな(浦和)が3-0とする。70分には途中出場の吉田莉胡(神戸)がオウンゴールを呼び込んで4-0と快勝した日本。ニールセン監督は「最初は躊躇するプレーや神経質になる場面が見られた」としながらも「大会後には代表に残る選手も出てくるのではないかと、新戦力発掘に手応えを得た様子だった」。



チャイニーズ・タイペイとの初戦では、先制点を挙げた矢形(写真右)をはじめ初招集の選手たちも躍動した

残る2戦は引き分け 勝ち点で並ぶも3位に

中3日で迎えた韓国戦は、先発のGK大熊茜(神戸)、浜田芽来(大宮)、菅野奏音(東京NB)が国際アマッチ初出場を果たし、初戦でFWとして出場した山本と高橋はDFラインに入った。第1回大会以来の優勝に向け、海外でプレーするチ・ソヨンなど主力となる選手を多く招集した韓国は、素早いプレッシングで日本を苦しめるが、

日本は愛川の縦パスから成宮が先制点を挙げる。「互いにやりたいことが分かっていて」と成宮が話した通り、1神戸のコンビネーションで前半をリードして終えた。韓国は地元の大きな声援を受けながら日本ゴールを狙うが、日本はGK大熊の好セーブなどでピンチをしのぐ。途中出場で代表デビューした嶋田華(広島)も攻撃に絡んで日本が追加点を狙う。しかし86分、韓国が日本守備陣を崩して1-1の同点に。その



3試合ともフル出場を果たし奮闘した石川はベストDF賞を受賞した

2025年7月9日 16:30 (現地時間)
水原(韓国) / Suwon WC Stadium

日本 **4-0** チャイニーズ・タイペイ

22' 矢形海優
25' 滝川結女
48' 高橋はな
70' オウンゴール

GK ⑫ 浅野菜摘	MF ⑧ 成宮唯
DF ② 遠藤優	→ 68' ⑩ 吉田莉胡
③ 三宅史織	⑪ 滝川結女
④ 市瀬千里	→ 46' ⑬ 上野真実
⑤ 高橋はな	FW ⑨ 山本柚月
⑥ 石川璃音	→ 58' ⑭ 中嶋淑乃
MF ⑦ 北村美羽	⑮ 矢形海優
	⑯ 愛川陽菜

2025年7月13日 20:00 (現地時間)
華城(韓国) / Hwaseong Sports Complex

日本 **1-1** 韓国

37' 成宮唯

86' DABIN JEONG

GK ⑫ 大熊茜	FW ⑨ 上野真実
DF ⑤ 高橋はな	→ 46' ⑩ 塩越柚歩
⑥ 石川璃音	⑪ 浜田芽来
MF ⑦ 菅野奏音	→ 64' ⑬ 矢形海優
⑧ 成宮唯	⑭ 中嶋淑乃
⑯ 吉田莉胡	⑮ 愛川陽菜
FW ⑨ 山本柚月	→ 81' ⑯ 大澤春花
→ 64' ⑰ 嶋田華	

2025年7月16日 16:00 (現地時間)
水原(韓国) / Suwon WC Stadium

日本 **0-0** 中国

GK ① 平尾知佳	MF ⑬ 吉田莉胡
DF ⑤ 高橋はな	→ 78' ⑯ 矢形海優
⑥ 石川璃音	FW ⑨ 山本柚月
⑦ 嶋田華	⑮ 塩越柚歩
MF ⑦ 北村美羽	→ 69' ⑰ 嶋渡百花
⑧ 成宮唯	⑱ 中嶋淑乃
⑩ 滝川結女	→ 69' ⑲ 愛川陽菜
→ 46' ⑳ 菅野奏音	

は、勝利すれば自力優勝が確定し、引き分ければ3位の韓国まで優勝の可能性が残るという状況で迎えた。朝から降り続く雨の中でキックオフした最終戦は、最前線の樋

は「ゴールチャンスはあったが勝利が得られず残念」と肩を落とすも、

「全員が最後まで戦い抜く素晴らしいメンタリティーを表してくれた」と選手の戦う姿勢をたたえた。表彰式では、3試合にフル出場した石川璃音(浦和)がベストDF賞を受賞し、「また一人一人がレベルを上げ、女子サッカーを盛り上げたい。ベストDF賞は(高橋)はなさんと声を掛け合ったり一緒に組んだりした仲間がいたからこれた賞」とコメント。来季からイングランドでプレーすることが決まっ

た。中2日での中国戦は、勝利すれば自力優勝が確定し、引き分ければ3位の韓国まで優勝の可能性が残るという状況で迎えた。朝から降り続く雨の中でキックオフした最終戦は、最前線の樋

その後、韓国がチャイニーズ・タイペイに2-0で勝利したため、韓国、中国、日本が勝ち点5で並んだ。大会レギュレーションにより、当該チーム間の対戦における得点数が最も多い韓国が優勝し、日本は3位となった。ニールセン監督は「ゴールチャンスはあったが勝利が得られず残念」と肩を落とすも、

「世界でも認められるように頑張りたい」と意欲を示した。キャプテンを務めた高橋は「優勝したかったが、全ての選手が国際舞台で大きな経験をした。それを所属チームやWEリーグに持ち帰り、ここで得たものを(念頭に置いて)プレーし続けることが私たちの使命」と力を込め、開幕まで1カ月

後も日本は追加点のチャンスをつくれず、勝ち点1を分け合う結果となった。第2節終了時点で首位を守った日本だが、センターフォワードに入った吉田は「1-0で迎えた終盤は自分たちで戦い方を変えなければいけなかった。特に前半はボールを収められなかった。そこは反省点と試合を振り返った。」

渡百花(東京NB)が幾度となくシュートを放つも、相手にカットされてゴールに結びつかない。スコアレスのまま前半を終え、後半の69分に2選手が交代したタイミングで、ニールセン監督は3バックに変更。愛川と吉田が左右のウイングバックに、高橋がFWに移動した。最前線で精力的に走る高橋は、後半アディショナルタイムに2度大きなシュートチャンスを得たが、いずれもゴール右下へと外れ、そのままタイムアップ。

を切ったWEリーグでも世界基準のパフォーマンスを続けることを誓った。



優勝は逃したが最後まで全員で戦い抜いたなでしこジャパン。大会を通して大きな経験をえた

6月14日から27日、イタリアのモンテジルヴァーノでデフフットサルワールドカップ2025が開催された。

デフフットサルは聴覚障がい者の競技で、デフフットサルワールドカップ(ろう者フットサル世界選手権大会)は2007年に第1回大会が行われて以降、4年に1度開催されている。昨年の第20回冬季デフリンピック競技大会では、デフフットサルが初めて正式種目となり、同大会に出場したデフフットサル男子日本代表は国際大会で過去最高位となる準優勝に輝き、デフフットサル女子日本代表は5位の成績を残した。

今回開催された6回目のワールドカップは、2027年に開催される予定だったが、次の冬季デフリンピックが同年に開催されることから、2年前倒しとなった。23年11月にブラジルで開催された前回大会で、日本は男子が3位、女子は初優勝とどちらも史上初(当時)となる最高成績を収めている。

今大会、男子は2020年から監督を務める藤井健太監督の下で悲願の初優勝を、女子は13年から指揮を執る山本典城監督の下で連覇を目指して戦った。

男子は18カ国が出場し、6チームずつ3グループに分かれて予選リーグを実施。日本はクロアチア、

デフフットサルワールドカップ2025(イタリア) 男子は11位、女子は7位で大会を終える



女子は12カ国が参加し、4チームずつ3グループに分かれて予選リーグを戦った。日本はポーランドとドイツにそれぞれ勝利して早々に準々決勝進出を決めると、ハンガリーとの第3戦も勝利して全勝で首位通過。準々決勝では前回大会の覇者で、昨年のデフリンピックで準優勝している強豪ブラジルと対戦した。前半に2点を先取される苦しい展開となったが、後半に1点を返して最後までゴールを目指す。しかし追加点

タイ、ベネズエラ、トルコ、アルゼンチンと対戦して3勝2敗でグループ3位となり、順位決定戦(9-16位)に進んだ。世界一への目標はかなわなかったが、次のベネズエラ戦を前に藤井監督は、「残る試合はこの大会に向けて努力をしてきた自分たちのため、応援してくれる全ての人々のため、日本代表として勝利や感動を届けられるように戦おう」と決意を語った。日本はベネズエラに6-1で勝利したが、続くウクライナには2-7で敗戦。11-12位決定戦でタイと対戦して8-2で勝ち、11位で大会を終えた。

東京2025デフリンピック
(第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025)
サッカー競技は11月14日、Jヴィレッジで開幕

デフリンピックは4年に1度開催されるデフ(きこえない・きこえにくい)アスリートのための国際スポーツ大会。1924年の第1回大会から100周年を迎える記念すべき2025年大会が今年11月、日本で初めて開催される。サッカー競技は福島県のJヴィレッジが舞台となり、デフサッカー男女日本代表が参加。日本ろう者サッカー協会(JDFA)は7月29日、大会に出場する最終メンバーを発表した。男子は11月14日(金)、女子は同15日(土)に初戦を迎える。

はならず、1-2で惜敗。山本監督は「チームが一丸となって最後まで戦ったが、あと一歩及ばなかった。選手たちは最後まで諦めずによく戦ってくれた」とたたえた。その後の順位決定戦では、イングランドに1-3で敗戦。7-8位決定戦ではスウェーデンを5-1で退けて7位を確定させた。

なお、男子は決勝でブラジルを2-0で下したイランが、女子はスペインがブラジルに6-5で勝利して大会を制覇。日本は男女共にフェアプレー賞を受賞した。

●デフサッカー男子日本代表 デフリンピック最終メンバー発表 (JDFAウェブサイト)

https://jdfa.jp/posts/deaf_football_men_member_202511



●デフサッカー女子日本代表 デフリンピック最終メンバー発表 (JDFAウェブサイト)

https://jdfa.jp/posts/deaf_football_women_member_202511



●東京2025デフリンピック試合日程 (JDFAウェブサイト)

<https://jdfa.jp/posts/deaflympics2025>



■男子試合結果

●予選リーグ(Cグループ)

- 6月14日 日本 4-5 クロアチア
- 6月16日 日本 3-1 タイ
- 6月18日 日本 6-0 ベネズエラ
- 6月20日 日本 2-11 トルコ
- 6月21日 日本 7-1 アルゼンチン

●順位決定戦(9-16位)

- 6月23日 日本 6-1 ベネズエラ
- 6月25日 日本 2-7 ウクライナ
- 6月26日 日本 8-2 タイ

■女子試合結果

●予選リーグ(Cグループ)

- 6月15日 日本 4-3 ポーランド
- 6月17日 日本 7-0 ドイツ
- 6月19日 日本 5-2 ハンガリー

●決勝トーナメント・準々決勝

- 6月22日 日本 1-2 ブラジル

●順位決定戦(5-8位)

- 6月24日 日本 1-3 イングランド
- 6月26日 日本 5-1 スウェーデン

浦和レッズは グループステージ 敗退に終わる

※大会結果一覧は48ページに掲載



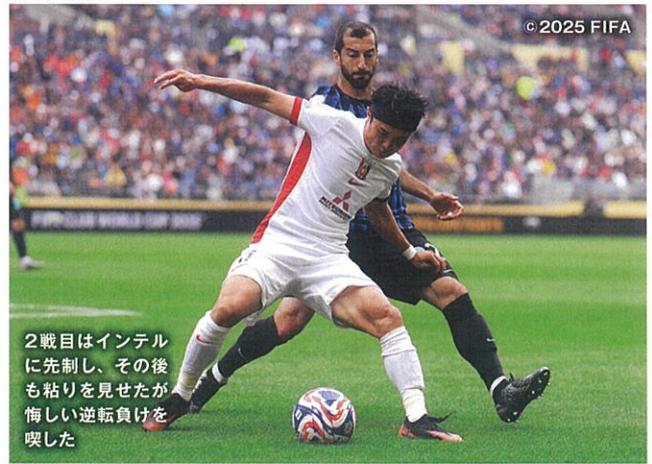
リバープレートとの初戦は1-3で敗れ、
厳しい滑り出しとなった

クラブ世界一を決めるFIFAクラブワールドカップ（FCWC）2025が6月14日から7月13日（現地時間）、アメリカの11都市にある12のスタジアムで開催された。7チームが参加して行われていた従来の大会から規模を拡大し、32チームが参加。日本からはAFCチャンピオンズリーグ2022優勝の浦和レッズが出場

し、リバープレート（アルゼンチン）、インテル・ミラノ（イタリア）、CFモンテレイ（メキシコ）の3チームとノックアウトステージ進出を懸けてグループEを戦った。

6月17日にシアトルで行われた初戦、浦和は南米の名門、リバープレートと対戦した。FIFAワールドカップカタール2022で優勝したアルゼンチン代表メンバーを含む強豪に対し、12、48分と失点する厳しい展開。58分に松尾佑介がPKで1点を返したが、73分に突き放されて1-3の黒星スタートとなった。

「勝てば（グループステージ突破の）チャンスがある（西川周作）と臨んだ21日の第2戦もシアトルが舞台となり、今シーズンのUEFAチャンピオンズリーグ優勝のインテルと相まみえた。ゴール裏をクラブカラーの赤で染めた多くの浦和サポーターの大声援を受け、11分、渡邊凌磨が先制点を決める。その後はインテルにボールを保持されて守勢の時間が続くが、ゴール前に人数をかけて集中してのぐ。しかし、78分にワールドカップカタール大会の優勝メンバーであ



2戦目はインテルに先制し、その後も粘りを見せたが悔しい逆転負けを喫した

るラウタロ・マルティネスに同点とされ、アディショナルタイムにもゴールを許して1-2の逆転負け。2戦2敗となり、グループステージ敗退が決まった。渡邊は「もっと自分たちの時間をつくらなければいけなかった」と悔しさを口にした。

ロサンゼルスに移動して迎えたグループステージ最終戦は6月25日に行われ、モンテレイに0-4と完敗を喫し、3戦全敗で大会を終えた。前半で3失点を喫し、試合終盤にチャゴ・サンタナが右サイドからのクロスを押し込んだものの、VARによってオフサイドの判定となり、得点は認められなかつ

た。浦和は「これまでの試合よりも多くのチャンスをつくれた試合（マチェイ・スコルジャ監督）と手応えはつかんだが、決定力の差を見せつけられる結果となった。

大会は7月13日にニューヨークのニュージャージーで決勝を迎え、チエルシー（イングランド）が今シーズンのUEFAチャンピオンズリーグを制覇したパリ・サンジェルマン（フランス）に3-0と快勝し、優勝を成し遂げた。



チエルシーが、32チームで争われた新たなクラブワールドカップの頂点に立った

© 2025 FIFA



©2025 adidas Japan K.K. adidas, the 3-Bar logo, the 3-Stripes mark, Predator, F50, Y-3 and Climacool are trademarks of adidas, used with permission.

2025 FIFA主要大会 公式試合球

CONEXT 25

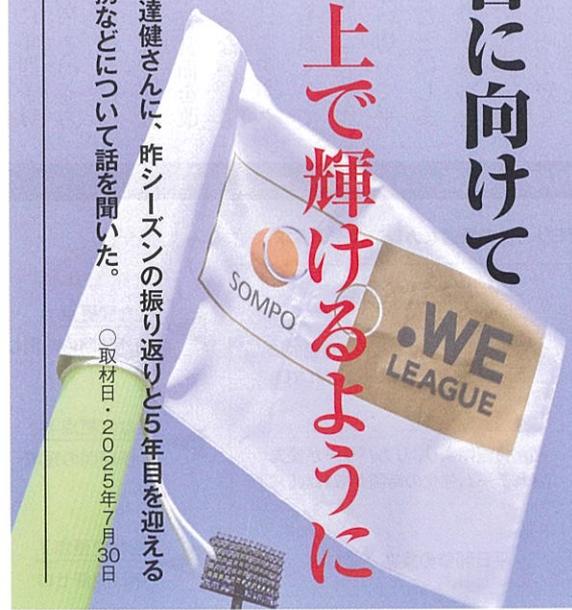
コネクト 25

5シーズン目に向けて

選手たちがピッチ上で輝けるように 新たな挑戦を

2024年9月、WEリーグの専務理事に就任した安達健さんに、昨シーズンの振り返りと5年目を迎える2025-26シーズンでの新たな施策、クラブとの連携などについて話を聞いた。

取材日・2025年7月30日



ポテンシャルを感じた一年 共感を呼ぶ選手たちの姿

WEリーグの専務理事に就任された際、どのような思いでその役割を引き受けられたのでしょうか。

安達 日本サッカーの発展のために日本サッカー協会（JFA）とJリーグが全面的に協力してWEリーグをより良くしていこうという話を聞いていましたので、そこに自分が貢献できるのであればという思いで任務に就きました。

——同時にJリーグの黒田卓志さんが事務総長に就任されました。二人三脚で業務を遂行されている印象があります。

安達 黒田事務総長と私はもと

もとの所属がJリーグとJFAという点で異なります。黒田事務総長は経営企画やメディア戦略などの分野で豊富な経験があり、私はJFAで地域・都道府県サッカー協会やJFA関連団体との連携、全国での普及活動などに携わってきましたので、互いの強みを生かせるように協力し、それぞれの役割を担っています。

——WEリーグの体制づくりで重視されたことは何でしょうか。

安達 一番はコミュニケーションですね。WEリーグに限らず、組織がうまく機能するには、やはりコミュニケーションが大事であると強く感じています。ですから、JFAやJリーグ、WEリーグのクラブや理

事、そしてパートナー企業の関係者などにかく直接お会いし、いろいろな話して理解を深めるところから始めました。

——皆さんの熱量というのは？

安達 もちろん、強く感じています。特にクラブの皆さんは経営面に直接影響が出ますし、WEリーグをもっと良くしていきたい、もっと知ってもらいたい、日本の女子サッカーをもっと強くしたい、という思いを持ってらっしゃいます。それは選手たちも同じです。こちらが赴いて直接話す機会をつくることで、皆さんの思いを感じ取ることができたのは良かったと思っています。

——昨シーズンまでプレーされていた

近賀ゆかりさんが特任理事に就任されました。期待されることをお聞かせください。

安達 経営基盤の確立や社会連携など、リーグが取り組むべきことはありますが、プロリーグとしての大きな価値はやはりピッチ上で選手たちが素晴らしい試合を見せることです。それがリーグの理念につながっていきます。近賀さんは選手としていろいろな経験をされ、なでしこジャパン（日本女子代表）でも世界トップレベルで活躍された方です。ですから近賀さんには選手たちが最大限のパフォーマンスを発揮できるように、選手目線で率直な意見やアイデアを出してもらいたいと思っています。

理事の海堀あゆみさんも普及活動や社会連携事業で精力的に取り組まれていますので、近賀さんにも女子サッカーの普及や発展に貢献

してもらえたらうれしいですね。

——昨シーズンは年間最高入場者数33万7290人を達成し、入場者数1万人以上がSOMPO WEリーグ・クラシエカップを含めて5試合、そのうち3試合が2万人以上を数えました。就任されて1年目はどのようなシーズンでしたか。

安達 昨年12月に国立競技場で開催したクラシエカップの決勝は、リーグの主管試合だったので、2万1524人もファン・サポーターが詰めかけてくださり、女子プロサッカーのポテンシャルの高さを直に感じました。その後、3月にSOMPO WEリーグが再開し、サンフレッチェ広島レジーナは3月8日のホームゲームで2万人以上を集客しました。これはすごい、と思いますね。観客動員1万人プロジェクトとして「自由すぎる女王



安達健
WEリーグ専務理事

の大祭典」を掲げ、クラブも選手たちも一丸となってプロモーションを仕掛けていた結果が数字に表れ、やり方次第でこれだけの人を集められるんだと。そこから「自分たちもたくさんの人に来てもらいたい」という思いが他のクラブにも広がっていったように感じます。

平日開催なしの決断 競技力向上への施策

「ろいね」と話されていました。そういう意味では、これだけポテンシャルのある女子のプロサッカーをいかに盛り上げていくか、われわれリーグも挑戦し続けなければならぬと痛感させられました。

5月6日に国立競技場でJリーグと同日開催したジェフ千葉レディースと大宮アルディージャVENTUS（現、RB大宮アルディージャWOMEN）の試合では、入場者数2万6605人と過去最高記録を更新しました。会場の雰囲気がとても良くて、その刺激を受けてか選手たちもアグレッシブで見応えのある試合を見せてくれました。試合は引き分けに終わり、試合後の選手インタビューでは千葉Lの選手が、涙を流しながら「悔しい」とコメントしていて、その様子にも胸を打たれました。このようなひたむきに勝利を目指しプレーする選手たちの姿こそが、きっと多くの人の共感を呼ぶのだと思います。一緒に試合を見ていたパートナー企業の方も「私たちももっとやらな」といけませんね」と感銘を受けていらっしやいましたから。

——直接その反応をご覧になっていたのですね。

安達 普段はJリーグを見ているという人も「女子の試合もおもしろいね」と話されていました。そういう意味では、これだけポテンシャルのある女子のプロサッカーをいかに盛り上げていくか、われわれリーグも挑戦し続けなければならぬと痛感させられました。

——2025-26シーズンに向けて、カレンダーを見直されました。主な変更点は（1）開幕時期の前倒し、（2）中断期間の短縮、（3）平日開催ゼロの3つです。意図をお聞かせいただけますか。

安達 われわれの今の一番のミッションは、経営面の改善です。具体的に年間予算は約16億円ですが、そのうちJFAの補助金が約5億円あります。WEリーグが独立し立ちするには、経営面を改善しなければなりません。もちろんリーグだけでなく、クラブの経営状況も良くしていかなければなりません。そこでまずは思い切った平日開催をなくすことにしました。土日のほうが集客しやすく収益も上がりますし、競技面でも試合間隔が短くなる選手たちのパフォー

マンスに影響してきます。それ为前提にカレンダーの調整に入りました。

——平日開催をなくすと大会期間は長くなりますね。

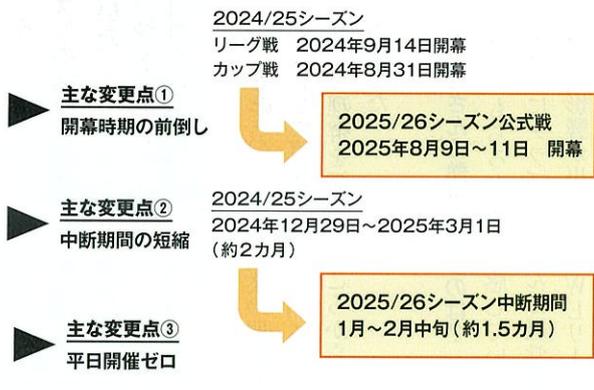
安達 そこでウインターブレイクとオフの期間を少し短くしました。夏のまだ暑い時期に開幕すること

カレンダー改革

WEリーグの最適なカレンダーの探求

抱えていた課題

- 公式戦の無い期間が長く、継続的にファンとのタッチポイントが作れない
- 過密日程により、リカバリーが優先されチーム強化の時間が取れない
- 平日開催の集客が難しい



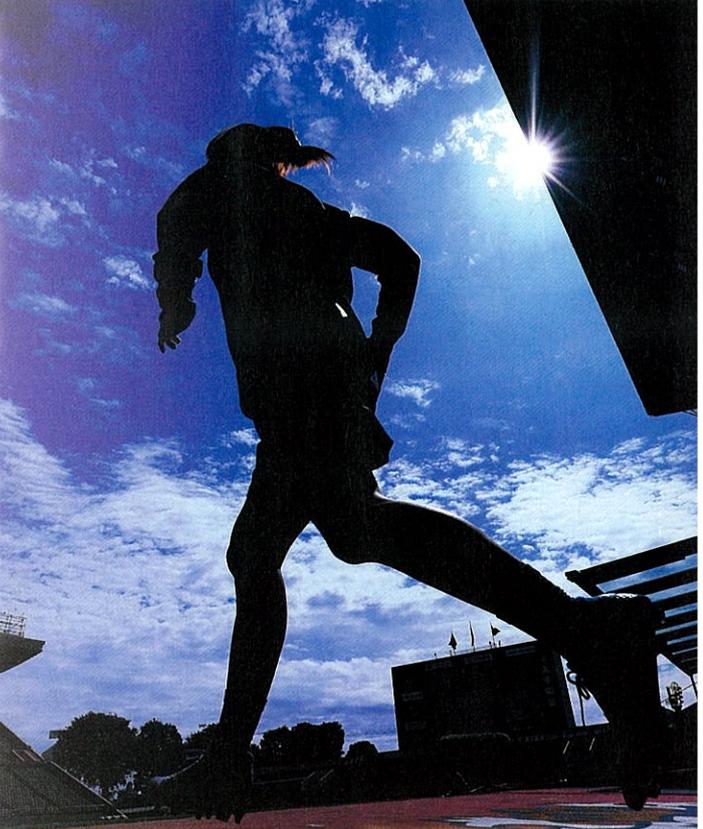
——そのほかの施策についても教えてください。

安達 次にクラシエカップの価値向上に取り組みました。SOMPO WEリーグや皇后杯JFA全日本女子サッカー選手権大会との差別化を図ることで新たな魅力をつくれなかと考えました。議論を進める中で、なぜしこジャパンがPK戦で負けることが多いという話があり、実際に昨シーズンのAFC女子チャンピオンズリーグ準々決勝でも、浦和は

PK戦で敗れていますよね。PK戦も経験が必要だということ、クラシエカップのグループステージにPK戦を導入することにした。これも新たな挑戦です。

——PK戦があることで各チームの戦術にもより特徴が出てきます。

安達 また一味違ったグループステージになり、ドキドキやワクワクを感じてもらえるのではないかと期待しています。また、リーグの主管試合として一発勝負だった準決勝をホーム&アウェイ方式に変えます。4チームがホームゲームを開催できるようにするので、そこでプロモーションを仕掛けることによって集客につなげ、経営面でクラブにもプラスになればと



リーグカップ戦の大会方式変更

①グループステージにPK方式を導入

リーグ戦との差別化を図り、必ず毎試合勝敗がつくことによる盛り上がりを提供するためのPK戦の導入

②準決勝をホーム&アウェイ方式に

クラブへのマーケティング・収益機会の提供を目的とした準決勝のホーム&アウェイ方式

③AFC女子チャンピオンズリーグ出場クラブもグループステージから出場

カレンダー改革によりAFC女子チャンピオンズリーグ出場クラブも参加できる日程になったため、全クラブがグループステージから出場できる

映像品質の向上と視聴促進

■リーグ戦中継体制の強化

2024/25シーズン

各試合
カメラ2台



2025/26シーズン

各節1試合 カメラ5台
その他試合 カメラ3台

解説付き試合の増加

■注目試合の設定

2025/26シーズン

各節1試合ピックアップマッチの設定(カメラ5台体制)

MATCH
OF THE
WEEK



■試合映像の活用

クリッピングツールの導入により試合後すぐにリーグ・クラブが映像を切り取って発信可能

「クラブがどの選手のどのシーンを切り取るのか、それぞれ特色も出そうですし、選手のモチベーションにもつながりそうです。」

安達 そうです。期待しているですね。それも

「8月に開幕する5年目のシーズンに向けて、抱負をお聞かせください。」

安達 新体制になって2年目のシーズンになりますので、結果が求められます。その中でリーグがやらなければならぬことは、一人でも多くの方に試合を見ていただくということ。そのためには露出を増やし、WEリーグの認知度と関心度をもっと高めていく必要があります。

選手たちはピッチ上で懸命にプ

思っています。

そして、競技面以外では中継映像制作や発信にも力を入れていきます。昨シーズンのSOMPO WEリーグでは各節1試合をピックアップマッチとして、カメラを3台入れていました(通常はカメラ2台)。3台あるとピッチ上に1台置いておけるので、選手のインタビュもできるんですね。今シーズンからはカメラ3台を基本とし、ピックアップマッチを「MATCH OF THE WEEK」としてカメラを5台入れます。5台あるといろいろな映像を撮ることができ、例えば、女子サッカーならではのテクニカルなプレーや連係プレー、選手の表情なども収めることができますので、魅力の詰

まった素材が増えます。

「カメラ3台から5台はかなりのパワーアップですね。」

安達 さらにクリッピングツールも導入しましたので、動画を切り取って即座に発信することができるようになりました。魅力の詰まった素材をたくさんそろえ、良い場面を切り取り、すぐさま発信する。リーグだけでなく、クラブもその映像を使えますので、WEリーグの魅力やクラブの特徴あるプレーを今シーズンはどんどん発信していきます。

各節でベストシーンを発信 クラブごとに露出を図る

「クラブも自分たちで好きな

シーンを選んで発信できるようにする。」

安達 そうです。そこで7月の理事会では、「月間ベストオフエンス賞」と「月間ベストディフェンス賞」の新設を決めました(詳細は32ページ参照)。これは各節、クラブが攻撃と守備のベストシーンを切り取ってリーグに推薦し、同時にSNSでも発信してもらおうというものです。そして、推薦されたシーンから月間表彰をします。毎節、積極的に露出を図って話題をつくり、最終的には、WEリーグアウォーズでその中から最優秀オフエンス賞と最優秀ディフェンス賞を表彰します。ファン投票も絡めることで、まだWEリーグを見ることができない層の関心も高められるといいなと思っています。

点です。見ている人の関心度も数字で見えてきますから、面白くなるんじゃないかなと思っています。

集客という点では、各クラブの入場者数増に向けて、リーグがクラブの取り組みをサポートする制度も設けました(下表参照)。この制度の重要なところは、支援制度をつくるだけではなく、リーグがクラブと一緒に施策を考案するという点。そして、何がうまくいって、何がうまくいかなかったのか、そうした情報を他のクラブにスピード感をもって共有するという点です。われわれはシーズンを通して、昨シーズンのような盛り上がり山の山をたくさんつくっていきたい。そのためにもリーグとクラブが一体となって取り組んでいきます。

レーしています。われわれは選手たちが100パーセントの力を発揮できるように環境を整えていきます。選手たちの輝く姿を見てもらえたら、いろいろなことを感じてもらえるはずです。今シーズンのWEリーグにもぜひ注目してください。

2025/26 シーズン入場者数増に向けた取り組み

集客注力試合パイロットクラブを募集し、WEリーグが各クラブの集客注力試合に対してサポートする

- 1万人を集客目標とするパイロットクラブを募集し、プロモーション・マーケティング施策を費用面でサポート
- そこで見いだされた「集客の型・事例・ノウハウ」を他クラブにも共有する

■2025/26シーズンの試合日程などはWEリーグ公式サイトをチェック!

<https://weleague.jp/>



■WEリーグシーズンレビュー2024/25

<https://weleague.jp/news/1639/>





価値共創活動を通じてより良い社会の実現へ

茂木邦彦 JFAパートナー事業部部長 インタビュー

日本サッカー協会（JFA）が各パートナー企業と進める「JFA PARTNERSHIP PROJECT for DREAM ~サッカーを通じた価値共創」。その取り組みや目的、今後の展望などについて、JFAパートナー事業部の茂木邦彦部長に聞いた。
○取材日：2025年7月24日



「JFA×KIRIN キリンファミリーチャレンジカップ」には老若男女が集う

サッカーファミリーへの提供価値を最大化する

——パートナーシッププロジェクトの概要を教えてください。

茂木 JFAが取り組むパートナーシッププロジェクトは、2023年に6つの階層からなる現在の形にリニューアルしました（図1参照）。15年に国連で持続可能な開発目標（SDGs）が制定されて以降、サステナビリティやESG経営（※1）が企業や組織の経営の中核に据えられるようになってきました。JFAもそこに注力すべく、パートナー企業と手を組んで相乗効果を生み出し、社会やサッカー界に向けて価値を提供していくことをテーマに設計しました。

※1 環境（Environment）、社会（Society）、ガバナンス（Governance）の3つの要素を重視する経営方法



JFAパートナー事業部の茂木部長

【図1】 JFAのパートナーシップ構造



——それまでの形から大きく変えたのでしょか。

茂木 以前、パートナー企業には日本代表やJFA主催大会など各事業に協賛してもらおう形で、事業ごとに契約を結んでいました。そうした制約を取り払い、一つの制度にしていこうと。また企業側にとっても、さまざまなアセット（提供価値）を持つJFAのパートナーになることでより満足度を高められるようにしたい、という考えがありました。

——プロジェクトの名称には「for DREAM」という言葉も入っています。

茂木 JFAは「JFA 2050年宣言」で、2050年までに「サッカーファミリーを1000万人に」「FIFAワールドカップを日本で開催し、優勝する」と約束しています。この約束はJFAの方だけであつたものではありません。共に歩んでくれる仲間が必要です。ですから「夢には仲間がいる。」というスローガンを掲げ、実際に企業の方と話をすることでわれわれの意図をお伝えしています。

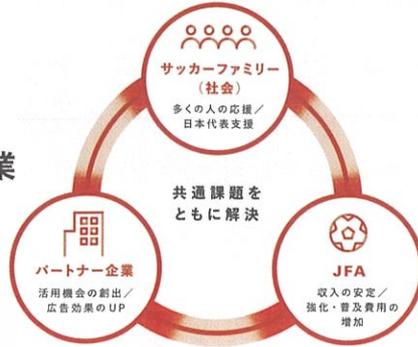
——いわゆる「スポンサー」のような金銭的なサポートとは少し異なるということでしょうか。

茂木 現在、日本サッカーは非常に良いサイクルが構築されており、グラスルーツの活動でサッカーの裾野を広げ、そこから良い選手が出てきて、代表チームの強化や指導者のレベルアップにつながっています。例えば、日本代表戦で看板広告を出して企業名や商品名を露出させるだけでなく、グラスルーツの活動から連携していくことで、その企業のブランドインパクトを生み出したり、価値創造ストーリーを生み出したりすることがあります。

【図2】価値共創の考え方

社会課題、企業課題に対しサッカー（スポーツ）でアプローチする

JFA
×
パートナー企業
×
社会



サッカー版 三方よし

社会課題の解決を促し、社会にポジティブなインパクトを起こす、そしてサッカーファミリーへの提供価値を最大化する、そういったことがこのプロジェクトの趣旨です。単純な広告的価値にとどまらない、意義のある活動だと思っております。現在のパートナーシップの形になって約2年半が経過しましたが、パートナー企業の皆さまの理解が深まり、

社会課題の解決は
終わりのないテーマ

——あらためて、6つの階層(図1参

照)についてご説明をお願いします。茂木 事業範囲を4つに区分し、パートナーシップの階層をティア1〜6の6つに振り分けています。ティア1のJFAオフィシャルトツパートナー(キリンホールディングス株式会社)とJFAオフィシャルサプライヤー(アデイドスジャパ株式会社)は、JFAのほぼ全ての事業範囲で連携しています。続くJFAメジャーパートナーは、日本代表の事業に加えて非大会事業も対象として、さまざまな価値共創活動を実行できる範囲で連携しています。

以前であれば、企業の方とパートナーシップの話をする際、宣伝部や広報部の方が窓口となるケースが多かったんですが、今は事業部門やサステナビリティを担当される方などと話をする機会も増えていて、いろいろな人たちを巻き込みながら、より深く取り組んでいる実感がありません。

「JFAナショナルチームパートナー」は日本代表での活動、「JFAコンペティションパートナー」はJFA主催大会での活動が中心です。ティア4の「JFAソーシャルバリューパートナー」は事業を特定して価値共創活動を進めるパート

「健康」「教育」「地域」の5つの領域とそれぞれ連動する形にしています。基本的には、このパートナーシッププロジェクトで何を指したいかといったことや企業が抱えている課題などをヒアリングし、JFAの各事業の課題とすり合わせる中で連携する領域を決めていくイメージです。各領域で協賛内容を定めているのではなく、企業とJFAの双方でコミュニケーションを取りながら双方のニーズを合致させて、取り組む内容をカスタマイズしています。

「非大会事業では、JFAが展開するサステナビリティ活動「アスパス!」とも連動しているのでしょうか。」

茂木 そうですね。JFAソーシャルバリューパートナー契約をする際にテーマや領域を定めるのですが、それを「アスパス!」の「環境」「人権」「健康」「教育」「地域」の5つの領域とそれぞれ連動する形にしています。基本的には、このパートナーシッププロジェクトで何を指したいかといったことや企業が抱えている課題などをヒアリングし、JFAの各事業の課題とすり合わせる中で連携する領域を決めていくイメージです。各領域で協賛内容を定めているのではなく、企業とJFAの双方でコミュニケーションを取りながら双方のニーズを合致させて、取り組む内容をカスタマイズしています。

「パートナー企業ごとに特徴的な取り組みが見られるのはその理由からですね。」

茂木 サッカーファミリーへの提供価値はもちろんですが、いかにして「社会」とつなげるメリットや良い効果を生み出すかということも常

に考えています。社会課題の解決とは、終わりのないテーマで、何かを解決しても、また新たな課題が生まれてくる。そういう意味ではパートナーシップは今後も広がっていくのではないかと考えています。

「契約しているのは企業だけでなく、企業ブランドもあります。」

茂木 株式会社資生堂の日焼け止めブランド「ANESSA(アネッサ)」や花王株式会社の衣料用洗剤ブランド「アタック」などですね。アネッサは、ブランドパーパス「Free to Shine...太陽のもと、誰もが輝き続けられる世界へ」の実現を目指して「ANESSA Sunshine Project」を進めています。その趣旨と合致したことから契約に至りました。子ども向けのサッカーのイベントな

「パートナーシッププロジェクトの名称について、「夢の実現に向けて一緒に考え、歩んでくれる仲間を募り、その実現性を高めていきたい」と茂木部長は話す

「健康」「教育」「地域」の5つの領域とそれぞれ連動する形にしています。基本的には、このパートナーシッププロジェクトで何を指したいかといったことや企業が抱えている課題などをヒアリングし、JFAの各事業の課題とすり合わせる中で連携する領域を決めていくイメージです。各領域で協賛内容を定めているのではなく、企業とJFAの双方でコミュニケーションを取りながら双方のニーズを合致させて、取り組む内容をカスタマイズしています。

「健康」「教育」「地域」の5つの領域とそれぞれ連動する形にしています。基本的には、このパートナーシッププロジェクトで何を指したいかといったことや企業が抱えている課題などをヒアリングし、JFAの各事業の課題とすり合わせる中で連携する領域を決めていくイメージです。各領域で協賛内容を定めているのではなく、企業とJFAの双方でコミュニケーションを取りながら双方のニーズを合致させて、取り組む内容をカスタマイズしています。

「健康」「教育」「地域」の5つの領域とそれぞれ連動する形にしています。基本的には、このパートナーシッププロジェクトで何を指したいかといったことや企業が抱えている課題などをヒアリングし、JFAの各事業の課題とすり合わせる中で連携する領域を決めていくイメージです。各領域で協賛内容を定めているのではなく、企業とJFAの双方でコミュニケーションを取りながら双方のニーズを合致させて、取り組む内容をカスタマイズしています。



JFAと株式会社みずほフィナンシャルグループで実施している「BLUE DREAM 未来スクール」。少人数制サッカーのsmall sideゲームと座学のワークショップを組み合わせたイベントとして展開



「JFA | ANESSA キッズイベント for ANESSA Sunshine Project」を開催。多くの親子が参加し、サッカーを楽しみながら紫外線対策にも目を向ける機会となった

どを通じて外遊びやスポーツの楽しさを伝えるとともに、屋外で安全に遊ぶための紫外線対策も推進していこうとしています。昨年6月には高円宮記念JFA夢フィールド（千葉県）で「キッズイベント」も実施しました。

また、アタックのブランドスローガンは「まつさらな衣類で新しい1日をはじめよう」で、今、高円宮記念JFA夢フィールドを舞台にしたテレビCMが流れています。各種事業でのユニフォームなどの洗濯でも大変お世話になっています。選手が清潔で快適なウェアでプレーできるようにサポートしていただきながら、環境に配慮しているア

タックを使うことで、共にサステナブルな社会への貢献を目指しています。

——JFAソーシャルバリューパートナー契約はますます拡大していきますそうですね。

茂木 いわゆる競合他社を省くような、独占型の契約形態にはしていません。社会課題の解決やサッカーファミリーへの提供価値の最大化というのを主眼に置いていますので、なるべく多くの企業やブランドとコラボレートしていきたいと考えています。

パートナー企業が連携し より有意義な取り組みへ

——今年も多くの価値共創活動が行われています。

茂木 多くのパートナー企業と共に多岐にわたる活動を進めることができています。その中で、キリンさんと展開する取り組みの一つに「キリンファミリーチャレンジカップ」があります。「家族がチームになる日」をコンセプトとしたウォーキングフットボールイベントで、幅広い年齢の人たちが、家族や仲間とチームを組んでウォーキングフットボールを楽しみ、大切な人たちとのつながりや絆を深めています。おじいさん、おばあさんがお孫さんと一緒にプレーできたことをとても喜



「JFAとしてはサッカーを選んでもらえればうれしいが、子どもたちの心身の健やかな成長にとってさまざまなスポーツを経験することにも意味がある」と茂木部長。パートナー企業と連携してマルチスポーツイベントも開催する

んでいたりと、このイベントをきっかけに家族で運動したりするようになったといった声が届いています。

また、KDDI株式会社とは、「小学校体育サポート JFA KDDI DREAM KIDS PROJECT」と題した共創プロジェクトを進めています。このプロジェクトでは、「体育の授業を教えるのは難しい」「体育の授業に参考になる動画があれば活用したい」と感じている教員の方々に対して、14年からJFAが対面でのみ実施していた研修会を初めて動画としてまとめ、公式ウェブサイトに無料で公開しました。教員の方々の授業準備の負担を軽減しながらも、より良い体育の授業を実施いただくことで、子どもたちが楽しみながら

体を動かし、基礎体力向上のきっかけづくりになればと考えています。

これらの活動はほんの一部ですが、こういった活動はサッカーの競技人口を増やすだけでなく、社会課題の解決につながるという意味でも意義深いと感じています。

——パートナー企業の皆さんを集め、価値共創ワークショップも実施していますが、その目的は？

茂木 23年5月から年2〜3回実施しており、今年6月に6回目のワークショップを開催しました。パートナーシップの事例紹介やJFAからの情報提供を中心に、JFAが持つアセットや事業などいろいろなことを目に向けてもらう機会にしています。また、グループワークの時間も設けていますので、パートナー企業同士の連携のきっかけになればとも考えています。横の連携が強くなればそれぞれの活動も広がり、より大きな社会活動になっていくのではないかと考えています。

——今後、価値共創活動をどのように発展させていきたいとお考えですか。

茂木 社会にとって良い活動ができていると自負していますが、課題や踏み込めない領域もありますので、さ



第6回価値共創ワークショップは「サステナビリティ」がテーマに。茂木部長は「パートナー企業のいろいろな部署の方にも参加いただけているので、今後も継続していきたい」と語る

らに活動を広げていきたいですね。新規のパートナー企業も随時募集していますし、営業活動も引き続き行っていきたいと考えています。同時に、価値共創活動の成果や効果について、SROI（※2）などを用いて可視化し、JFAが分かりやすく世の中に実績を示していくことも大事だと思っています。

サッカーの力があれば、サッカーファミリーを含め、社会に良い影響を与えることはできるはずですが、サステナビリティの推進も含め、価値共創活動を通じてより良い社会の実現を目指していきます。

※2 社会的投資収益率/社会的活動を行う組織体で用いられる成果および業績を数量化した測定する指標の一つ

JFA PARTNERSHIP PROJECT for DREAM
～サッカーを通じた価値共創の詳細はこちら
<https://www.jfa.jp/partnership/>





アスパス!

日本サッカー協会 (JFA) では社会貢献やSDGsの達成につながる活動を「アスパス!」と称し、サッカーファミリーの皆さんと一緒に取り組んでいます。

「アス」には、「明日 (=未来)」、「us=私たちにできること」、「Earth=地球」の3つの意味を込めています。

次の100年のサッカーが今と同じく健全に、安全に、多くの人々により楽しまれ、

JFAの理念・ビジョンが体现されていることを目指し、全てのサッカーファミリーが世代や時代を超えて

“パスを繋いでいく”という強い決意を込めています。



アスパス!で取り組む5つの大切なこと

環境

サッカーにおける様々な活動で気候変動による熱中症等を防ぎ温室効果ガスや廃棄物の削減でわたしたちの自然環境を守るう

人権

差別や暴力のない自由で平等なスポーツの世界を一緒に築いて年齢・性別・障がいの有無等に関係なく輝ける社会をつくらう

健康

スポーツの楽しさを感じられるグラスルーツサッカーを広めて心身ともに健康的でいつまでも元気で笑顔溢れる人生を送ろう

教育

スポーツで社会をよくするため必要な知識や技術を身につけてサッカーが持つ魅力を活かした持続可能な未来を築いていこう

地域

持続可能性に配慮して行動する地域の人々の様々なつながりをサッカーを通じてつくることで私たちの住みやすい街を守ろう



アスパス JFA 検索
活動内容などは「アスパス JFA」で検索

JFA STORE (日本サッカー協会 公式オンラインストア)
アスパス!みんなで一緒にサッカーを楽しむグッズはこちら



読者プレゼント

応募締切：2025年9月18日(木)当日消印有効

アディダス ジャパン(株) 提供

日本サッカー協会のオフィシャルサプライヤーであるアディダス ジャパン(株)より、「フットボールグリップニットクルーソックスCU(Mサイズ)」を1名様にプレゼント。



JFA STORE 提供

「JFA STORE」は、日本代表のグッズなどがそろったJFAのオフィシャルeコマースサイトです。さまざまなシーンや目的に合わせてグッズを確認できるページに加え、特集ページもご用意しました。

今号では「サンリオ マスコットボールチェーン サッカー日本代表Ver.」全11種のうち3種を各1名様(マスコットの種類は選べません)にプレゼントします。



<https://official-store.jfa.jp/>

JFA STORE



プレゼント応募方法

■Web

プレゼント応募URL

<https://forms.gle/9Ah81qpXN4bXou5T9>

上記URLもしくはQRコードよりアクセスしてご応募ください。



■はがき

〒112-0004

東京都文京区後楽1丁目4-18 トヨタ東京ビル
公益財団法人日本サッカー協会 コミュニケーション部
「JFAnews プレゼント応募」係

①名前、②郵便番号・住所、③電話番号、④希望プレゼント名、⑤JFAnewsのご感想・ご意見などを明記の上、郵送でお送りください。

当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。発送は2025年10月中旬から下旬の予定です。

※収集した個人情報は厳重に管理し、他の目的には使用しません。また、お送りいただいたはがきは返却しません。

JFA公式アプリ JFA Passport

全てのサッカーファミリーのためのJFA公式アプリです。

- 会員限定で参加できるイベント情報が満載
 - アプリでしか見られないオリジナル動画を配信
 - お得なクーポンやプレゼント情報を紹介
- <https://www.jfa.jp/jfapassport/>



【サッカークイズを毎月更新中】

8月のトピックス予定：

日本サッカーの歴史を学ぼう

SAMURAI BLUEクイズも出題中

◎サッカーのルールを学べるクイズも配信中！

JFA DREAM FUND

JFAの基金窓口を開設。寄せられた寄付金はJFAの理念やビジョンに基づき、主にサッカーの普及や日本代表のさらなる強化に使用します。

<https://jfa.jp/dream-fund/>



JFAクラウドファンディング

~みんなの夢を応援しよう！

JFAがCAMPFIREと共に提供するサッカーに特化したクラウドファンディングサイトです。

<https://jfa.camp-fire.jp/>



<起案者のメリット>

- ✓ お得にクラウドファンディングを実施できる
- ✓ サッカー専用の無料セミナーがあり、初めてでも安心して始められる
- ✓ サッカーに関心がある人が集まるJFA公式サイトに掲載できる

<支援者のメリット>

- ✓ さまざまなサッカー活動の夢と挑戦を応援することができる
- ✓ サッカーに関連するリターンを得ることができる

公益財団法人日本サッカー協会 機関誌

JFA news

発行人：湯川和之

発行所：公益財団法人日本サッカー協会

〒112-0004

東京都文京区後楽1丁目4-18 トヨタ東京ビル

TEL.050-2018-1990(代)

URL <https://www.jfa.jp>

監修：公益財団法人日本サッカー協会 コミュニケーション部

編集：編集長 多田寛

JFAnews編集部 / (株)ウォールニクス

印刷：サンメッセ(株)

定価：600円/本体545円

次号2025年9月情報号は、2025年9月17日発売予定

[特集]子どもとフットボール(仮題)

※特集テーマ・内容は変更となる場合があります

ご購入のお知らせ

・インターネットからのご購入

https://req.qubo.jp/jfa_coach/form/entry

・年間購読

JFAnewsの年間購読料は、送料・税込みで1年間(12冊)5,000円で、

年間2,200円お得です。

ご希望の方は上記URLよりお申し込みください。

チーム登録をされているご購入者さまへ

JFAnews発送における住所変更、名義変更を希望される場合は、

JFA公式ウェブサイトの「JFAへの登録」よりJFA IDシステムに

ログインしていただき、変更をお願いします。

<https://www.jfa.jp/registration/>





サッカーのチカラで、
日本中を笑顔に。



KIRIN キリンはサッカーを愛するすべての人を応援しています。

2024年11月SAMURAI BLUE招集メンバー/2024年10月までこじヤパン招集メンバー/©



発行人 湯川和之
発行所 公益財団法人日本サッカー協会

〒112-0004
東京都文京区後楽1丁目4-18 トヨタ東京ビル
電話050(2018)1980(代)



アスパズ!

定価600円(本体545円)